

湘南医療大学薬学部医療薬学科  
学生確保の見通し等を記載した書類

学校法人 湘南ふれあい学園

## 内容

学生の確保の見通し等を記載した書類 .....	1
(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況 .....	1
1 学生の確保の見通し .....	1
2 学生確保に向けた具体的な取組状況(予定含む) .....	10
(2) 人材需要の動向等社会の要請 .....	12
1 人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要) .....	12
2 上記1が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠 .....	13
(追加 1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況 .....	24
(1). 高校生に対する「薬学部医療薬学科(仮称)」設置構想に係るニーズアセスメント調査【学生確保の見通し】結果(再検証) .....	24
(2). ニーズアセスメント調査結果による薬学部進学需要を推計 .....	26
(3). 神奈川県内の 18 歳人口及び大学進学率等の推移から薬学部入学者数を推計 .....	28
(4). (1)～(3)の結果を踏まえた、学生確保の見通しと入学者の学力の担保について .....	29
(追加 2) 人材需要の動向等社会の要請 .....	30
(1). 湘南医療大学「薬学部医療薬学科(仮称)設置構想に係るニーズアセスメント調査【人材需要に関するアンケート調査】結果(再検証) .....	30
(2). 薬剤師の社会的ニーズ: .....	31
(3). 調剤医療費の推移による薬剤師の需要 .....	35
(4). 全国における薬剤師確保の状況 .....	35
(5). 神奈川県における薬剤師確保の状況 .....	36
(6). 薬事関係 .....	37

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

#### 1 学生の確保の見通し

##### 1) 定員設定の考え方

2015(平成27)年に開学した湘南医療大学は、本学の建学の理念である、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」に則り、優しさと思いやりの教育を実践規範として、生命の尊厳並びに社会への奉仕の精神を会得し、全ての人々の幸福に役立つ人材を養成することを目指している。

薬学部では、建学の理念に則り、医療人としての責任感、使命感、倫理観及び薬学の専門知識・技術を身につけ、患者や治療方法の多様なニーズに対応し、多職種協働によるチーム医療に積極的に参画できる薬剤師を養成し、地域社会はもとより、国際社会の発展に貢献できる者の育成を人材養成の目的及び教育研究上の目的とする。

また、薬学部は、理念及び学部の目的に共感し、自ら興味や関心をもって主体的に学び、薬学の専門職業人になるという強い意志を有して成長できる医療人となれる資質、能力、意欲を有する学生を広く受け入れる。

薬学部の入学定員の設定は、以下にその根拠を述べる、社会的ならびに政策的動向、私立大学の当該分野を取り巻く一般的な志願状況、本学の医療系学部の志願状況、及び教育研究の充実の観点から、入学定員 130 人、収容定員 780 人とした。入学定員および収容定員の設定にあたり、以下の 2) にその根拠を示すとともに、3) に客観的データとして、本学園が株式会社高等教育総合研究所に委託して実施したアンケート調査【資料 14】の分析結果、本学薬学部医療薬学科(仮称)への進学希望において、「合格した場合、入学したい」と回答した者が 149 人であったことを受け、これらの定員充足の見込みを前提として、募集人数の妥当性と受験生確保の見込みを総合的に勘案した。

問 9 あなたは湘南医療大学が設置構想中の「薬学部医療薬学科(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。	実数
1. 合格した場合、入学したい	149 人
2. 合格した場合、併願大学の結果によっては入学したい	66 人
計	215 人

## 2) 定員充足の見込み

### ア) 社会的ならびに政策的動向

公益社団法人日本薬剤師会 薬剤師の将来ビジョン（公益社団法人日本薬剤師会）の中で、今後予測される社会背景における薬剤師は、①在宅医療への取り組みを強化し地域包括ケアシステムの中で役割を果たすこと、②後発医薬品の使用促進や重複投薬の防止、残薬や不要薬等の発生防止、処方提案、副作用による緊急入院の未然防止等を通じ、医療費、とりわけ薬剤費の節減・無駄の防止に貢献すること等は、必然の方向性であると見解を述べている。特に、本学は、神奈川県、静岡県、東京都を中心にふれあいグループ関連 17 病院、保健医療福祉分野 80 以上の連携施設があり、地域医療の発展に関わる人材を養成する医療系学部を有する大学として、その社会的使命を果たす役割は極めて大きい。

今日求められている薬剤師は、「在宅医療」の中核をなす、かかりつけ薬剤師、そして、「臨床」の中核をなす、病院薬剤師、の両輪によって実現すると考えられる。

特に地域包括ケアシステムでは「かかりつけ薬局・薬剤師」が、かかりつけ医等と連携しながら、一体的に地域住民に健康の維持・増進を図りつつ、相談役と、医療必要時の適切な薬物療法の提供を行い、住民の安心・安全な生活の確保に貢献することが求められている。その実践こそが地域的発信力の強化へとつながると考える。

また、横浜市は、東京都に次ぐ大都市でありながら、2025 年には 230 万人程度の高齢人口を抱えて、外国籍県民が増加する多様な文化が共存する国際都市である。本学の教育がこの横浜市を拠点として行われることは、神奈川県の地域社会の基盤から多様な生活環境において「健康生活」を発展させる上でも非常に大きな強みを発揮できるものとする。

### イ) 中長期的な 18 歳人口の動向（全国的動向）

全国の 18 歳人口と高等教育機関への進学率の推移を概観するため、「18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」の数値の分析【資料 1】によれば、18 歳人口は年々減少しており、2017 年では約 120 万人であるが、薬学部の開学年度である 2021 年には約 114 万人まで減少する予想である。その一方で、大学(学部)進学率は 2015 年の 48.9% (522,656 人) から 2019 年の 50.0% (527,776 人) へと 1.1P (+5,120 人) と緩やかに上昇しており、18 歳人口の減少がそのまま大学(学部)進学率及び進学者数に直結していない状況である。

### ウ) 中長期的な 18 歳人口の動向（地域的動向）

首都圏の 18 歳人口の推移は全国とは違う傾向にある。【資料 2】に示すとおり、首都圏の 18 歳人口は、2014 年度から多少の増減はあるものの約 30 万人を保持しており、

グラフからも大幅な減少はないことが分かる。この結果より、首都圏において18歳人口は中長期的に安定していると考えられる。

また、リクルートカレッジマネジメント191号（Mar-Apr. 2015）で、学校基本調査における「出身高校の所在地県別大学入学者数」をベースとした2025年都道府県別大学入学者予測を算出している（表1）。それによると、神奈川県は、2014年の自県大学出身者の割合は35.1%、18歳人口減少率-1.2%、すなわち、1.2%の増加である。その割合をベースとした2014年から2025年にかけての大学入学者減少率の予測では、大学入学者減少率は7%（全国平均10.7%）、神奈川県の高校出身者減少率は-1.1%（全国平均7.5%）、他都道府県高校出身者の減少率は、11.4%（1.1%の増加）（全国平均13.1%）である。

神奈川県出身者の神奈川県内の大学入学者割合は、少子化にも関わらず1.1%増加する。また、他県からの出身者は、全国平均よりも1.7%低い減少率に留まることが予測され、神奈川県内の大学は少子化の影響を受けにくいことが推察される。

表 1: 神奈川県大学入学者予測

神奈川県	2014年3月現在	2025年予測（2014年3月比）
大学（学部）入学者数 （内訳）	35,591人	<u>33,100人（-7.0%）</u>
神奈川県の大学（学部）入学者で神奈川県出身者（割合）	12,492人（35.1%）	<u>12,884人（+1.1%）</u> = 33,591人 × 36.2%（35.1% +1.1%）
他都道府県からの大学（学部）入学者	23,099人 = 35,591人 - 12,492人	<u>20,216人</u> = 33,100人 - 12,884人

※リクルートカレッジマネジメント191号（Mar-Apr. 2015）出典

エ) 私立大学の当該分野を取り巻く一般的な志願状況

①全国の薬学系私立大学に関する入学志願者動向

全国の薬学系私立大学に関する志願者動向を概観するために行われた、「平成24（2012）年度及び平成31（2019）年度私立大学・短期大学入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）の分析によれば、平成24（2012）年度から平成31（2019）年度の志願者数は、私立大学全体では、1,227,300人増加し、薬学部では、6,470人（+0.73ポイント）伸びている。【資料3】

また、2019（平成 31）年度の私立大学薬学部の志願者数は、前年比 93%の 89,223 人へと 6,785 人減少しているものの、2019 年度の全国私立薬学部の入学定員 11,356 人に対する志願者倍率は、平成 24 年度の 7.13 倍よりも高い 7.86 倍を確保しており、医学部を除く医療系学部である、歯学部 4.90 倍、保健系学部 5.26 倍に比べて高い倍率であった。

このように、薬学部へのニーズは、少子化傾向が続く中においても、薬学部の志願者動向は依然高い水準を維持しており、「医療」を前面に打ち出した本薬学部医療薬学科の設置は、私立大学薬学部の志願状況及び地域包括医療の観点からも、十分な条件のもとに安定的に志願者を集めることが見込まれる。

## ②神奈川県内高校生の入学志願者動向

文部科学省令和元年度「学校基本調査」によれば、平成 31 年度の全国の大学（学部）進学者数は 527,457 人であった。そのうち、薬学系の学科別入学者数は 10,613 人となっており、全体の 2%を占めていることが分かる。【資料 4】。

令和元年度神奈川県学校基本統計（学校基本調査報告書）統計表 146 学科別進路別卒業生数より、神奈川県内の平成 31 年度高等学校（本科）の卒業生総数は 66,605 人で、前年度より 366 人（0.6%）増加しており、うち、大学（学部）進学者数は 40,427 人である【資料 19】。

神奈川県内の高校生の薬学部進学者数の動向を全国と同比率で推測すると、神奈川県内の高校卒業生の全体の 2%にあたる 809 人が薬学部に入學していると考えられる。

## オ) 新設学部等の分野（薬学）の動向

### ① 近隣大学の志願動向について

（省略）

上記から、同倍率（45.9%）で関東圏からの入学者数を予測すると、合格者 665 人中、306 人が関東圏からの入学者であると推計できる。

それにより、神奈川県内の薬学部を志願する学生の多くは、東京都あるいは関東圏内の薬学部に進学していると想定される。【資料 18】

※実質倍率＝受験者数÷合格者

## ② 競合が予測される大学の状況

(省略)

## 3) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

本学は、平成 27 年度の開学以来、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士の資格取得で実績をあげ、地域社会の保健医療福祉教育の分野で貢献できる人材を輩出している。過去の本学の入学者の出身地を見ると、神奈川県、静岡県、東京都の 1 都 2 県出身者が 8 割以上と大部分を占めている【資料 18】

その結果から、決して全国型の大学ではなく、地域に根ざした大学であることが分かる。よって、本学薬学部に入学者の出身地比率においても、同様の傾向が想定される。

こうした出身地構成を念頭に、本学薬学部に関する高校生の進学意向等を把握し、今後の計画推進を目的として、神奈川県、静岡県、東京都及び、薬学部が設置されていない都道府県で、神奈川県の近隣である山梨県、長野県の 1 都 4 県の高校生を対象とした「湘南医療大学新学部（薬学部医療薬学科（仮称））設置構想に係るニーズアセスメント調査」を株式会社高等教育総合研究所に委託して以下のとおり実施した。

- 調査名称：湘南医療大学「薬学部医療薬学科（仮称）」設置構想に係るニーズアセスメント調査【学生確保の見通しに関する高校生アンケート調査】【資料 14】
- 調査期間：2019年9月～2019年12月  
調査対象：既設学部で受入実績の多い1都2県及び神奈川県に隣接する山梨県、長野県の高校、計1都4県の409校の高等学校2年生へ実施を依頼。実施の承認が得られた69校にアンケートを送付。
- 調査内容：質問項目11問（全て選択式）
- 主な質問：高等学校卒業後の希望進路、進学希望分野、湘南医療大学薬学部医療薬学科への入学希望 等
- 有効回答数：67校、6,358件、回収率84.0%

調査にあたっては、学部学科の名称、本学の理念、養成する人材像、特色、主な授業科目、大学の位置、学費・奨学金、卒業後の進路等を記載した【資料 15】の情報を明示した上で、アンケート調査を実施した。

本調査結果によれば、進学に興味ある分野では、第1希望が、「医療系」と回答した者が1,320人（20.8%）と自然科学系に次いで高い結果であった。さらに、本学薬学部への受験希望については、「受験したい」が215人、「薬学部 医療薬学科（仮称）」に合格した場合、「入学したい。」と回答した者は149名であった。

なお、本調査は、既設の学部等受入実績の多い、地元神奈川県、静岡県、東京都の高等学校全日制定時制高校62校（1都2県の全高等学校802校の7.73%）、及び神奈川県に隣接し、薬学部未設置県である、山梨県、長野県の5校（山梨県、長野県の全高等学校142校の3.52%）の高等学校2年生の一部を対象としたサンプル調査である。調査対象とした高等学校以外からも本学薬学部への進学希望者がいることを想定すると、実際には、本学薬学部の入学定員130名を大きく上回る進学希望者が予測されるため、入学の確保は十分に可能であると考えられる。

上記各事項の状況をまとめると、

- (ア) 神奈川県、静岡県、東京都、山梨県、長野県の高等学校2年生対象の「湘南医療大学新学部（薬学部医療薬学科（仮称））設置構想についてのアンケート調査」により、本薬学部入学希望者数149人、受験希望215人であること。
- (イ) 横浜薬科大学の総受験者の約3/4にあたる2,285人は、関東圏受験者（地区別受験者率75.6%）であること。

(ウ)横浜薬科大学、昭和薬科大学、昭和大学 3 校の過去 3 ヶ年間の平均実質倍率は 3.3 倍。また、2019 年度の 3 校の一般入試の平均志願倍率は 4.26 倍であり、3 校とも安定した倍率を維持していること。そして、3 校の平均年間受験者総数は、6,902 人であること。(横浜薬科大学 2,920 人、昭和薬科大学 2,260 人、昭和大学 1,722 人)

(エ)2025 年の神奈川県内の高等学校卒業生数予測計 33,100 人の内の、2% (現在の薬学部入学者割合) である 662 人が薬学部に入学する学生数であることが予測される。それにより、3 校の平均実質倍率 3.3 倍から割り出す潜在的薬学部志願者数は、2,185 人位にのぼると考えられること。

注) (イ) 平成 30 年度の首都圏大学進学者総数に対する 1 都 3 県の割合は、埼玉県 20%、千葉県 16%、東京都 40%、神奈川県 24%である。

\*平成 30 年度学校基本調査の都道府県別大学進学者数から割合を算出。

以上、湘南医療大学「薬学部医療薬学科 (仮称)」設置構想に係るニーズアセスメント調査」及び、競合校として考えられる 3 校の入学定員 (横浜薬科大学 340 人 昭和薬科大学 240 人 昭和大学 200 人 計 780 人) を踏まえ、入試状況、入学者数等の推移を分析した結果、本学薬学部の入学定員を 130 名の学生確保は、充分可能であると考えられる。

その他、教育の質保証の観点から、下記事項を検討して入学定員を設定した。

- 専任教員一人当たりの学生数を 20 名以下に抑え、少人数のチュートリアル学習、グループ学習、ゼミ形式など授業方法によって、学生一人ひとりに決め細やかな学習指導を行い、教育の質を保証できる入学定員を設定すること。
- 2019 年度全国私立大学 6 年制薬学部 (56 大学 57 学部 62 学科) 【資料 17】の 1 学科あたりの平均入学定員 171 名 (収容定員 1,026 名) を下回る入学定員を設定すること。

入学定員 130 名の場合は、学生 17.3 名あたり 1 名の専任教員 (収容定員 780 名、専任教員 45 名) を配置することができる。教育の質保証の観点から、全員卒業、全員国家試験合格を達成できる入学定員として妥当であると考えている。

#### 4) 学生納付金の設定の考え方

本学薬学部医療薬学科の学生納付金の設定にあたり、関東圏という地域性を考慮し、競合が予測される横浜薬科大学、昭和薬科大学及び昭和大学薬学部 (以下「競合校」という。) の 2019 年度学生納付金 (表 2)、及び薬学部の収支バランスを勘案した。本学薬学部の学生納付金は、安定して学生を確保している競合校よりも低い金額設定であり、このことも本学薬学部の入学定員の充足を確信する一の要因であると考えられる。

表 2 : 本学薬学部及び競合校の学生納付金一覧

初年度学生納付金:2,280,000 円

(単位:円)

	入学金	授業料	施設維持費	教育拡充費	合計
湘南医療大学 薬学部	330,000	1,450,000	500,000	0	2,280,000

尚、2年次以降の学生納付金は、授業料1,450,000円、施設維持費500,000円とする。

(単位:円)

競合が予測 される大学名	入学金	授業料	施設設備費	教育拡充費	合計
横浜薬科大学	400,000	1,900,000	400,000	50,000	2,750,000
昭和薬科大学	350,000	1,380,000	600,000	0	2,330,000
昭和大学 (薬)	600,000	1,400,000	600,000	0	2,600,000
平均	450,000	1,560,000	533,000	17,000	2,560,000

※各大学のHP参照 (注) 施設設備費の名称は、大学によって名称が若干異なる。

#### 5) 既存学部等の学生確保の状況

##### ① 既存学部の定員充足状況

本学既存学部である保健医療学部看護学科及びリハビリテーション学科の入試情報は、【資料9】によれば、2016年から2019年までの4年間の平均入学定員超過率は、保健医療学部1.09(看護学科は1.10、リハビリテーション学科1.08)であり、同様の医療系学部として定員を充分満たしている。

薬学部も、保健医療学部と同様の募集体制を進めていく方針であるため、充分定員を満たせることができると考えられる。

##### ② 学生確保に関する統計

受験生に選ばれる大学の調査統計の代表的な下記の指標を既存保健医療学部の評価の一端を示すデータとして整理した(表3)。全般的に本学の教育内容の優位性は他大と比較しても高いと考えられる。

##### 【指標内容】

- ・入学時に関する項目 ①志願倍率 ②オープンキャンパス参加者倍率
- ・在校時に関する項目 ③退学率 ④新入生退学率 ⑤在校生満足度(教育内容)
- ⑥卒業率 ⑦奨学金取得率 ⑧国家試験合格率 ⑨教員1人当たりの学生数

・卒業時に関する項目 ⑩就職率

表3：受験生に選ばれる大学の調査統計の代表的な指標一覧

項目	学科	割合	該当者数	全体数	計算式(×100)	備考
① 志願倍率	看護	6.5	80	516	2019年度 入学志願者数 2019年度 入学定員	平成31年度全国「保健医療学部」志願倍率4.41倍 ※平成31年度(2019)年度私立大学・短期大学等入学志願動向
	リハビリテーション	4.6	80	367		
② オープンキャンパス参加者倍率	保健医療学部	17.1	2741	160	2017年度 オープンキャンパス参加者数 2017年度 入学定員	朝日新聞出版「大学ランキング2020」の、オープンキャンパス参加者の倍率で国公立大学中 第11位。
③ 退学率	看護	1.7%	6	360	2018年度総退学者数 2018年度在学学生数	2018年度本学 退学率学科平均2.2% 2018年度横浜薬科大学退学率2.5%(在籍者数2,456人、退学者数62人)
	リハビリテーション	2.7%	9	330		
④ 新入生退学率	看護	1.2%	1	85	2018年度新入生退学者数 2018年度新入生	2018年度横浜薬科大学新入生退学率4.8%(在籍者数421人、退学者数20人)
	リハビリテーション	1.2%	1	86		
⑤ 在校生満足度(教育内容)	看護	86.6%	348	402	満足者数(1) 2018年度卒業生の中の有効回答数(2)	(1)卒業時アンケートの大学の教育内容にかかる下記設問6項目のうち、満足、どちらかといえば満足に回答した延べ数 (2)看護67人*6項目、リハ62人*6項目 項目1 共通教育科目、2 学科専攻の専門科目、3 臨床実習、4 卒業研究 5 就職支援、6 国家試験対策
	リハビリテーション	80.4%	299	372		
⑥ 卒業率	看護	82.0%	82	100	当該年度に所定の修業年限で卒業した者の数 4年前の大学学部(4年制)の入学者数	全国平均 78.1%(平成19年度) 横浜薬科大学27.4%(朝日新聞出版「大学ランキング2020」)
	リハビリテーション	71.3%	62	87		
⑦ 奨学金取得率	看護	47.2%	170	354	2018年度奨学金受給者数 2018年度在学学生数	日本学生支援機構の奨学金を利用している大学学部生(2.7人に1人)(37.03%)
	リハビリテーション	54.8%	181	345		
⑧ 国家試験合格率	看護	96.3%	79	82	2018年度国家試験合格者数 2018年度国家試験受験者数	全国平均 看護師国家試験合格率 89.3%
	理学療法士専攻	91.7%	33	36		全国平均 理学療法士国家試験合格率 81.4%
	作業療法士専攻	76.9%	20	26		全国平均 作業療法士国家試験合格率 76.2%
⑨ 教員一人当たりの学生数	看護	9.8	354	36	2018年度在学学生数 2018年度教員数	全国平均 15.5人 平成30年度大学教員数187,163人 学部・大学院学生数2,909,159人
	リハビリテーション	14.4	345	24		
⑩ 就職率	看護	100%	77	77	2018年度卒業生数 2018年度就職希望者数	「看護・保健・医療系」は92.6%(2019年) 大学通信:2019年学部系統別実就職率ランキング
	リハビリテーション	100%	41	41		

は全国より高い  
  は全国より低い  
  は独自調査

※④新入生退学率 横浜薬科大学 HP より抜粋

⑥卒業率 「所定の修業年限で卒業した者の割合」は修業年限が4年である大学学部の入学者数・卒業生数をもとに算出しており、4年以外の修業年限の学部や短期大学については含まれていない。文部科学省「学校基本調査」より作成(但し、平成19年度の数値は「学校基本調査速報」(2007)を使用)

⑨教員1人当たりの学生数 平成30年度学校基本調査より

## 2 学生確保に向けた具体的な取組状況（予定含む）

本学部のアドミッションポリシーに適った学生確保に向けて、全学体制の広報活動を展開し、高校訪問や進学ガイダンス等での対面形式でのプレゼンテーションによる情報提供の環境づくりを中心に、様々な広報媒体を活用しながら、地域に密着した医療系大学学部で学ぶ意義を幅広く伝える。具体的には次のとおり学生募集活動を行う予定である。

### 1) 広報体制

中長期的戦略ビジョン及び活動方針を決定する広報会議の決定に基づき、入試広報担当が実質的な広報活動を行う。

### 2) 具体的な広報活動

#### ①高校訪問

通学距離圏内である神奈川県、東京都及び静岡県東部地域の高等学校を定期的に訪問し、進路指導担当教諭に対して広報活動を行う。一方で、各年度の受験生の志望動向（大学進学率、進学先都道府県、志望取得資格、志望大学の分野・系統、選択する入試種別等）についての情報収集も行う。

また、上記に加えて、神奈川県内の大学進学実績の高い、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、長野県、山梨県及び新潟県の関東甲信越エリアへの募集活動に力を入れる。特に、茨城県、長野県、山梨県は、薬学部未設置県であるため、当該地域の動向を調査し、積極的に高校訪問を実施する予定である。

#### ②オープンキャンパス

既存保健医療学部では、年13回程度オープンキャンパス／入試説明会を開催している【資料11】。本学薬学部の特色、掲げるコンセプトや教育プログラム、また、薬剤師の魅力を分かりやすく伝えるプログラムを中心としたオープンキャンパスを実施する。また、医療現場の雰囲気が体感できる体験型模擬授業、本学の教育・研究の環境（実習室、講義室、図書館等）を見学するキャンパスツアー、キャンパスランチ、学生生活相談等を実施し、入学後の大学生活のイメージをより明確に持てるプログラムを構成している。

また、「入試対策中心の企画及び体験や学校見学が中心の企画」をそれぞれ年4回程度実施している。その理由として、本学の受験を既に考えている人とこれから進路を

決定する人とは区別して、最適なアプローチができる説明会とするためである。並行して、入試説明会や対策問題演習講座など実施し、入試の出題傾向と対策や募集要項の詳細とインターネット出願の注意点など、入試に向けより具体的な情報を発信する。

### ③職業体験会

隣接するグループ病院である「ふれあい東戸塚ホスピタル」において、職業体験ができる見学会を設ける。実際の現場で働く薬剤師から直接、業務内容、病院機能の説明、勤務体制などの話を聞き、質疑応答も出来る時間を体験し、薬剤師としての社会的役割など、将来の職業観と向き合える企画を実施する。

### ④「医療職キャリアデザイン説明会（保護者・高校教員向け説明会）」

入学後の不適合を防ぐために、進路選択時に影響を与える保護者や高等学校教員にも看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師の仕事内容や求められる資質などを説明する「医療職キャリアデザイン説明会」を開く。最新の医療や医療従事者の情報を伝え、子供や生徒の進路支援に役立ててもらふことを目的とする。

また、奨学金等、経済的支援に関する相談に対しては、参加者全員の意に添える情報提供ができる個別の相談環境を整えて、十分に理解してもらえる説明を行う。

### ⑤ホームページ

ホームページは、最新情報を随時更新する。近年、スマートフォンから閲覧して、資料請求にアクセスしている傾向が増加している。そのため、学生募集専用サイト（薬学部用）を開設し、スマートフォン対応ページの充実を進めると同時に、公式アプリやLINE等のSNSを活用した情報発信も併せて行う。

また、グループ関連病院・施設に従事する現役の薬剤師からのコメントの掲載や、グループ病院・施設のページとリンクするなど、関連部署と緊密に連携しながら、将来の薬剤師像をイメージできる構成にして、更なる充実を図る。

### ⑥進学情報媒体の利用

看護・医療系に特化した進学情報ウェブサイトや進学情報誌に本学の教育研究の最新情報を掲載して、受験生が、本学のホームページの閲覧から本学の説明会、看護・医療系進学ガイダンス、予備校イベントの参加につながるように促す。

受験対象の高等学校3年生だけではなく、1、2年生に対しても対面形式でのプレゼンテーションによる情報提供を行い、低学年からの学生募集の継続性を高める。

また、インターネット広告・公式 SNS 等のマスメディアによって幅広い世代に本学薬学部の認知度を高めることができる取り組みを行う。

#### ⑦ 出前授業

本学は、教員が中心となり、高等学校に出向いて専門的な内容を分かりやすく高校生に教授し、大学での授業がどのようなものであるかを理解してもらうために、「出前授業」を実施している【資料 10】。大学での授業や雰囲気や日ごろの授業では体験できない内容を出前授業で体験することによって、**高校生**に専門的な分野の内容や大学そのものに関心をもってもらい、医療分野への進路選択の一助となることを目的とする。

#### ⑧ 公開講座

湘南医療大学は、本学の教育及び教員の研究活動を広く社会に開放し、高校生から社会人までの方々を対象に、保健医療に関する教養を高め、地域医療、健康保健の向上に貢献することを目的に公開講座を実施している【資料 12】。2020 年度からは、薬学部設置に関連し、高校生にも「薬学・薬剤師」に関心向けられる内容として、「薬と健康」などをテーマとする公開講座の開催も予定する。

また、本学の強みであるグループ 17 病院施設と連携し、様々な医療従事者から医学講話や医療系進学講演会を開催して、医療系大学として地域に貢献する。

#### ⑨ 志願者動向分析業務

各活動において収集した情報を学内で一元管理し、進学者の動向（ファーストコンタクトから受験・進学まで）を分析する。また、公的機関、医療機関及び進学情報媒体業者提供の統計データから、受験生及び他大学の動向を分析し、募集活動の内容を絶えず考察しながら、受験生の確保に努める。

### (2) 人材需要の動向等社会の要請

#### 1 人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学は、その目的を以下のとおり定めている。

本学は教育基本法及び学校教育法と「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念に基づき、高度な知識と技術とともに、豊かな人間性を育み、創造的かつ実践的な教育

研究を通じて、地域社会に貢献することを目的とする。

そして、これに適合させる形で、薬学部医療薬学科における「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」を以下のとおり定める。

医療人としての責任感、使命感、倫理観及び薬学の専門知識・技術を身につけ、患者や治療方法の多様なニーズに対応し、多職種協働によるチーム医療に積極的参画できる薬剤師を養成し、地域社会はもとより、国際社会の発展に貢献できる人間を養成する。また、薬剤師国家試験全員合格を当然の目標として、早期から薬剤師業務への関心を高めるために、実習、及び研究活動を充実させることにより、地域医療に必要とされる薬剤師を育成する。

## 2 上記1が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

### 1) 神奈川県が構想する将来の医療提供体制 ～「神奈川県地域医療構想」～

日本の医療の高度化が進む中で医療社会における問題は急激な高齢化（表 4： 神奈川県の人口、表 5： 神奈川県の高齢人口（将来予測））に留まらず、対応すべき疾病も複雑に構造化している。このような時代背景において医療と介護の枠を越えた地域包括ケアシステムが動き出しているものの、地域完結型医療の進展において、臨床現場で医師をはじめとする多職種と協働して患者や利用者に対するケアの中核的役割をなす薬剤師等医療従事者は不足しており、その養成は大きな課題である。

それらの課題を踏まえて神奈川県では、神奈川県地域医療構想（平成 28 年 10 月策定）において、将来あるべき医療提供体制で次の 3 事項を掲げて取り組んでいる。

- ① 将来において不足する病床機能の確保及び連携体制の構築
- ② 地域包括ケアシステムの推進に向けた在宅医療の充実
- ③ 将来の医療提供体制を支える医療従事者の確保・養成

表 4： 神奈川県の人口

（単位：万人）

	人口	年少人口	生産人口	老年人口
神奈川県	918	111	570	229
3人口割合		12.2%	62.7%	25.1%

※ 神奈川県年齢別人口統計調査結果（神奈川県）平成 31.1.1 時点から抜粋

平成 31 年 1 月 1 日現在の神奈川県は、918 万人（全国 2 位）、老年人口は 229 万人（全国第 3 位）である。

表 5：神奈川県の高齢人口（将来予測）

（単位：万人）

	2010	2019	2040
高齢人口（65 歳以上）	183	229	292
2010 年比増減率		+25.1%	+59.6%

※ 神奈川県における高齢者を取り巻く状況 参考資料 3 から抜粋

神奈川県の高齢人口は、2010 年 183 万人から 2040 年には、292 万人、109 万人増加（伸び率は 59.6%）が予測されている。急進する超高齢社会である。

また同様に、内閣府資料「令和元年版高齢社会白書（全体版）4 地域別にみた高齢化（2018 年⇒2045 年の比較）」によると、平成 30 年（2018 年）を基準年として、都市規模別に 65 歳以上人口の推移をみると、神奈川県 25.1%⇒35.2% (+10.1%)、千葉県 27.5%⇒36.4% (+8.9%)、東京都 23.1%⇒30.7% (+7.6%) など、都市規模が大きいほど 65 歳以上の人口の伸びが大きい見込みであるとの見解を示している。

## 2) 地域的人材需要の動向

1) に記述したとおり、神奈川県は、高齢人口が今後最大 10.1%の伸びが予測されている中で、地域包括ケアシステムを見据え「在宅医療の需要増加、及びかかりつけ薬剤師・薬局の普及、定着を推進して、在宅医療を担う人材の確保・養成を進める。」

（神奈川県保健医療計画（第 7 次 平成 30 年度から平成 35 年度）より）としている。

しかし、平成 29 年度かかりつけ薬剤師・薬局機能調査・検討事業「かかりつけ薬剤師・薬局に関する調査報告書」（調査時期：平成 29 年 11 月 22 日～平成 30 年 2 月 9 日 回答薬局数：2315 件）によれば、在宅業務を行っていない薬局の 59%は、その理由として「薬剤師の人員不足」と回答している。また、薬局当たりの常勤換算の薬剤師数は 2 人以下の薬局が 48%を占めている。そのため、在宅医療を担う人材の確保が急務であり、今後、薬剤師が不足する地域が発生する懸念があることが伺える。

神奈川県の在宅医療支援薬局数は、713 件（2019 年 7 月現在、公益社団法人神奈川県薬剤師会）である。薬局数は、3,824 件（2018 年現在）であるため、約 5.4 薬局に 1 件の割合である。

本学既存の保健医療学部は、過去 4 年間で、神奈川県の外に静岡県 327 人、山梨県 21 人、長野県 61 人など、隣県の受験生が多数いる。そのため、薬学部生の募集に関しても、静岡県や山梨県など、病院診療所に勤務する薬剤師の割合が少ない県については、県境を越えて地域枠を設けるなどして、地元の地域医療に貢献できる薬剤師を卒業後に還元でき、人材需要に応えることができると考える。

### 3) 神奈川県、静岡県、山梨県、長野県における病院・診療所薬剤師の需要

人口 918 万人を抱える神奈川県内に薬学部を設置している大学は、1 校しか存在しない。関東圏の薬剤師養成教育において地域的に偏重がみられる（東京都 11 薬学部、千葉県 6 薬学部、埼玉県 2 薬学部）。また、神奈川県に隣接する静岡県は、1 薬学部、さらに山梨県及び長野県においては、薬学部は設置されていない。

平成 28 年 神奈川県衛生統計年報統計表の「医師数、歯科医師数、薬剤師数調査」及び「就業場所別調査」（平成 28 年度実施）（表 6）の結果から、神奈川県における薬剤師の人数は、2006 年（16,507 人）から 2016 年（22,104 人）の 10 年間で、33.9%（5,597 人）増加した。（人口 10 万人対全国平均 237.4 人）

また、神奈川県内の薬剤師数 22,104 人（人口 10 万人対 241.7 人）のうち、就業場所別の薬剤師数は、薬局 14,610 人（66.1%）、病院・診療所 3,430 人（15.5%）、教育・行政・企業等 4,064 人（18.4%）である。

表 6：神奈川県薬剤師数（平成 28 年 12 月 31 日現在）

（単位：人）

年度	薬剤師数	（内薬局薬剤師数）	（内病院等薬剤師数）	備考
H18	16,507	9,866（59.8%）	2,605（15.8%）	
H26	21,541	13,846（64.3%）	3,227（15.0%）	
H28	22,104	14,610（66.1%）	3,430（15.5%）	
H18 - 28 増減	+5,597	+4,744（+6.3%）	+825（-0.3%）	

※H28 神奈川県衛生統計年報統計表

神奈川県の薬剤師数は、平成 18 から 28 年の 10 年間で 5,597 名増加しているが、内、薬局薬剤師が 84.7%の増加である。また、病院等薬剤師数の増加数(率)は825名(14.7%)に過ぎず、病院等医療機関の薬剤師の割合は逆にマイナス成長となっている。そのため、今後更に加速する高齢者の増加、及び回復期、慢性期の増床により、病院等医療機関の薬剤師の養成は必要不可欠となることが予測される。同様に、隣県の状況を下記にまとめる。

静岡県の薬剤師数は、8,144 人（人口 10 万人対 220.8 人）で、就業場所別の薬剤師数は、薬局 4,814 人（59.1%）病院・診療所 1,417 人（17.4%）、教育・行政・企業等 1,913 人（23.5%）である。

※「静岡県平成 28 年医師数・歯科医師数・薬剤師数（市町・2 次医療圏別）」より抜粋

山梨県の薬剤師数は、1,707 人（人口 10 万人対 205.7 人）で、就業場所別の薬剤師数は、薬局 1,059 人（62.0%）、病院・診療所 345 人（20.2%）、教育・行政・企業等 303 人（17.8%）である。

※山梨県平成 28 年衛生統計（医務課）第 60 表 医師・歯科医師・薬剤師数，就業場所別－市町村、二次医療圏別－より抜粋

長野県の薬剤師数は、4,393 人、（人口 10 万人対 210.4 人）で、就業場所別の薬剤師数は、薬局 2,666 人（60.7%）、病院・診療所 989 人（22.5%）、教育・行政・企業等 738 人（16.8%）である。

※長野県資料（厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」）より抜粋

特に、長野県では、「医療政策第 7 編」において、かかりつけ薬剤師・薬局の推進、在宅医療への参画、病院等薬剤師業務の多様化などにより、さらなる薬剤師の確保が必要となっており、人口 10 人あたり 47.4 人いる病院・診療所薬剤師を現状よりも増

加させると表明している。

上記、4 県の薬剤師の就業場所は、概ね、薬局 60%、病院・診療所 20%、その他 20% の割合となっており、病院・診療所薬剤師数は薬局薬剤師数の 1/3 程度である。

超少子高齢社会を支える地域包括ケアシステムにおいて、薬剤師に求められる役割の多様化が進められる中、患者の服薬状況の把握や服薬指導などを医師に提言できるチーム医療や多職種協働を実現するには、病院等臨床現場の薬剤師を更に増員する需要、必要度は高いと考える。その旨の取り組みは、一般社団法人日本病院薬剤師会の案内書【資料 16】においても、「病棟業務の推進、薬剤管理指導、病棟薬剤業務の拡充拡大を図り、必要な薬剤師の増員等実践可能な体制への支援並びにチーム医療の推進と医療安全の確保」として表明している。

厚生労働省によれば、神奈川県では、2025 年には 2015 年に比べて、明らかに、高度急性期及び急性期病床に対して、特に回復期及び慢性期の病床が必要となり、約 12,000 病床数の必要量が見込まれている。それにより、病院薬剤師並びに居宅訪問薬剤師の需要が高まるため、薬剤師の人材確保、促進が予測される。(表 7)

表 7：神奈川県構想区域における 4 機能ごとの病床の必要量（2025 年予測）

(単位：床)

年度	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
2015	60,240	12,137	28,658	4,958	14,487
2025 必要量	72,410	9,419	25,910	20,934	16,147
増減	+12,170	-2,718	-2,748	+15,976	+1,660

※「厚生労働省第 4 回地域医療構想に関する WG 資料 3（H29.5.10）各都道府県の地域医療構想について」より抜粋

#### 4) 医薬品系企業、薬事行政の人材需要の動向

医薬品系企業では、薬を開発し、商品化できる人材が求められている。加えて、臨床に使用されている医薬品をより安全に使用し、そこで得られた情報を基により適切な使用方法や様々な改良、新薬の開発へつなげる「育薬」関連職域もある。

既に市販された医薬品についても継続して、患者背景、使用方法、効果及び副作用等を調査・評価して、有効で安全な使用に関する豊富な情報量が必要となる。つまり、臨床現場の医師、薬剤師、研究者が中心となり、薬をより使いやすく有効性及び安全

性の高いものに育て、活発化させる「育薬」職域には、臨床の知識を有する臨床薬学  
研究の薬剤師を育成することが望まれる。

また、国や地方の薬事行政に関わる業務では、新しい医薬品の承認など、直接医療  
現場や家庭で使用する医薬品に係る業務だけでなく、劇薬や毒物、化学物質に対する  
安全管理や検査、食品の残留農薬や添加物などの検査など「生活衛生に関する業務」  
などの需要も見込まれる。

#### 5) 社会的人材需要の動向（薬剤師の需要予測）

厚生労働省の職種別新規有効求人倍率（平成 28 年度）の職種別有効求人倍率 13 職  
種のうち、「医師、歯科医師、獣医師、薬剤師」が求人倍率 5.97 倍で、第 1 位であっ  
た。

厚生労働省科学研究費補助金医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス総合事業  
の「薬剤師需給動向の予測に関する研究」の総合研究報告書（平成 25 年）では、薬局  
や病院に従事する者が薬剤師数全体の約 8 割を占めることに基づき、今後の処方箋枚  
数、病床数の変動についての推計から薬剤師の需要動向を予測している。同報告書で  
は、「薬局の処方箋受け取り率が 70%を上限とした場合、高齢者人口、投薬対象者数の  
増加に伴い、在宅医療への取り組みの拡大などにより、高い需要がある。」としている。  
また、病院では、病棟常駐チーム医療の発展、外来化学療法の普及などにより、短期  
的には薬剤師の需要は高まっていく」と予測している。

表 8：神奈川県処方箋受取率の合計「全保険（社保＋国保＋後期高齢者）」

年度	投薬対象患者数	処方箋枚数	受取率
2016	74,190,815	60,695,527	81.8%
2017	74,002,590	61,075,236	82.5%
2018	74,355,472	62,089,366	83.5%

※（公社）日本薬剤師会「保険調剤の動向」

2018 年度の処方箋受取率 74.0%（全国平均）に対して、神奈川県は、80%を超えて  
おり、医薬分業が進んでいる（表 8）。下記のとおり、医薬分業により、医師と薬剤師が  
相互に専門性を発揮できる環境は、薬物療法の質を向上させる効果がある。

（ア）薬剤師が、薬剤服用歴（服薬状況、副作用やアレルギー歴などの状況、相談内  
容等）の確認により、患者の服薬情報を一元的・継続的に把握した上で、薬剤

師の持つ薬理学、薬物動態学、製剤学などの薬学的知見に基づいて薬学的管理・指導が行われることにより、複数診療科受診による重複投薬、相互作用の有無の確認などが可能となること。

(イ)薬剤師が、処方した医師・歯科医師と連携して、薬の効果、副作用、用法などについて患者に説明（服薬指導）することにより、患者の薬に対する理解が深まり、調剤された薬を適切に服用することが期待できること。

※平成30年11月8日 第8回医薬品医療機器制度部会資料2

薬局・薬剤師のあり方、医薬分業のあり方（その2）

P8 I. (1) 医薬分業とかかりつけ薬剤師・薬局について医薬分業により期待される効果

平成29年版 厚生労働白書（一部改変）

## 6) 地域包括ケアシステムを支える薬剤師の需要

厚生労働省は、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるように、地域の包括的な支援・サービスを提供する体制である「地域包括ケアシステム」を推進することと、医療機能の分化・強化と介護連携を大きな方針として示した。調剤報酬においては「かかりつけ薬剤師・薬局」の役割を重視した内容となっている。かかりつけ薬剤師として、多剤・重複投与を防ぐために患者情報を一元管理できるスキル、健康食品やOTCの知識、生活習慣病指導に関するスキルなど、在宅医療に積極的に関与し、超高齢社会を支える地域の健康ステーションとして、患者の生活全体に寄り添える新しい薬剤師の育成、つまり、地域包括ケアシステムの推進においては、かかりつけ薬剤師や臨床現場で多職種と連携がとれる薬剤師の育成が求められている。

尚、在宅医療患者数は、下記7)に示すとおり、2013年比で2040年は1.92倍に大幅に増加することが見込まれ、在宅医療を支える薬剤師等医療従事者の人材不足が懸念される。

## 7) 神奈川県地域医療構想における入院及び在宅医療等の医療需要

表9は、厚生労働省必要病床数等推計ツール（平成27年）から2040年の入院及び在宅医療の需要を表している。

表 9： 2025 年から 2040 年の入院及び在宅医療の需要

年度	合計	入院医療需要	在宅医療等の医療需要
2013	131,513 人/日 (内、居宅訪問診療患者数)	47,738 人/日	83,775 人/日 (60,081 人/日)
2025	199,633 人/日 (1.52 倍) (内、居宅訪問診療患者数)	60,915 人/日 (1.28 倍)	138,718 人/日 (1.66 倍) (95,752 人/日 (1.59 倍))
2040	227,513 人/日 (1.73 倍) (内、居宅訪問診療患者数)	66,747 人/日 (1.40 倍)	160,767 人/日 (1.92 倍) (111,188 人/日 (1.85 倍))

資料：(厚生労働省必要病床数等推計ツール (平成 27 年))

- ※ 医療増加率 2013 年に対して 2040 年には、75 歳以上 2.02 倍 65 歳以上 1.91 倍
- ※ 在宅医療等とは、居宅・特別養護老人ホーム等、病院・診療所以外の療養生活を営む場所で受ける医療の患者数

上記資料「神奈川県地域医療構想 (平成 28 年 10 月神奈川県)」において、特に高齢化の進展等に伴い、入院医療の需要は、2013 年に対して 2040 年度は、1.4 倍の患者需要数である。さらに、地域包括ケアシステムの推進に向けた在宅医療の充実として、在宅医療を必要とする患者数は、2013 年度に対して 2040 年度は、約 2 倍に大幅に増加することが推計されている。現在の医療提供体制のままでは、在宅医療を支える体制が不十分となるほか、在宅医療を支える医師、歯科医師、薬剤師、看護職員、歯科衛生士、歯科技工士、リハビリテーション専門職等の人材不足が懸念される。と記されている。

※資料：同構想 (2) 地域包括ケアシステムの推進に向けた在宅医療の充実 P46

また、地域包括ケアシステムの推進に向けた在宅医療の基盤整備では、「薬剤師の医薬品等の適切な取扱いや在宅医療の知識向上」として、①薬剤師の在宅医療への参加促進を図るため、医薬品等の適切な取扱いや在宅医療に係る知識向上を図ること。また、②「患者のための薬局ビジョン」で示された「かかりつけ薬局」の県民への定着に向けた普及啓発を図るほか、医療機関や訪問看護ステーション等と連携を図り、残薬管理等の薬学的管理及び指導の取組みの推進を掲げている。

#### 8) 在宅医療・チーム医療における需要

(ア) みずほ情報総研株式会社による「地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師による薬

学的管理及び在宅服薬指導の向上及び効率化のための調査研究事業報告書」(平成27年)では、全国の保険薬局 1,000 薬局を対象にアンケート調査を実施している。その中で、在宅医療を実施している薬局に対し、「在宅業務を普及・推進する上での課題」を問う質問では、48.6%の薬局が、「従事する薬剤師不足」を挙げている。

(イ) 日本保険薬局協会薬剤師機能拡大委員会による「会員管理薬剤師アンケート報告書」(平成27年)によると、「今後、保険薬局が積極的にチーム医療に参画してくことが求められています。どのようにかかわっていく必要があるとお考えですか？また課題や問題点がありましたら併せてお聞かせください。」との設問に対し、課題や問題点として「人員」が42.8%(950件)と圧倒的な1位となっており、薬剤師の不足が深刻な問題となっている。

(ウ)「神奈川県地域医療構想(平成28年10月神奈川県)」による、在宅医療を担う人材の確保・育成(P52)では、①「在宅医療を担う医療従事者の確保・在宅医療等の医療需要の増加に対応するためには、在宅医療を担う医療従事者を十分確保する必要があることから、研修等を通じた教育の機会を継続的に設け、在宅医療を担う医師、歯科医師、薬剤師、看護職員、歯科衛生士、歯科技工士、リハビリテーション専門職等の人材育成を行う。」②「在宅医療の多様なニーズに対応した質の高い人材の育成・在宅医療では、退院支援、日常の療養生活の支援、急変時、看取り時など患者の状態に応じた様々なニーズが求められるため、これらに対応した質の高い人材を育成する。」③「在宅医療・介護に従事する多職種が専門知識を活かし、チームとして患者・家族を支えていくために必要な人材育成を行う。」ことの重要性を記載している。

(エ) 厚生労働省の「在宅医療における薬剤師業務について」(在宅患者が普段服薬している薬の受け取り方法)の調査では、1. 家族が薬局にとりにいつている。(33.9%) 2. 薬局薬剤師がとどけてくれる。(26.5%) 3. 医師が訪問してくれる時にもってきてもらう。(16.3%)であった(4以下省略)。また、同調査では、薬局薬剤師の訪問薬剤管理指導は2番目に多い薬の受け取り方法であった。そのため、在宅医療において家族の負担軽減、患者本人が適切な指導を受けられないこと、医師などが本業を圧迫しやすいことなどから、薬剤師が適正に在宅医療に参加することが求められることがわかる。

また、厚生労働省「在宅医療における薬剤師業務について」(中医協総-3 23.11.11資料)によると、「薬局が在宅医療・介護に関わる上での課題(P5)」の調査結果から、在宅医療・介護における薬学的管理指導を推進していく上での課題は、「薬局に薬剤師

が少ない場合、応需できない。」「休日や夜間を含め常に対応を求められる。」などが挙げられており、薬剤師の不足による要因も大いに考えられる。そのため、適正に在宅医療で活躍できる薬剤師の養成が不可欠である。

表 10: 神奈川県内の薬局数

(単位：人)

年度	薬局数 ※1	1 薬局当たり 薬剤師数※2	人口 10 万人対 (薬局薬剤師数)	人口 10 万人対 (総薬剤師数)
2014	3,724	3.71	152.2	236.7
2016	3,824	3.82	159.7	241.7
2014 - 2016 増減	+100	+0.11	+7.5	+5.0

※1 薬局数 地域医療情報システム資料より抜粋

※2 1 薬局当たり薬剤師数は、※A の薬局で従事する薬剤師数を薬局数で割った数

表 10 において、平成 26 年及び平成 28 年神奈川県衛生統計年報統計表 (※A 第 2 部 医療施設調査・病院報告、医師・歯科医師・薬剤師調査 薬剤師 0100 薬剤師数 (実数・人口 10 万対)、業務の種別×市町村・保健所-保健福祉事務所別) によれば、神奈川県の薬局・医療施設に従事する人口 10 万対薬剤師数は 241.7 人である。市区町村別にみると、松田町(434.1 人)、西区(304.0 人)、中区(301.6 人)などが多く、葉山町(65.4 人)、綾瀬市 (66.3 人)などが少ない。人口 10 万人当たりの薬剤師数は全国平均を上回るものの、県内の薬剤師数の地域格差は大きく、サービス需要に平等に対応していない。

平成 30 年度神奈川県患者のための薬局ビジョン推進事業報告書 (神奈川県健康医療局生活衛生部薬務課) によれば、在宅医療や介護の場において、薬剤師の関与の程度、関与の必要性の設問について、在宅医療における薬剤師の関与は半分以下となっており、薬剤師が十分に在宅医療に関与できていない現状が浮き彫りになっていることが明らかとなっている。その背景として、在宅における薬の管理を行っている職種で最も多いのは「看護師」(全体の約 80%)、薬剤師は、全体の約 55%であり、薬剤師の関与は不充分的な状況であることが窺える。また、同報告書の自由記載欄には、訪問できる薬剤師がもっといて欲しい。との要望もあった。

## 9) 採用意向の根拠となる客観的なデータの概要

本学では、2019年10月～12月にかけて、神奈川県、東京都、静岡県、山梨県、長野県内の病院・診療所、薬局等の1,206機関・施設を対象として、湘南医療大学「薬学部医療薬学科（仮称）」設置構想に係るニーズアセスメント調査を株式会社高等教育総合研究所）に委託して以下のとおり実施した【資料13】。

- 「調査名称」：湘南医療大学「薬学部医療薬学科（仮称）」設置構想に係るニーズアセスメント調査【人材需要に関するアンケート調査】
- 「調査対象」：神奈川県、東京都、静岡県、山梨県、長野県内の病院・診療所、薬局等を1,206施設選定
- 「調査時期」：2019年10月～12月
- 「調査方法」：各医療機関、施設等に郵送による配布・回収
- 「回収状況」：回収件数 264件、回収率21.9%

本調査の結果、湘南医療大学薬学部医療薬学科（仮称）を卒業した薬剤師資格保有者の採用に関して、「採用したい」との回答が96件（実数）、「採用を検討したい」との回答が109件（実数）、計205件の機関・施設が採用について積極的であることが示された。

この205件の機関・施設に対して、採用可能であると思われる人数の質問に対しては、「1名」が53件、「2名」が52件、「3名」が21件、「4名」が1件、「5名以上」が19件と、合計146名の採用が可能であるとの意向が示された。

このことから、本学薬学部医療薬学科の卒業後の進路先の確保は十分に可能である。

尚、本学は、保健医療学部において看護師、理学療法士、作業療法士を養成しており、2019年3月に第1期卒業生を輩出し、就職希望者の就職率は、100%であった。その内、「病院」への就職率は、それぞれ93%、89%、85%と高い就職率となっている。

また、本学では、学生支援委員会、キャリア支援センター、チューター等が連携した支援体制を構築しており、有効な情報提供や就職支援を実施している。薬学部においても、保健医療学部と同様の機能で、担当教職員を配置して学生の進路支援を行う。

(追加1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

(1). 高校生に対する「薬学部医療薬学科(仮称)」設置構想に係るニーズアセスメント調査【学生確保の見通し】結果(再検証)

ア. 入学意向者数

今回実施したニーズアセスメント調査では、学生確保の基盤となる本学薬学部の設置圏域(神奈川県208校、静岡県108校、東京都49校)及び隣接する薬学部が設置されていない県(山梨県11校、長野県33校)のみで実施し、返答のあった高等学校の合計は68校(対象都県高等学校総数の7.2%(※1))であった。

その状況で高等学校卒業後の進路について調査した結果、高校2年生6,393人の内、4,856名(76.0%)が「4年制・6年制大学進学」を希望している。進学を希望すると回答した5,021人のうち、本学科について「合格した場合、入学したい」と回答した高校2年生は149人となり、入学定員130人に対し、1.15倍の入学意向を示している。また、「合格した場合、入学したい」、「合格した場合、併願大学の結果によっては入学したい」と回答した高校2年生は合計215人となり、本学科の入学定員130人に対し、1.65倍の入学意向を示している。

また、表11より、単科大学薬学部に進学実績高校 1校あたりで本学薬学部へ受験意欲を示した人数は平均 3.8人、入学意欲を示した人数は平均 2.6人である。表13より、単科大学薬学部への進学実績がない高校(12校)で本学薬学部へ受験意欲を示した人数は 1校当たり平均1.8人、入学意欲は平均1.5人であった。

これにより、単科大学薬学部への進学実績のある高校とない高校では、約 2 倍近くの差があることが伺える。

※1調査対象都県の高等学校数、東京都429校、神奈川県235校、静岡県138校、長野県96校、山梨県40校 計938校に対する今回の回答高校数の割合

イ. 薬学部進学実績

ニーズアセスメント調査の返答のあった高等学校68校の内、関東圏私立単科6大学薬学部(※<sup>2)</sup>に過去3年実績がある高等学校が56校について調査した結果、表11のとおり、2016-2018年度間に合計737人が薬学部に進学実績がある。【説明資料20】

表12より今回、調査を実施できなかったものの、単科大学薬学部への進学実績がある高校は、神奈川県内にも 100 校以上確認できる。本学薬学部を設置する神奈川県内では、2016年に743人、2017年に768人、2018年に781人と、単科大学薬学部進学実績は、年々増加傾向にある。また、5都県を合計しても、2017年に一時的な減少が見られるものの、単科大学薬学部への進学実績は、一定の水準を保っていることから、本学が設置する薬学部への進学希望者は一定数見込まれると考えられる。

(表11)56校を都県ごとに分類。受験意欲、入学意欲及び回答校の薬学部進学実績数の内訳

調査都県	回答校内、 薬学部進学 実績校数	本学に受験 意欲のある 生徒数	本学に入学 意欲のある 生徒数	回答校の薬学部 進学者数実績 (2016-2018年)	2016 年	2017 年	2018年
神奈川県	44	184	129	655	187	266	202
静岡県	7	16	11	66	22	18	26
東京都	1	1	1	22	8	4	10
長野県	3	10	5	4	3	0	1
山梨県	1	4	3	9	8	0	1
計	56校	215人	149人	756人	228人	288人	240人

※2 過去3年間(2016年～2018年)に、神奈川県、東京都に位置する薬学部の単科私立大学(星薬科大、東京薬科大、明治薬科大、昭和薬科大、日本薬科大、横浜薬科大)に進学実績があり、湘南医療大学に進学が現実的であると考えられる地域(神奈川県、東京都、長野県、静岡県、山梨県)の高等学校：635校からデータを抽出した。

尚、今回大学ごとの進学実績を抽出したため、総合大学は除く、単科大学(薬学部)のみに絞っている。  
(参考資料：サンデー毎日 増刊『大学入試全記録』毎日出版(2016～2018年))

(表12) 薬学部進学実績高校(残 579校)の都道府県ごとの内訳

調査都県	進学実績のある高校数	薬学部進学実績		
		2016年	2017年	2018年
神奈川県	147校	743人	768人	781人
静岡県	49校	76人	67人	99人
東京都	346校	1,836人	1,613人	1,854人
長野県	22校	47人	0人	17人
山梨県	1校	44人	8人	15人
合計	579校	2,746人	2,456人	2,766人

(表13) 調査返答があり、過去3年間に薬学部への進学実績がない高校12校の内訳

調査都県	進学実績のない高校数	受験意欲	入学意欲
神奈川県	1校	9人	9人
静岡県	10校	10人	7人
長野県	1校	2人	2人
合計	12校	21人	18人

参考:上記6大学の2019年度入試状況は下表14のとおりである。6大学は、平均受験倍率8.4倍、平均実質倍率3.4倍と高い水準で学生を確保していることが伺える。

2019年度首都圏薬科単科大学 入試状況

大学名	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	受験倍率	実質倍率	入学定員充足率
星薬科大学	260	3,382	3,240	744	301	12.5	4.4	115.8
東京薬科大学	420	2,821	2,597	815	414	6.2	3.2	98.6
明治薬科大学	300	3,208	2,833	620	308	9.4	4.6	102.7
昭和薬科大学	240	2,541	2,222	785	248	9.3	2.8	103.3
日本薬科大学	260	1,313	1,237	728	250	4.8	1.7	96.2
横浜薬科大学	340	2,929	2,782	797	366	8.2	3.5	107.6
平均		2,699	2,485			8.4	3.4	

※平均志願者数2,699人、平均受験者数2,485人、平均受験倍率8.4倍、平均実質倍率3.4倍

(2). ニーズアセスメント調査結果による薬学部進学需要を推計

ア. 分析対象とした高校都県の2019年度4年・6年制大学進学者数 (表15)

都県名	大学・短期大学等への進学者数(人)	左記の内、大学(学部)進学者数(人)
東京都	66,248	64,133
神奈川県	40,427	37,913
静岡県	16,728	15,481
山梨県	4,770	4,444
長野県	8,779	7,380
計	136,952	129,351

※大学(学部)進学者数=4年・6年制大学進学者数

※学校基本調査「都道府県別大学・短期大学等への進学者数」(令和元年度版)から抜粋

イ. 薬学部医療薬学科(仮称)への進学意向比率

下表は、アンケートで「4年・6年制大学への進学」と回答した生徒と、その内、本学薬学部へ入学したい。と回答した生徒の人数をまとめ、『入学したい』と回答した生徒の進学意向比率(%)を算出した。(表16)

都県名	問3 大学(4・6年制)希望進路(人)	問9 合格した場合、入学したい(人)	進学意向比率(%)
東京都	81	1	1.23%
神奈川県	3,522	129	3.66%
静岡県	846	11	1.30%
山梨県	115	3	2.61%
長野県	251	5	1.99%
計	4,815	149	

※進学意向比率(%)=(合格した場合、入学したい人)÷問3高校卒業の進路希望(大学4年制・6年制)人数

ウ 薬学部への進学意向者数の推計

前出のア4年・6年制大学進学者、及びイ薬学部への進学意向比率から、薬学部進学意向者数を推計する。(表17)

都県名	都県別4年・6年制大学進学者数(人)	進学意向比率	推計進学者意向者数(人)
東京都	64,133	1.23%	792
神奈川県	37,913	3.66%	1,389
静岡県	15,481	1.30%	201
山梨県	4,444	2.61%	116
長野県	7,380	1.99%	147
		合計	2,645

※推計進学意向者数(人)=都県大学(学部)進学者数(人)×進学意向比率(%)

上記の推計結果から、薬学部の推計進学意向者数は、分析対象地域全体で2,645人となり、入学定員130名の20.3倍と、一定の潜在的進学需要を算出した(表17)。また、2040年の薬学部の推計進学意向者数を同様に算出した結果、2,464人となった(表18)。

この推計進学意向者数は、6単科大学の平均受験者数(表14)と大きく変わるものではなく、本薬学部の設置位置(JR横浜駅から8分、JR東戸塚駅から徒歩15分以内の立地)、入学定員数を勘案しても学生募集を順調に展開できると考えられる。

(表18)

都県名	大学・短期大学等への進学者数(人)	大学(学部)進学者推計数(人)	進学意向比率(%)	2040年推計進学者意向者数(人)
東京都	77,539	75,064	1.23%	927
神奈川県	34,848	32,681	3.66%	1,197
静岡県	12,762	11,811	1.30%	154
山梨県	3,721	3,467	2.61%	90
長野県	5,770	4,851	1.99%	97
計	134,640	127,872		2,464

※大学(学部)進学者数(人)÷大学・短期大学等への進学者数(人)の割合で2040年の大学学部進学者数を推計

※2040年の大学・短期大学等への進学者数(人)は、大学への進学者数の将来推計について(文部科学省資料) 資料内高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)から抜粋

### (3). 神奈川県内の18歳人口及び大学進学率等の推移から薬学部入学者数を推計

中長期的な学生確保の見通しについては、本学薬学部を設置する2021年度から2040年度までの大学進学対象となる神奈川県の18歳人口推移予測を基礎として、2017年度の学校基本調査及び厚生労働省の人口動態統計、大学への進学者数の将来統計(文部科学省資料 都道府県別男女別大学進学率実績・統計値)、日本私立学校振興・共済事業団等の数値の結果を参考に分析を行った。【説明資料21】

本学部を設置する2021年度の神奈川県の18歳人口は、78,380人に対して開設14年目の2034年度は73,475人で人数比は93.7%となる見込みで、概ね1割減となる予測である。また、2034年-2040年間の18歳人口減少数は11,596人、減少率15.8%の予測である。

その予測結果により、大学進学率は、55.8%(2034年)、及び56.3%(2040年)である。また、大学進学者数は、40,999人(2034年)、34,848人(2040年)を予測している。

また、本学はそれらの予測値を基に、薬学部の入学者減少率(-2.5%)を含めて計算した結果、神奈川県内の高校卒業生が薬学部に進学する人数を799人(2034年)、680人(2040年)と推計した。またその内、神奈川県内の薬学部に進学する人数を295人(2034年)、251人(2040年)と推計した。

上記のとおり、本学薬学部開設年度である2021年の薬学部進学予測者数(神奈川県内~県外)316人~857人から、19年後の2040年には251人~680人まで志願者数は減少するものの、本学の入学定員130名に対して、志願倍率最少1.9倍~最大5.2倍を見通すことができる長期的かつ安定的に学生の確保ができるものを考えている。

(4). (1)~(3)の結果を踏まえた、学生確保の見通しと入学者の学力の担保について

上記、(1)~(3)の結果から、

- ・本薬学部の入学定員130人に対し、215名(1.65倍)が入学意向を示している。
- ・本学薬学部へ受験意欲及び入学意欲を示した人数は1校当たり平均人数では、単科大学薬学部への進学実績のある高校とない高校では、約2倍近くの差がある。
- ・調査回答校56校において、過去3年間に737人が単科大学薬学部に進学していること。
- ・潜在的進学需要として、薬学部の推計進学意向者数(2021年)は、分析対象地域全体で2,645人がある。また、同様に2040年の薬学部の推計進学意向者数が2,464人になった。
- ・2021年の薬学部進学予測者数(神奈川県内~県外)316人~857人から、19年後の2040年には251人~680人(志願倍率最少1.9倍~最大5.2倍)を予測した。

以上のことから、本学薬学部は、長期的かつ安定的に一定程度の志願者が確保できるものと考えている。

なお、受験した入試区分の違いにより基礎学力の差が生じないように、全ての入試区分において基礎学力試験、学力試験を実施する。同時に、高等学校において学んでおかなければならないことを事前に示して、本学薬学部が求める能力と、入学後の教育内容の理解・発展が合致するように周知し、入学者の学力も担保する。

また、大学進学率が50%を超える現在、本学に入学する学生の学力を把握し、多様な学生に対してそれぞれの状況に合った教育を提供できるように工夫をする必要性があると考えている。そのため、薬学部に入学者の苦手とする基礎科目(数学、物理、生物)をリメディアル教育プログラム(入学前教育)として実施し、入学後に薬学教育科目で躓かないように高大接続をスムーズに行うこととする。これらの充実を図り、本学が求める学力を担保する。

本学は、超少子社会の状況を認識し、学生確保の見通し等を記載した書類にある「学生確保に向けた具体的な取組状況(予定含む)」(P10~P12)を着実に実行。その実践の積み重ねにより、本学薬学部のアドミッションポリシーに則り、本学で学ぶためにふさわしい学力や素養を担保できる一定数の志願者を継続的に確保できるものと考えている。

その他:本学の既設保健医療学部在籍学生は、神奈川県以外に、静岡県、東京都を始めとして広く関東甲信越、東日本地域から入学している。過去5年間の保健医療学部の志願倍率は平均5.61倍、実質倍率は3.31倍の実績があり、安定した志願者数、倍率を確保している。そのため、薬学部医療薬学科も静岡県、東京都など他都道府県からの入学者が期待できるものと考えている。【説明資料22】

(追加2) 人材需要の動向等社会の要請

社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

(1). 湘南医療大学「薬学部医療薬学科(仮称)設置構想に係るニーズアセスメント調査【人材需要に関するアンケート調査】結果(再検証)

基礎データ

① アンケート回答:264 件

② 問4(薬剤師の充足状況)

「ある程度充足している」:73 件

(27%) 「充足している」:30 件(11%)

③ 問4(薬剤師の充足状況)×問6(採用意欲)をクロス集計した。

その結果は下記の通りである。

	非常に不足している	不足している	分からない	ある程度充足している	充足している	無回答	合計
採用したい	17	63		15	1		96
採用を検討したい	5	55	1	38	9	1	109
分からない	1	14	1	17	16		49
採用を希望しない	0	2		3	3		8
無回答	0	1			1		2
合計	23	135	2	73	30	1	264

まず、問4(薬剤師の充足状況)にて、「ある程度充足している」を回答した 73 件のうち、「採用したい」に 15 件(73 件のうち 21%)、「採用を検討したい」に 38 件(73 件のうち 52%)が回答し、合計 73%が採用意欲を示した。

また、「充足している」と回答した 30 件のうち、「分からない」に 16 件(30 件のうち 53%) が回答したが、「採用したい」に 1 件(30 件のうち 3%)、「採用を検討したい」に 9 件(30件のうち 33%)が回答し、「採用を希望しない」と回答した機関よりも多い結果となった。

以上より、薬剤師は充足もしくはある程度充足状況であっても、本学が養成する薬剤師に対しては、採用意欲を示していることが分かる。したがって、ただ単に薬剤師の有資格者の社会的な需要は、問4の結果が示す通り、充足している可能性はあるが、一方で、本学が養成する多職種と連携しながら、質の高い薬物治療を提供できるような薬剤師については、「ある程度充足している」また「充足

している」と回答している機関からも、強い採用意欲を得られていることから、社会が求めている薬剤師像と合致していることが、本集計から考えられる。

(2). 薬剤師の社会的ニーズ:

1) 診療報酬改定からみる病院薬剤師の必要性(需要)

2020年度の診療報酬改定にあたっての基本的な方針として、以下の4が掲げられた。

「1. 医療従事者の負担軽減、医師等の働き方改革の推進」

「2. 患者・国民にとって身近であって、安心・安全で質の高い医療の実現」

「3. 医療機能の分化・強化、連携と地域包括ケアシステムの推進」

「4. 効率化・適正化を通じた制度の安定性・持続可能性の向上」

特に、項目2については、かかりつけ機能の強化や薬局の対物業務から対人業務への推進などが挙げられており、表19のとおり、病棟薬剤業務実施加算1及び2について評価を充実させている。また表20のとおり、病棟薬剤業務実施加算推進のため常勤配置条件が緩和された。

(表19) 薬剤師の病棟業務に対する評価の充実

	改定前	改定後
病棟薬剤業務実施加算1(週1回)	100点	120点
病棟薬剤業務実施加算2(1日につき)	80点	100点

通知内容(抜粋): 上記、病棟薬剤業務実施加算は、当該保険医療機関の病棟等において、薬剤師が医療従事者の負担軽減及び薬物療法の有効性、安全性の向上に資する業務(以下「病棟薬剤業務」という。)を実施していることを評価したもの(以下略)加算する。

(表 20) 常勤薬剤師の配置要件の緩和

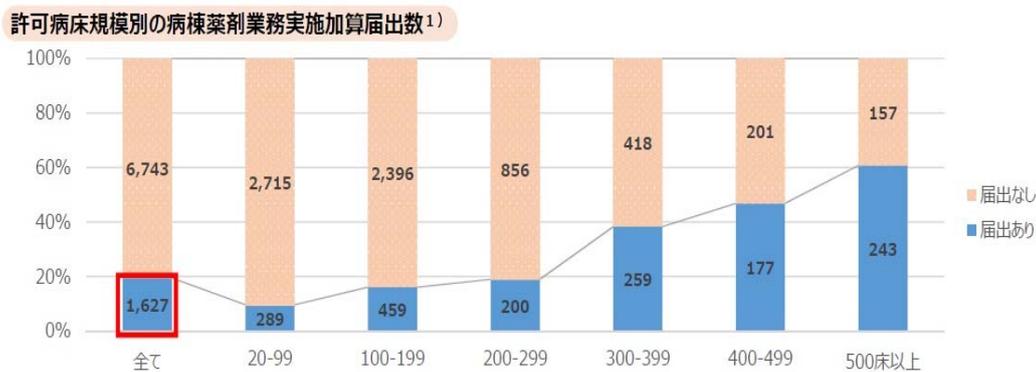
病等薬剤業務実施加算(薬剤管理指導料も同要件)	
改定前	改定後
常勤の薬剤師が 2 名以上配置されていること。 病棟薬剤業務の実施に必要な体制がとられていること。	非常勤薬剤師を 2 名組み合わせて常勤換算し、常勤薬剤師数に算入できる。(常勤薬剤師 1 名+非常勤)
医薬品情報室(DI室)には常勤の薬剤師 1 名配置	DI室には院内からの相談に対応できる体制が整備されていればよい。(常勤でなくてもよい)

上記の措置は、病院薬剤師の不足により病棟配置が進まないことから、配置要件が緩和されている。

### 改定の背景

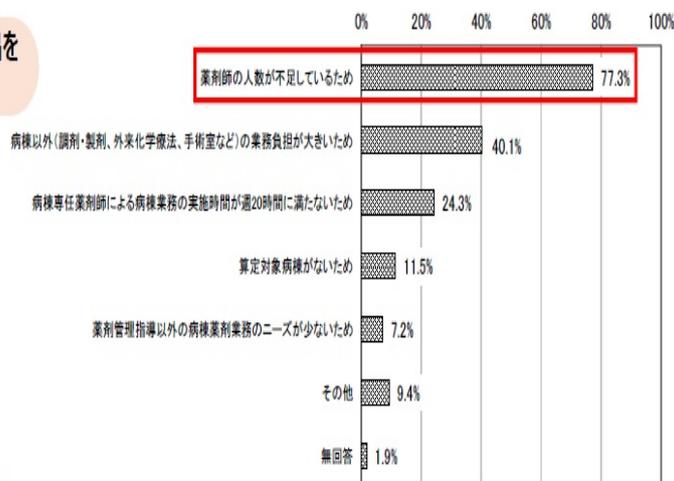
病棟薬剤業務実施加算を届け出ている病院は、全体の約 2 割と未だ限られている現状である(グラフ 1)。また、厚生労働省の調査によると、その理由の最多は、「薬剤師の人数が不足しているため」であった(グラフ 2)。つまり、病棟規模が小さいほど薬剤師が少ないため、届出が少ないことがわかる。

(グラフ 1)



(グラフ 2)

病棟薬剤業務実施加算の施設基準の届出をしていない理由 (複数回答、n=374) 2)

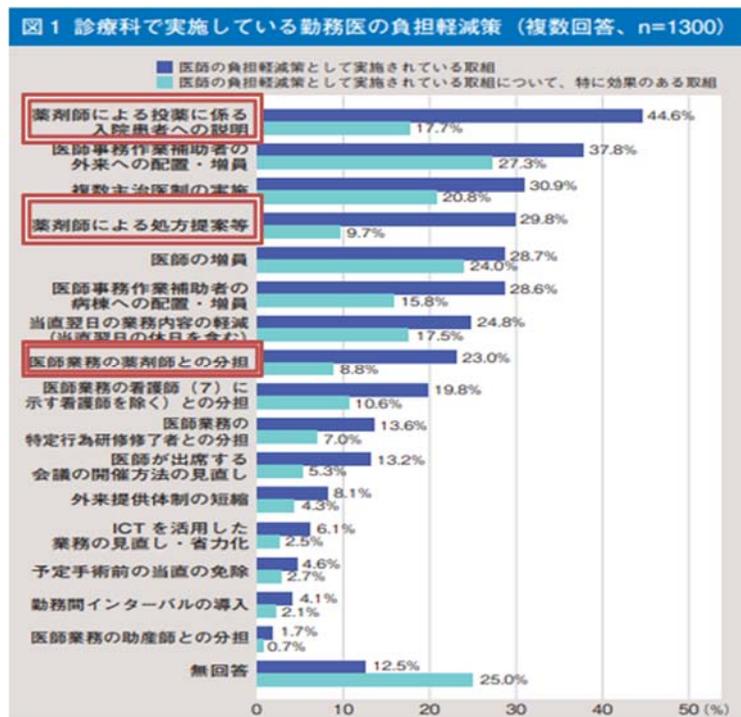


出典：1) 保険局医療課調べ (平成30年7月1日現在の届出状況)

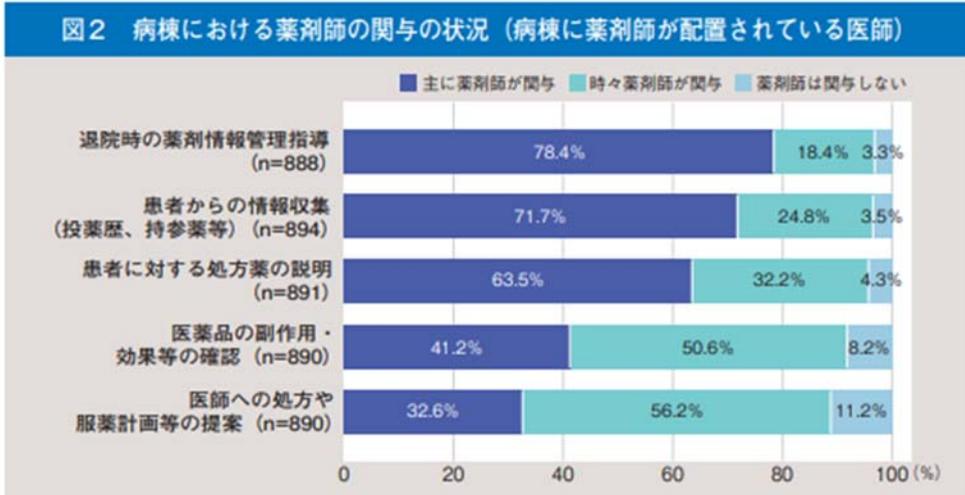
2) 平成30年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査 (令和元年度調査) 「医療従事者の負担軽減、働き方改革の推進に係る評価等に関する実施状況調査」(薬剤部責任者票)

2) 病棟配置薬剤師の活用が医師の負担軽減に及ぼす効果

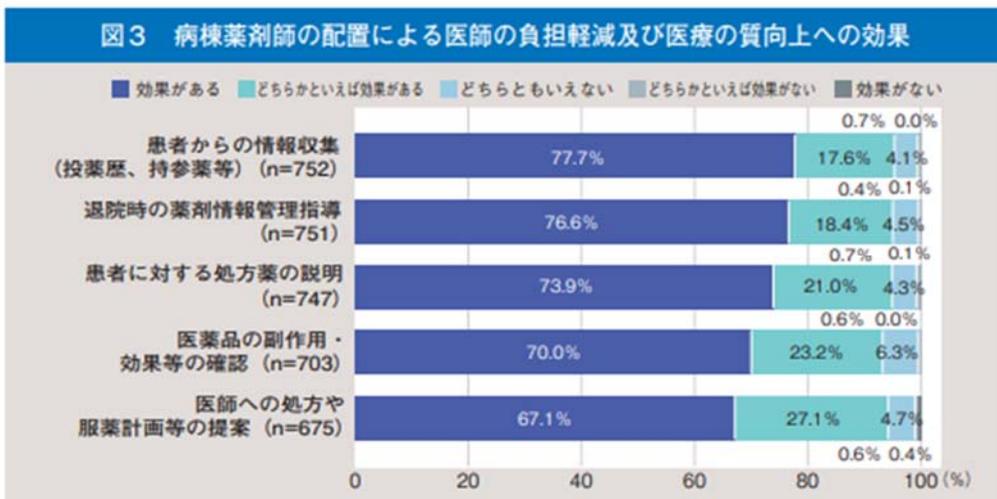
医師の負担軽減策において、薬剤師の病棟業務に大きな期待と効果があることが見て取れます。(厚生労働省報告資料)



医療機関で実施している薬剤師を活用した勤務医の負担軽減策として「薬剤師による投薬に係る入院患者への説明」、「薬剤師による処方提案等」、「医師業務の薬剤師との分担」の3つの取り組みが挙げられている。(図1)



病棟における薬剤師の関与の状況についてみると、「主に薬剤師が関与」の割合が低かったのは、「患者に対する処方薬の説明」(63.5%)、「医薬品の副作用・効果等の確認」(41.2%)、「医師への処方や服薬計画等の提案」(32.6%)であった。(図2)



病棟薬剤師の配置による医師の負担軽減及び医療の質向上への効果についてみると、すべての選択肢で「効果がある」「どちらかといえば効果がある」を合わせた割合が9割を超えている。(図3)

上記から、病院薬剤師の必要性はさらに高まっており、「働き方改革」(※1)と「薬剤師業務への効果」から病棟配置薬剤師を雇用する病院が増加すると予測される。

※1 「働き方改革」とは、四病院団体協議会(日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会)において、薬剤師へのタスクシフティングで、医師等との協働による薬剤師業務の拡大について下記を提案している。

- ・医師との協働によるプロトコールに基づいた投薬の実施
- ・薬剤選択、多剤併用薬に対する処方提案
- ・副作用の状況把握、服薬指導
- ・抗菌薬等の治療コントロール処方の提案 等

### (3). 調剤医療費の推移による薬剤師の需要

2018年度の概算医療費が約42.6兆円であった中で、調剤医療費は約7.5兆円と全体の約18%を占めている。内訳は、約5.5兆円が薬剤料、約1.9兆円が技術料となっている。また、この技術料については、調剤料の占める割合が50%を超える状況が10年以上続いている状況であった。このことから、現時点で薬局・薬剤師は「対物業務」中心であることが伺える。

上記、2020年度診療報酬改定により、今後、調剤料の割合が減少傾向になるにつれ、薬剤師の需要が増すものと予測される。(説明資料23)

※1:医師、歯科医師、薬剤師統計(年末現在)(第1回薬剤師の養成及び質向上等に関する検討会令和2年7月10日資料P34「調剤医療費の推移」)

### (4). 全国における薬剤師確保の状況

#### 1) 薬局数

薬局数の推移を見る通り、平成20年(2008年)は約53,000店舗であった薬局の数は、平成30年(2018年)時点では約60,000店舗ほどに増加している。過去10年間で約7,000店舗ほど増加している。(説明資料24)内訳では、個人薬局及び1店舗のみの法人薬局の割合は減少傾向にあるが、その代わり割合として増えているのが20店舗以上の法人であり、平成25年(2013年)時点で17.6%であった割合が、2017年時点では28.3%まで増加している。このことから、大手・中堅の法人薬局のシェアが拡大していることが伺える。(説明資料25)

資料21:医師、歯科医師、薬剤師統計(年末現在)(第1回薬剤師の養成及び質向上等に関する検討会令和2年7月10日資料28P「薬局薬剤師数と薬局数の推移」抜粋)

資料22:第19回～第21回医療経済実態調査「薬局数の推移等」(同一法人の薬局の店舗数の推移)

#### 2) 薬局・医療施設に従事する薬剤師数

##### ① 施設の種別にみた薬剤師数

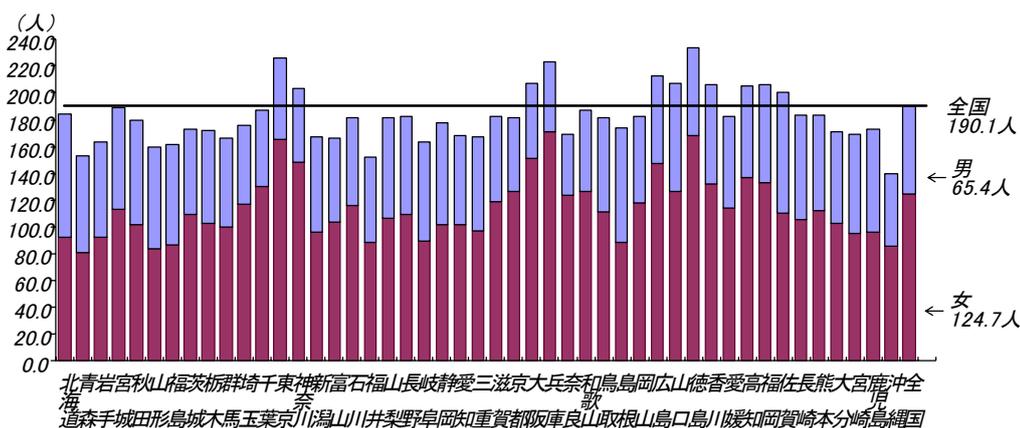
平成30年(2018年)医師・歯科医師・薬剤師統計の概況によると、平成30年(2018年)12月31日時点における全国の薬剤師従事者数は、約30万人(但し、届出薬剤師数薬31万人)となっている。薬局・医療施設(病院・診療所)に従事する薬剤師を施設の種別にみると、「薬局」が180,415人(約57%)、「医療施設」が59,956人(約20%)となっており、これを年次推移でみると、「薬局」は大幅に増加しており、「医療施設」は増加傾向が続いている(説明資料26)

医師、歯科医師、薬剤師統計(年末現在)(第1回薬剤師の養成及び質向上等に関する検討会令和2年7月10日資料P4「薬局・医療施設に従事する薬剤師数の推移」)。

薬局数の増加や超高齢社会に移行している日本の状況から、今後も薬剤師の需要は高まると推察できる。今までの処方箋の受け取りから調製、報酬算定、薬剤監査・交付、在庫管理といった「薬中心の業務」から、重複投薬や飲み合わせといった処方内容チェック、医師への疑似照会、服薬指導、在宅訪問における薬学管理、副作用・服薬指導のフィードバック、残薬解消などの「患者中心の業務」が評価されるようになることが予想されるため、薬局・薬剤師の在り方も変化し、新しいニーズが生まれる可能性は高いと考えられる。

### 3) 都道府県(従業地)別にみた人口10万対薬剤師数

下のグラフのとおり、平成30年の全国における薬局・医療施設に従事する人口10万人対薬剤師数は、190.1人である。この全国平均を上回る都道府県は、11都府県(東日本2都県、西日本9府県)となっており、西日本よりも東日本の薬剤師が少ないなど、地域偏在している。



(参考) 統計表15 人口10万対医師・歯科医師・薬剤師数、従業地による都道府県—指定都市・特別区・中核市(再掲)、業務の種別、性別  
 統計表16 人口10万対医療施設従事医師・歯科医師数及び薬局・医療施設従事薬剤師数の年次推移、従業地による都道府県—指定都市・特別区・中核市(再掲)別

### (5) 神奈川県における薬剤師確保の状況

平成28年神奈川県衛生統計年報統計表(第2部 医療施設調査・病院報告、医師・歯科医師・薬剤師調査)より、平成28年12月現在、神奈川県内の薬局、病院、診療所に従事する薬剤師数は、18,040人である。また、人口10万人当たりの薬剤師数では、197.3人と全国平均181.3人(平成30年度190.1人)を上回っている。

但し、下表の薬剤師(実数・人口10万対)、業務の種別×市町村・保健所・保健福祉事務所別で集計したところ、薬剤師は都市部(政令指定都市)に集中する傾向である。神奈川県内の2次保健医療圏・政令市の薬剤師の状況は、人口10万人当たりで県全体と比較すると、

薬局・病院・診療所の薬剤師総数は、政令指定都市 3 市保健所で上回るものの、それ以外の 2 次保健医療圏保健所での薬剤師数は全て下回っている(赤字)。横浜市と県央間には最大 53 人の地域差がある状況となっている。

神奈川県内2次保健医療圏別・施設別薬剤師数及び人口10万人対薬剤師数

H28.12.31

神奈川県内2次保健医療圏・政令市	薬局の従事者		病院従事者		診療所従事者		薬局・病院・診療所 総数	
	実数	人口10万対	実数	人口10万対	実数	人口10万対	実数	人口10万対
県計	14,610	159.7	3,152	34.5	278	3.0	18,040	197.3
横浜市保健所	6,417	172.0	1,301	34.9	106	2.8	7,824	209.7
川崎市保健所	2,494	167.4	455	30.5	41	2.8	2,990	200.7
相模原市保健所	1,084	150.2	312	43.2	29	4.0	1,425	197.5
横須賀・三浦	1,139	152.1	251	33.5	24	3.8	1,414	189.4
湘南東部	1,142	156.2	213	29.4	14	2.1	1,369	187.7
湘南西部	799	134.8	268	47.2	17	3.0	1,084	185.0
県央	1,029	125.6	243	27.6	31	3.4	1,303	156.6
県西	506	141.2	109	30.0	13	4.5	628	175.7
最大地域格差 薬剤師数		46.4		19.6		2.4		53.1

※平成28年神奈川県衛生統計年報統計表(第2部 医療施設調査・病院報告、医師・歯科医師・薬剤師調査)

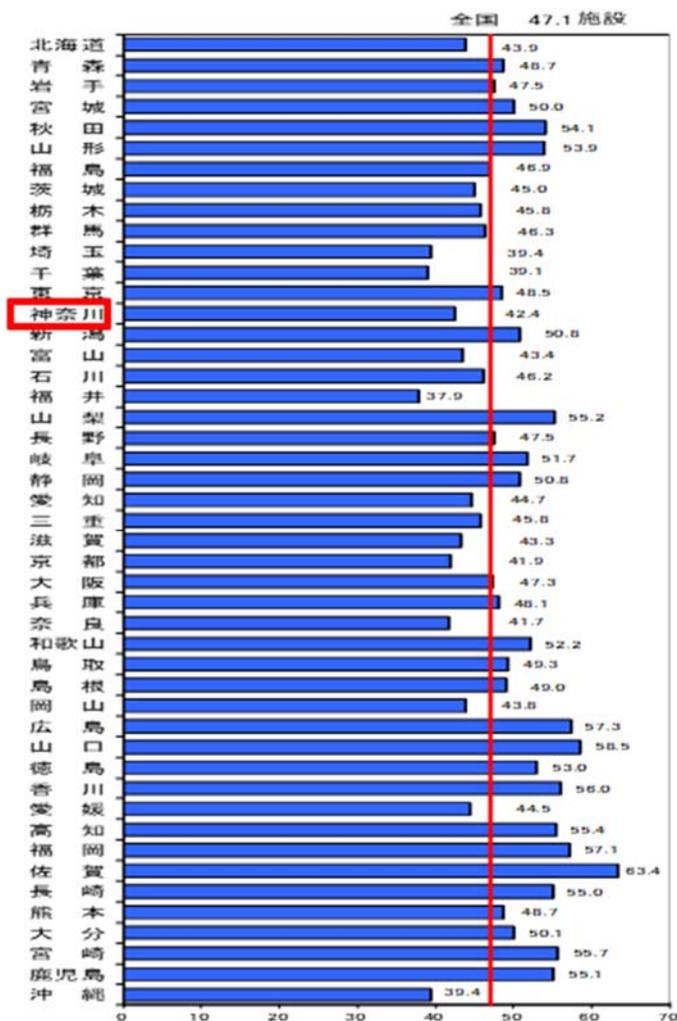
## (6). 薬事関係

平成 30 年度衛生行政報告例の概況(厚生労働省)(図 7)から、平成 30 年度末現在の神奈川県の数局数は、3,888 施設(全国 2 位)であるにもかかわらず、人口 10 万人あたり 42.4薬局数(全国 40 位)である。

今後、神奈川県は、2019 年度の 65 歳以上の高齢人口が 229 万人から 2040 年には、292万人になる(伸び率 59.6%)ことが予測されている。高齢者の増加により、高齢者特有の疾患などが増えることで在宅医療のニーズが伸びることが予測される。そのため、在宅医療中の患者のもとへ医薬品を届け、管理する訪問薬剤管理指導を行うことができる薬局・薬剤師の需要は比例して高くなることも予測される。

また、薬剤師の需要のみならず、薬剤師として求められる役割について、薬局では、かみりつけ薬剤師・薬局として対人業務(在宅、医療機関等との連携)を充実させことが求められている(厚生労働省「患者のための薬局ビジョン」(平成 27 年)。これらのような対人業務(在宅訪問など)の増加が今後見込まれると外来患者に対する業務とは内容や所要時間が異なり、薬剤師の必要性がさらに増加すると考えられる。また、現在進められている「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律等の一部を改正する法案」では、薬剤師に調剤時だけでなく、患者の服用機関中の服薬状況の把握や薬学的知見に基づく指導を行うことが義務付けられ、薬剤師の仕事の幅がより広がることが伺える。

図7 都道府県別にみた薬局数(人口10万対) 平成30年度末現在



上記の社会背景を踏まえ、

- 1 政府の方針は、かかりつけ機能の強化や薬局の対物業務から対人業務への推進
- 2 診療報酬改定は、薬剤師が医療従事者の負担軽減及び薬物療法の有効性、安全性の向上に資する業務(病棟薬剤業務)を評価
- 3 勤務医の負担軽減策として「薬剤師による投薬に係る入院患者への説明」、「薬剤師による処方提案等」、「医師業務の薬剤師との分担」の取り組み
- 4 薬剤師の地域偏在の解消

などが進められている現在、病院薬剤師の必要性はさらに高まっており、特に、「病棟配置薬剤師」を雇用する病院が増加すると予測される。

湘南医療大学薬学部では、グループ病院などの協力体制により、調剤から病棟での服薬支援、チーム医療など幅広い臨床薬学スキルを学べる医療環境が整っている。これからの薬局・薬剤師に求められる対人業務が行える質の高い薬剤師を養成することが社会的な需要であり、本薬学部設置の趣旨等を記載した書類P3「(3)薬学部設置の必要性」に記載する下記の内容は、その需要に合致するものである。

- ・臨床現場におけるチーム医療を推進でき、その中心的役割を果たし、個々の患者の立場を考えて行動できること
- ・地域医療の実情を熟知し、健康増進・予防活動ができること。
- ・服薬指導・薬歴管理・安全な薬物治療に対する専門的な知識、技術の提供など、ファーマシューティカル・ケアができること

## 資料目次

- 資料 1 : 18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移
- 資料 2 : 全国と首都圏における 18 歳人口の推移
- 資料 3 : 入学定員充足率等の推移(大学)及び学部系統別の動向 (大学・薬学部)
- 資料 4 : 平成 31 年度大学進学者数と薬学系入学者数
- 資料 5 ~ 8 : 近隣大学の志願動向について
- 資料 9 : 湘南医療大学保健医療学部入試結果
- 資料 10 : 湘南医療大学 高校訪問実績・高校内ガイダンス参加実績・出前授業・大学  
見学会実績
- 資料 11 : 2021 年度学生募集(2020 年度実施)オープンキャンパス・入試対策企画
- 資料 12 : 湘南医療大学 2019 年度公開講座
- 資料 13 : 湘南医療大学「薬学部医療薬学科 (仮称)」設置構想に係るニーズアセスメ  
ント調査【人材需要に関するアンケート調査】
- 資料 14 : 湘南医療大学「薬学部医療薬学科 (仮称)」設置構想に係るニーズアセスメ  
ント調査【学生確保の見通しに関する高校生アンケート調査】
- 資料 15 : 湘南医療大学「薬学部医療薬学科 (仮称)」設置構想に係るニーズアセスメ  
ント調査実施時提示資料
- 資料 16 : 一般社団法人日本病院薬剤師会案内書
- 資料 17 : 2019 年度全国私立大学 6 年制薬学部入学定員一覧
- 資料 18 : 2017-2019 年度 湘南医療大学 近隣都県別 入学者数
- 資料 19 : 令和元年度神奈川県学校基本統計 (学校基本調査報告書) 統計表
- 資料 20 : 薬学部進学実績調査(56 校)
- 資料 21 : 2040 年度までの神奈川県 18 歳人口推移並びに大学進学薬学部進学率の予測
- 資料 22 : 既存保健医療学部の志願倍率・実質倍率
- 資料 23 : 調剤医療費の推移
- 資料 24 : 薬局薬剤師数と薬局数の推移
- 資料 25 : 薬局数の推移等
- 資料 26 : 薬局医療施設に従事する薬剤師数の推移





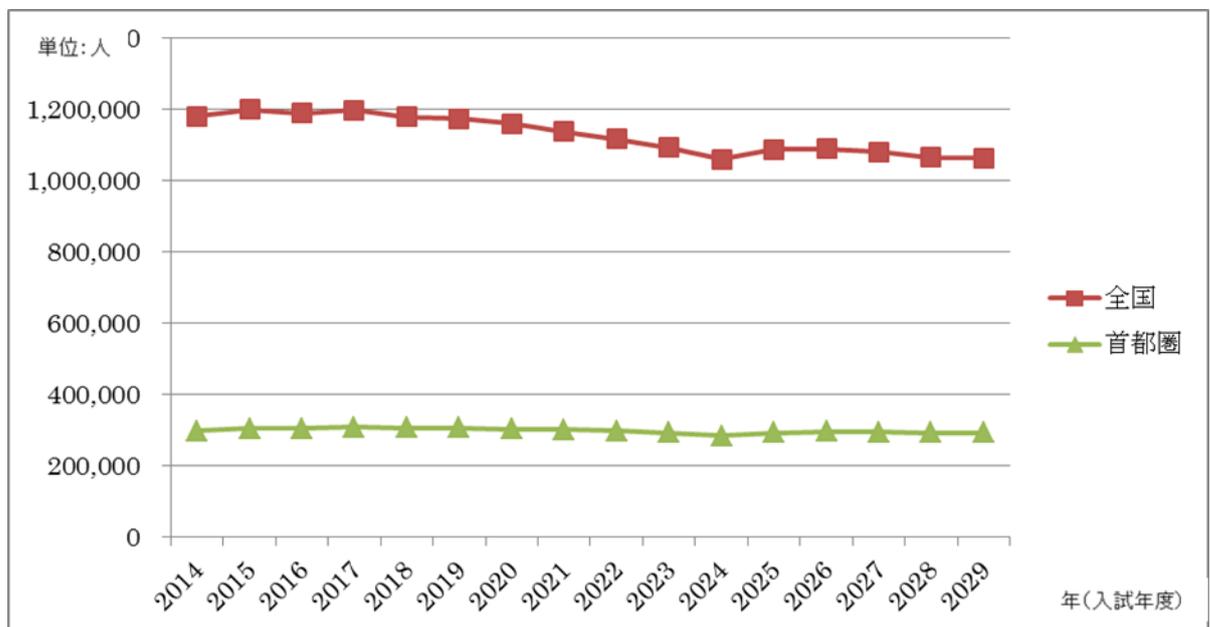
資料 2：全国と首都圏における 18 歳人口の推移

全国と首都圏における 18 歳人口の推移

単位：人

入試年度(年)	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
全国	1,180,838	1,199,977	1,190,262	1,198,290	1,179,808	1,174,801	1,160,267	1,138,252
首都圏	297,512	305,067	304,670	307,864	305,851	306,595	302,755	300,812

2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
1,117,821	1,093,733	1,061,074	1,087,739	1,089,471	1,081,221	1,065,398	1,063,754
297,703	292,454	284,427	293,437	295,722	294,348	292,944	292,648



文部科学省「学校基本調査（速報値）」より

資料 3: 入学定員充足率等の推移(大学)及び学部系統別の動向 (大学・薬学部)

入学定員充足率等の推移(大学)から抜粋

年度	志願者数
24	3,198,128
25	3,390,069
26	3,464,428
27	3,513,499
28	3,629,273
29	3,882,572
30	4,158,500
31	4,425,625

学部系統別の動向 (大学・薬学部)

年度	入学定員 (人)	志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	入学者 (人)	志願倍率 (倍)
24	11,579	82,573	78,156	28,551	11,630	7.13
25	11,524	104,253	99,122	29,639	12,556	9.05
26	11,484	121,876	115,935	29,454	12,224	10.61
27	11,584	116,498	110,490	30,051	11,816	10.06
28	11,564	105,573	99,609	30,842	11,420	9.13
29	11,517	101,109	95,075	31,195	11,482	8.78
30	11,451	96,008	89,848	30,387	10,949	8.38
31	11,356	89,223	83,103	31,311	10,613	7.86

参照：私立大学・短期大学入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）

## 資料 4: 平成 31 年度大学進学者数と薬学系入学者数

文部科学省令和元年度「学校基本調査」確定値 P4 表 3 「高等学校卒業後の状況」より

表3 高等学校卒業後の状況

(単位:人,%)

区 分	卒業者	大学・短大 進学者(率)	うち大学(学部) 進学者(率)	専門学校 進学者(率)	専修学校 (一般課程)等 入学者(率)	公共職業能力 開発施設等 入学者(率)	就職者 (卒業者に占める 就職者の割合)	うち正規の職員 等(率)	一時的な仕事に 就いた者(率)	左記以外の者 (率)
平成22年3月	1,071,422	582,272 (54.3)	513,013 (47.9)	170,352 (15.9)	68,117 (6.4)	7,696 (0.7)	168,727 (15.7)	...	15,560 (1.5)	59,703 (5.6)
23年3月	1,064,074	573,679 (53.9)	507,509 (47.7)	172,200 (16.2)	66,592 (6.3)	6,904 (0.6)	173,566 (16.3)	...	14,994 (1.4)	56,965 (5.4)
24年3月	1,056,387	565,779 (53.6)	503,545 (47.7)	177,486 (16.8)	64,305 (6.1)	6,796 (0.6)	176,931 (16.7)	...	13,892 (1.3)	51,922 (4.9)
25年3月	1,091,614	581,144 (53.2)	517,416 (47.4)	185,588 (17.0)	66,494 (6.1)	6,852 (0.6)	184,656 (16.9)	...	13,623 (1.2)	53,951 (4.9)
26年3月	1,051,343	566,309 (53.9)	505,240 (48.1)	178,735 (17.0)	57,154 (5.4)	6,412 (0.6)	183,635 (17.5)	...	11,957 (1.1)	47,795 (4.5)
27年3月	1,068,989	583,533 (54.6)	522,656 (48.9)	178,069 (16.7)	55,468 (5.2)	6,383 (0.6)	189,739 (17.7)	187,677 (17.6)	9,616 (0.9)	46,721 (4.4)
28年3月	1,064,352	583,704 (54.8)	525,195 (49.3)	173,629 (16.3)	57,006 (5.4)	6,165 (0.6)	189,868 (17.8)	188,053 (17.7)	8,397 (0.8)	46,057 (4.3)
29年3月	1,074,655	589,121 (54.8)	532,558 (49.6)	173,939 (16.2)	56,912 (5.3)	6,367 (0.6)	190,311 (17.7)	188,847 (17.6)	7,797 (0.7)	50,641 (4.7)
30年3月	1,061,565	581,958 (54.8)	527,996 (49.7)	169,058 (15.9)	58,083 (5.5)	6,245 (0.6)	186,289 (17.5)	184,921 (17.4)	6,987 (0.7)	53,199 (5.0)
31年3月	1,055,807	578,382 (54.8)	527,457 (50.0)	172,339 (16.3)	53,389 (5.1)	5,962 (0.6)	185,613 (17.6)	184,523 (17.5)	6,526 (0.6)	53,548 (5.1)

(ウ) (エ)

(注) 1 「就職者」には、大学・短大・専門学校等に進学した者のうち就職している者を含む。

2 大学・短期大学進学率 =  $\frac{\text{大学の学部, 短期大学の本科, 大学・短期大学の通信教育部, 同別科及び高等学校・特別支援学校高等部の専攻科に進学した者}}{\text{各年3月の高等学校卒業生及び中等教育学校後期課程卒業生}}$

3 卒業者に占める就職者の割合 =  $\frac{\text{就職者}}{\text{各年3月の高等学校卒業生及び中等教育学校後期課程卒業生}}$

## 1. 書類等の題名

本文 P4—P5 近隣大学の志願動向について

【資料5】【資料6】【資料7】【資料8】

## 2. 出典

大学 WEB ページ

薬事日報 薬大 薬学部調査

## 3. 引用範囲

WEB ページと調査結果より数値を引用

## 4. その他の説明

- ・ 志願動向から関東圏の入学者予想を行った

資料 9: 湘南医療大学保健医療学部入試結果

募集年度	学科	定員	志願者	受験者	合格者	入学者	定員超過率
2016	看護学科	80	516	493	133	82	1.03
	リハビリテーション学科	80	443	419	129	86	1.08
	理学療法学専攻	40	323	304	64	43	1.08
	作業療法学専攻	40	120	115	65	43	1.08
	計	160	959	912	262	168	1.05
2017	看護学科	80	428	415	221	102	1.28
	リハビリテーション学科	80	401	394	141	88	1.10
	理学療法学専攻	40	304	298	61	46	1.15
	作業療法学専攻	40	97	96	80	42	1.05
	計	160	829	809	362	190	1.19
2018	看護学科	80	536	492	147	85	1.06
	リハビリテーション学科	80	413	396	117	86	1.08
	理学療法学専攻	40	266	256	59	43	1.08
	作業療法学専攻	40	147	140	58	43	1.08
	計	160	949	888	264	171	1.07
2019	看護学科	80	516	492	136	84	1.05
	リハビリテーション学科	80	367	356	141	86	1.08
	理学療法学専攻	40	269	261	64	45	1.13
	作業療法学専攻	40	98	95	77	41	1.03
	計	160	883	848	277	170	1.06

資料 10: 湘南医療大学 高校訪問実績・高校内ガイダンス参加実績・出前授業・大学見学会実績

湘南医療大学 高校訪問実績・高校内ガイダンス参加実績・出前授業・大学見学会実績

高校訪問実績 単位:件

29年度	30年度	31年度 (10月まで)
371	398	350

高校内ガイダンス 参加実績

29年度	30年度	31年度 (10月まで)
112	157	143

高校出前授業・大学見学会 実績

29年度	30年度	31年度 (10月まで)
17	28	19

資料 11: 2021 年度学生募集(2020 年度実施)オープンキャンパス・入試対策企画

	日程		オープンキャンパス内容
1	4月25日	土	入試準備説明会
2	5月30日	土	オープンキャンパス
3	6月27日	土	オープンキャンパス
4	7月18日	土	総合型・学校推薦型 入試対策演習講座 (プレ入試)
5	8月8日	土	夏のオープンキャンパス
6	8月29日	土	夏のオープンキャンパス～授業体験フェスタ～
7	9月19日	土	総合型・学校推薦型 入試対策説明会
8	10月31日	土	入試対策演習講座 (プレ入試)
9	11月21日	土	オープンキャンパス in 大学祭
10	12月26日	土	入試直前対策説明会
11	1月8日	金	入試直前対策説明会
12	3月28日	日	春のオープンキャンパス

※この他、平日個別相談会を実施。また、薬学部認可後追加説明会は別途実施予定

「入試対策中心の企画及び体験や学校見学が中心の企画」

- |            |   |
|------------|---|
| 推薦入試対策説明会  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.大学の特色等概要説明 (学費・奨学金について含む)</li> <li>2.入試概要説明</li> <li>3.過去問演習&amp;解説</li> <li>4.各学科専攻の先生による個別相談コーナー</li> <li>5.入試担当スタッフによる個別相談コーナー</li> </ol>                     |
| 入試直前対策説明会  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.大学総合説明</li> <li>2.入試総合説明(面接含む)</li> <li>3.入試問題傾向と対策</li> </ol>   |
| 入試準備説明会    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.大学の特色等概要説明 (学費・奨学金について含む)</li> <li>2.入試概要 (予定) 説明/入試の傾向と準備ポイント</li> <li>3.入試問題演習&amp;解説</li> <li>4.各学科専攻の先生による個別相談コーナー</li> <li>5.入試担当スタッフによる個別相談コーナー</li> </ol> |
| AO 入試対策説明会 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.大学概要説明</li> <li>2.入試概要説明</li> </ol>  |

- 3.面接&試験の準備について
- 4.英語 問題演習+解説
- 5.各学科専攻 個別相談コーナー

**資料 12：湘南医療大学 2019 年度公開講座**

	日時	テーマ
第 1 回	5/18(土)	「作業療法で脳力回復～脳卒中を例に～」
		「理学療法士のお仕事」
第 2 回	6/8(土)	「介護者の負担を減らす試み」
		「こころが風邪をひいたときは」
第 3 回	7/27(土)	「色彩効果で脳力活性、コミュカアップ！」
第 4 回	9/28(土)	「人口減少と AI ～40 年後の未来をどう生きる？～」
		「作業療法士のお仕事」
第 5 回	10/5(土)	「知っておくと困らない耳・鼻・のどの病気」
		「こころと身体のリハビリテーション」
第 6 回	10/26(土)	「美味しく食べて健康年齢を伸ばそう」
		「指が思うように動かない、これって病気？ -音楽家を襲う病気『ジストニア』とは-」
第 7 回	11/23(土)	「100 歳まで脳を元気に」
第 8 回	3/14(土)	「呼吸器と肌を快適に -アレルギーの病気を”ゼロ”にする方法-」
		「あなたの脳は右利き？左利き？」
第 9 回	3/28(土)	「動きの若返りは脳リハで」

湘南医療大学「薬学部医療薬学科（仮称）」

設置構想に係るニーズアセスメント調査

【人材需要に関するアンケート調査】

報告書

令和2年1月

株式会社高等教育総合研究所

# 目次

1	調査の概要	1
2	全質問項目の集計結果	2
3	集計結果のポイント	10

## 添付資料

「湘南医療大学 薬学部医療薬学科（仮称）設置構想についての採用意向アンケート調査」用紙

## 1 調査の概要

◆調査の目的：本調査は、湘南医療大学が令和3年4月設置に向けて構想中の「薬学部医療薬学科（仮称）」の卒業生の就職におけるニーズを、大学外の公正な第三者機関によりアンケートを用いて測ることを目的とする。

◆調査期間：令和元年10月～12月

◆調査対象：令和3年4月に設置構想中の薬学部医療薬学科（仮称）の卒業生の採用が期待できる機関・企業1,206件を対象とした。なお、機関・企業の抽出条件は以下の通り。

業種	都道府県	抽出条件	施設数
病院	神奈川県、東京都(町田市、八王子市、品川区、大田区、目黒区)、山梨県、長野県、静岡県	病床数100以上	563
薬局	神奈川県、東京都(町田市、八王子市、品川区、大田区、目黒区)、山梨県、長野県、静岡県	常勤薬剤師4名以上 ※チェーン店を除く	291
	上記除く、全国	日本チェーンドラッグストア協会加盟	108
医薬品の販売業者、製造業者	関東圏	公益社団法人東京医薬品工業協会、日本家庭薬協会、日本医薬品直販メーカー協議会、日本製薬工業協会の各会員	244
合計			1,206

◆調査方法：調査対象とした1,206件の採用担当者宛てに、湘南医療大学が構想中の薬学部医療薬学科（仮称）の概要とアンケート用紙を送付。回答後、返信を求めた。

◆調査内容：アンケート項目は全8問で、6問が選択肢式、2問を記述式とした。主な質問内容は、以下の通りである。

『機関・企業の基本情報』

『機関・企業が大学卒業生を採用する際に重視する点について』

『湘南医療大学薬学部医療薬学科（仮称）の卒業生の採用見込みについて』

◆回収件数：264件（配布件数1,206件 / 回収率21.9%）

## 2 全質問項目の集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0% と一致しない。

2～9 ページは、アンケートで回答を得た 264 件の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

問1 貴機関・貴社の主業種をお答えください。(あてはまるもの1つに○をしてください。)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	病院	130	49.2%
2	保険薬局	78	29.5%
3	ドラッグストア	22	8.3%
4	小売業(薬局以外を含む)	3	1.1%
5	製造業(製薬・創薬)	23	8.7%
6	製造業(食品・飲料)	2	0.8%
7	国家公務員	0	0.0%
8	地方公務員	1	0.4%
9	その他の団体	0	0.0%
10	その他	3	1.1%
	無回答	2	0.8%
	計	264	100.0%

問2 貴機関・貴社の所在地(複数の場合は本部所在地)をお答えください。(あてはまるもの1つに○をしてください。)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	神奈川県	103	39.0%
2	東京都	50	18.9%
3	静岡県	34	12.9%
4	山梨県	19	7.2%
5	長野県	29	11.0%
6	その他	27	10.2%
	無回答	2	0.8%
	計	264	100.0%

**問3 貴機関・貴社に所属している薬剤師(常勤・非常勤)の規模をお答えください。  
(枠内に記入ください。)**

※ 記入があった人数を、以下の区分で集計した。

**【常勤】**

番号	選択項目	回答数	構成比
1	～3 人	74	28.0%
2	4 人～10 人	87	33.0%
3	11～50 人	61	23.1%
4	51～100 人	15	5.7%
5	101～200 人	7	2.7%
6	201～500 人	11	4.2%
7	501～1000 人	4	1.5%
8	1001 人～	2	0.8%
	無回答	3	1.1%
	計	264	100.0%

**【非常勤】**

番号	選択項目	回答数	構成比
1	0 人	74	28.0%
2	1～3 人	96	36.4%
3	4 人～10 人	37	14.0%
4	11～50 人	23	8.7%
5	51～100 人	9	3.4%
6	101～200 人	7	2.7%
7	201～500 人	2	0.8%
8	501～1000 人	2	0.8%
9	1001 人～	2	0.8%
	無回答	12	4.5%
	計	264	100.0%

問4 貴機関・貴社における、薬剤師の充足状況についてお答えください。(あてはまるもの1つに○をしてください。)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に不足している	23	8.7%
2	不足している	135	51.1%
3	わからない	2	0.8%
4	ある程度充足している	73	27.7%
5	充足している	30	11.4%
	無回答	1	0.4%
	計	264	100.0%

問5 湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科(仮称)」は、「豊かな人間性と高度な専門性を併せ備えた人材、臨床現場で患者中心のチーム医療を実践できる人材、神奈川圏域の地域包括医療の特性を理解して健康増進と予防を科学的・総合的に考え、地域貢献できる人材の養成」を目的として設置される学部です。  
このような人材養成について、どの程度必要性を感じますか。(あてはまるもの1つに○をしてください。)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	非常に必要性を感じる	115	43.6%
2	ある程度必要性を感じる	106	40.2%
3	わからない	28	10.6%
4	あまり必要性を感じない	9	3.4%
5	必要性を感じない	5	1.9%
	無回答	1	0.4%
	計	264	100.0%

問6 湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科(仮称)」の卒業した人材を、将来、薬剤師として採用したいと思いますか。(あてはまるもの1つに○をしてください。)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	96	36.4%
2	採用を検討したい	109	41.3%
3	わからない	49	18.6%
4	採用を希望しない	8	3.0%
	無回答	2	0.8%
	計	264	100.0%

以下は「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」と回答した 205 件が回答対象である。

問7 問6で「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」と回答した方は、採用可能であると思われる人数をお答えください。(あてはまるもの1つに○をしてください。)

番号	記述内容	回答数	構成比
1	1名	53	25.9%
2	2名	52	25.4%
3	3名	21	10.2%
4	4名	1	0.5%
5	5名以上	19	9.3%
6	人数は未確定	58	28.3%
	無回答	1	0.5%
	計	205	100.0%

問8 湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科(仮称)」にご意見・ご要望等ございましたら、お聞かせください。

※ 69 件から回答を得た。

業種	記述内容
病院	将来を期待しています
病院	患者の声が聴けるコミュニケーション能力の高い薬剤師が育つことを願ってます。
病院	入院患者、外来患者さんへの処方に対し、医師に忠告できるような人材・教育を期待します
病院	貴法人内で採用が埋まってしまうことを懸念します。
病院	神奈川県内の病院で勤務される薬剤師の輩出願います。
病院	病院の薬剤師を希望する学生が年々減少しているように感じます。給料も非常に大事ですが、臨床の重要性、面白さなど、魅力を伝えるような学科になることを期待致します。
病院	基礎的な学力もある程度の質を要望します
病院	授業のコマ数を増やして(土曜含む)、留年のないよう6年間で国試をストレートに通るような生徒、保護者にバックアップをお願いしたい。
病院	薬剤師の就職先は近年非常に多様化しており、いろいろな業種が色々な処遇で求人していますが、就職観(仕事に対する考え方)などをしっかり持てるような教育をお願い致します。
病院	新規薬科大学の多くが入学したのに国試に受からないレベル。今後、調剤薬局の業務も見直され、薬剤師の需要は減っていくと思う。
病院	医療に携わる者は豊かな人間性が大切です。また今の医療は専門性も必要です。頭でっかちにならないでほしい。薬剤師の基本業務から専門性までの力をもって臨床現場で活躍できる人材を育成していただきたいです。
病院	病院勤務薬剤師不足の折、薬学部設置を応援します
病院	安定した卒業生の供給、採用ができればありがたい。
病院	実習等の受け入れについては別途検討したく存じます。
病院	モノからヒトへの中で、質を担保していくことが重要だと考えています。
病院	地域貢献を強く打ち出し、卒後、地域や地元で活躍できる人材を希望します。
病院	勉強熱心で、かつハートの強い学生を育てて下さい。又、プロとしてお金をもらうことの苦勞、意味を親のように教えてあげて欲しい。
病院	実習の学生は受け入れたい
病院	患者中心のチーム医療を実践できる人材の育成に力を入れていただきたい。
病院	人材不足のための良い人材ができるだけ多くグループで活躍できるようにバックアップよろしくお長居します。
保険薬局	患者中心とは、現場での職務と理想のギャップに悩む気がします。
保険薬局	薬局実習で限らず就職を前提として紹介頂けるとお互いに遣り甲斐があって宜しいと思います。
保険薬局	薬剤師が関わる職種は多岐にわたると考えられます様に女性ならではの活躍できる将来を期待してキャリアプランなどもしっかりサポートする土台があればと思います。

保険薬局	7年後に薬剤師が必要かわからない。学校が多すぎる現状があります。
保険薬局	今後薬剤師難民が増えていく。大学を出てからの薬剤師の活躍の場は小さくなっていくため学部の前に薬局経済を上昇させなくては将来の若い薬剤師は不幸に陥る。
保険薬局	学生推薦を取り入れ、優秀な学生を確保させてください。
保険薬局	神奈川県は対人口比の薬剤師数を確保するための学部が少なく、結果としてIターン、Uターン就職しにくい（横浜、川崎など都市部を除く）地域が多く、地域の医療を担う教育機関の早期確保が急務である。
保険薬局	最初はなかなか難しいでしょうが、本当にやる気のある真面目な学生を育ててほしいです。あまり目標もなく薬学部を選ぶ学生が多く、何度も留年したあげく資格を取れない人が多いようです。本人も親も大変だと思うので、広く入学させてテストで絞り、留年卒延で合格率を上げる学校にしないでください。学生実習も受けていますが、やる気の無い学生は本当に困ります。
保険薬局	薬学部の偏差値も低い所が増えて、かつ、卒業できずドロップアウトする学生も増えているとのこと。また、定員に満たない大学も多々あると聞きます。
保険薬局	現在は2店舗ですが、1店舗は健康サポート薬局、もう1店も年内に収得予定です。地域包括ケアを担っていける人材は魅力的です。期待しています。
保険薬局	私大薬学部がなく、毎年180名前後の学生が静岡県から全国の薬学部へ入学している現状の中、隣件に新設していただけることは本当にありがたく存じます。新設されましたら、またご挨拶に伺いたいと存じます。
保険薬局	第一類OTC等が販売出来、なおかつ医療薬学に精通している頭でっかちでない薬剤師が必要である。
保険薬局	これから臨床で働く薬剤師に望まれていること、やるべきことは誠に貴校の薬学部設置理念だと思います。期待しております。
保険薬局	将来、薬剤師が過剰になると言われているなか、学部新設をするからには十分な質の担保された人材を輩出してほしい
保険薬局	新設薬科大のほとんどが卒業、国家試験を合格できずにいます。
保険薬局	最近の新卒の質の低下が著しい。薬局はこれから淘汰される時代です。
保険薬局	コンセプト通りの人材養成を行ったとしても、実践で使える人材になるかは別。対面で応用のきく人材養成をお願い致します。
保険薬局	しっかりとした医療人の心構えをもった社会人の育成をお願いした。湘南医療大学卒業生は知識・実務・礼儀ともに素晴らしいとうわさされるように教育してください。「うわさ」は医療業界では意外に早くまわります
保険薬局	薬学部・薬科大学の定員数はすでに飽和状態だと思います。定員に満たない大学も多数発生しております。薬剤師になるにふさわしい学生を選抜し、入学させるようにお願いします。
保険薬局	新卒採用を積極的にしております。また当薬局は実習受け入れもしておりますので対象の方がおられましたらお知らせください。
保険薬局	国試合格率、人数を高い推移を維持してほしい
保険薬局	薬剤師があふれる時代となる近い将来、開設そのものに疑問を感じる。必要性を全く感じない
保険薬局	これから10年先の予想をするのは難しいですが、行動力のある薬剤師が増えてくれれば心強いです
保険薬局	添付書類から「質の高い薬局治療も実践する薬剤師」を育成したいという目的は理解できました。現状、薬局に求められるものは薬物治療だけではなく、健康増進・予防もありますが多くの大学が国家試験のための授業となり、健康・予防の観点が

	弱いと感じています。薬剤師が30万人を超えている今、新設するのであれば「ストレート合格率」も高く、健康・予防への意識の高い人材を育成していただきたいと思えます。
保険薬局	弊社は積極的に薬学生の採用をしております。また調剤薬局事務の新卒採用も行っておりますので今後とも情報交換出来たら幸いでございます。何卒よろしくお願い申し上げます。
保険薬局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜薬科大学と同じように特待生制度などを導入してほしい</li> <li>・横須賀学院に指定校推薦枠をぜひつuckingて頂きたいです。子供が現在高一で薬学部入学を目指しています。</li> </ul>
保険薬局	就職支援でUターン、インターンも勧めていただければ助かります。
保険薬局	大勢入学させるのはいいが、良い人材を、そして国試に必ず合格する様にしてください。
保険薬局	今後、薬剤師が毎年獲得できるよう大いに期待しています。
保険薬局	低い偏差値で入学させ、留年を重ね、結局放校となる若者が多く出るような事は避けていただきたい。薬剤師教育の根本となる、医療人としての薬剤師としての倫理観をしっかりと養っていただける薬学部を強く願います。
保険薬局	病理・病態を共に学ぶ
ドラッグストア	基本薬剤師は接客業となる。それは調剤薬局でも同じ事。他者コミュニケーションがとれない人材は、これから先の時代生きていけない。今後調剤はテクニシャンが多くなってくると思われるので、もっともっと薬剤師は患者様に向き合ってほしいと思えます。
ドラッグストア	人間性を重視して育成してください
ドラッグストア	神奈川地盤の弊社としては将来的に何か協力をしていきたいと考えております。何かございましたら是非お声がけください。
ドラッグストア	新設校は軒並み薬剤師国家試験の合格率が低いので、6年間で卒業できる学生、薬剤師国家試験に合格できる学生を育成・輩出してもらいたい。受験すればだれでも入学できる学校は作らないようにしてもらいたい。同じ神奈川にある企業として貴校に期待しています。
ドラッグストア	近くに薬科大学ができるのはうれしいです
ドラッグストア	出店エリアは中部・北陸地方となっておりますが、今後ご挨拶する機会がございましたら宜しくお願い致します。
ドラッグストア	東京都板橋区を中心に展開しておりますが、患者様お客様を中心に考え、地域に根差した運営をしておりますので是非学内説明会に参加させていただきたいと思えます。
ドラッグストア	同じ関東に拠点を置く企業として貴校の発展を応援しております。何かご協力できることがございましたら、いつでもご連絡ください。
ドラッグストア	処方調剤だけでなく、OTC販売もできるような人材が欲しい。また、わが社に入社した場合はOTCの研修もあります
ドラッグストア	薬剤師試験に合格されまして、弊社に来て頂く学生さんがいらっしゃる事を心待ちにしております。
小売業（薬局以外を含む）	設立を期待しております
製造業（製薬・創薬）	神奈川県圏域だけでなく全国的な人材育成をお願いしたい
製造業（製薬・創薬）	「仁」を中心に学ぶ機関が必要と考えます。医師の下請け（処方箋）では国民の健

	康は守れません。
製造業（製薬・創薬）	幅広い視野を持った社会人としての薬剤師の育成を遂行する教育機関であってほしい
製造業（製薬・創薬）	新設学部の益々のご繁栄と学生の皆様のご活躍を祈念しております。弊社は埼玉と静岡に工場がございます。地元への就職をご希望される場合にはぜひご検討ください。
製造業（製薬・創薬）	研究職が人気であるが、工場での仕事の重要性も伝えてください。
製造業（食品・飲料）	当社は食品メーカーということもあるが、事業が多岐にわたり、ヘルスケア事業部があります。そういった食品メーカーでも薬剤師としても活かしていけるポジションがあることを知っていただけたら幸いです。
その他	調剤以外のスキルをもった学生が必要です。学生にもっと臨床を学ばせた方がいいと思います。

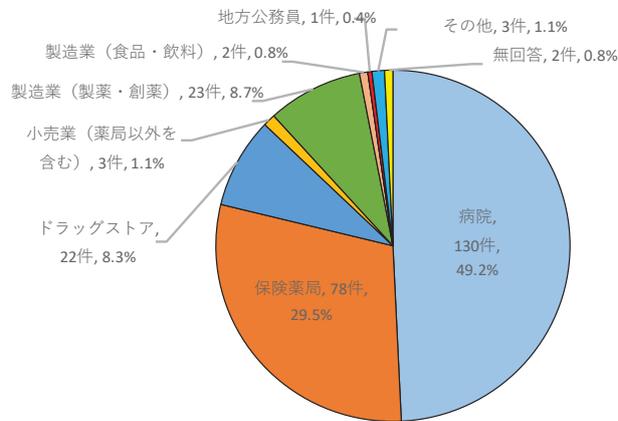
### 3 集計結果のポイント

※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0% と一致しない。

- 全回答のうち、半数が「病院」、3割が「保険薬局」。

人材需要アンケートで回答を得た 264 件の業種として、「病院」(130 件、49.2%)、「保険薬局」(78 件、29.5%)が多い構成となっている。続いて、「製造業(製薬・創薬)」(23 件、8.7%)、「ドラッグストア」(22 件、8.3%)が多くなっている。

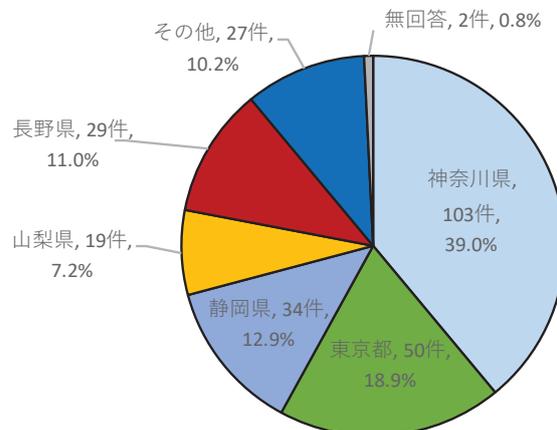
グラフ 回答元の業種 (「問1」結果より)



- 約 4 割が神奈川県に所在する機関・企業。

回答を得た 264 件のうち、「神奈川県」(103 件、39.0%)への回答が多かった。また、「東京都」が 50 件(18.9%)、「静岡県」が 34 件(12.9%)、「長野県」が 29 件(11.0%)、「山梨県」が 19 件(7.2%)であり、神奈川県および隣接都県で回答の 9 割を構成している。

グラフ 回答元の所在地 (「問2」結果より)

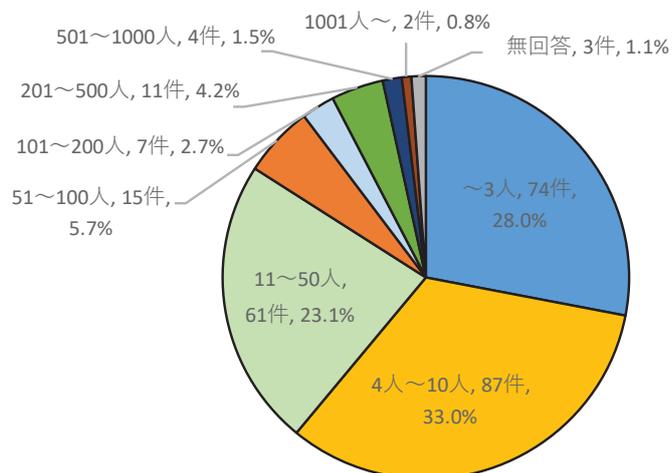


● 回答のあった機関・企業の常勤薬剤師の規模は、最小が1人、最大が2,500人。

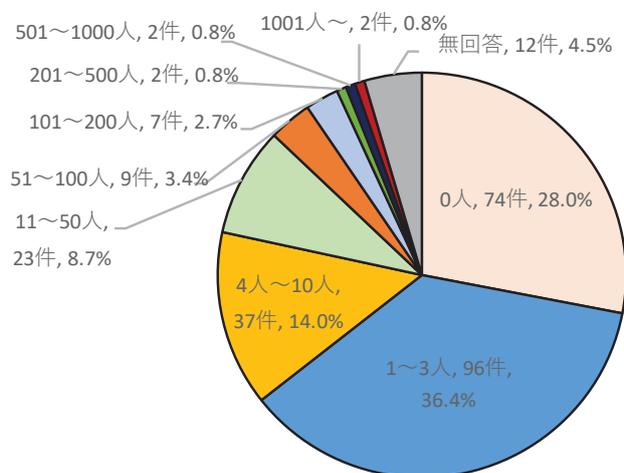
回答を得た264件に所属する薬剤師の規模を常勤、非常勤別で質問（数値記入）した。常勤の回答は、最小が「1人」、最大が「2,500人」であった。さらに、区分別で集計したところ、「1～3人」が74件（28.0%）、「4人～10人」が87件（33.0%）、「11～50人」が61件（23.1%）と、小、中規模の機関・企業が6割となっている一方で、「501～1,000人」が4件（1.5%）、「1001人～」が2件（0.8%）と、大規模な機関・企業からも回答を得ている。

非常勤の回答は、最小で「0人」、最大で「2,000人」であった。区分別で集計した結果、74件（28.0%）が「0人」と、回答が目立った。また、「1～3人」が96件（36.4%）、「4～10人」が37件（14.0%）と、半数が10人以下の回答であった。

グラフ 回答元の所属する薬剤師の規模【常勤】（「問3」結果より）



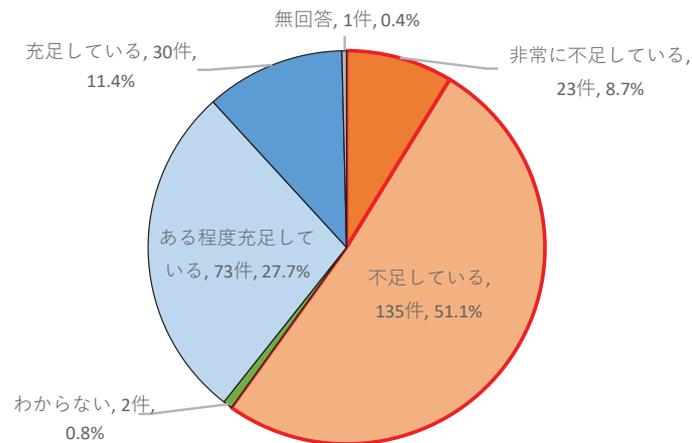
グラフ 回答元の所属する薬剤師の規模【非常勤】（「問3」結果より）



● 6割の機関・企業が薬剤師が「不足している」と回答。

回答を得た 264 件に薬剤師の充足状況を質問したところ、「非常に不足している」に 23 件 (8.7%)、「不足している」に 135 件 (51.1%) が回答し、合計で 59.8%にあたる 158 件が、薬剤師の不足状況を示した。

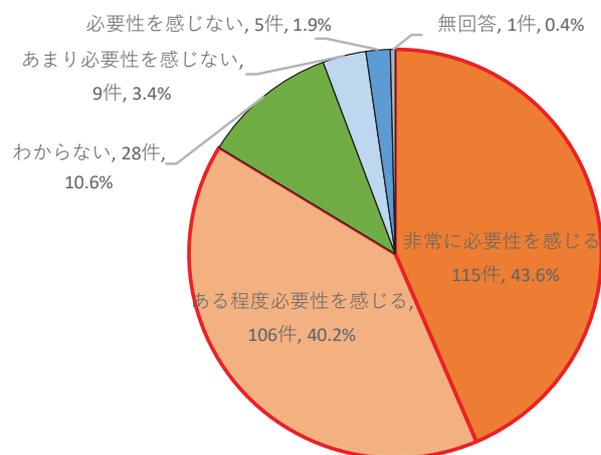
グラフ 回答元の薬剤師の充足状況（「問4」結果より）



● 8割の機関・企業が、養成する人材について「必要性を感じる」と回答。

回答を得た 264 件に湘南医療大学が構想する「薬学部医療薬学科（仮称）」が養成する人材への必要性について質問したところ、「非常に必要性を感じる」に 115 件 (43.6%)、「ある程度必要性を感じる」に 106 件 (40.2%) が回答し、合計で 83.7%にあたる 221 件より、必要性を感じるとの回答を得られた。

グラフ 湘南医療大学「薬学部医療薬学科（仮称）」で養成する人材の必要性（「問5」結果より）

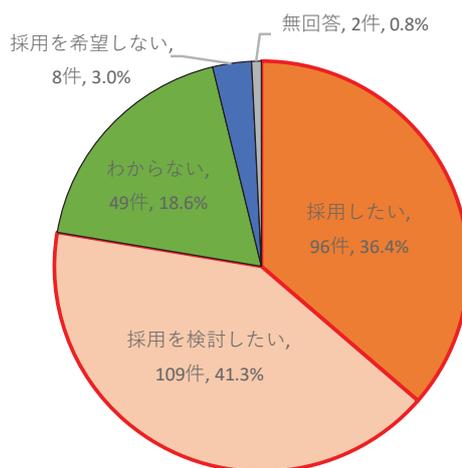


● 「薬学部医療薬学科（仮称）」卒業生に 205 件が採用意欲を示し、採用可能人数は 377 人。

湘南医療大学が構想する「薬学部医療薬学科（仮称）」の卒業生について、96 件（36.4%）が「採用したい」、109 件（41.3%）が「採用を検討したい」と回答し、合計で 205 件（77.7%）が採用意欲を示した。業種別の採用意欲をみると、問 1 で回答のあった 8 業種（その他含む）のうち、5 業種が「採用したい」と回答しており、「採用を検討したい」と回答した機関・企業を含めると、8 業種全てから採用意欲を示す回答が得られた。

なお、採用意欲を示した 205 件には、採用可能な人数への回答を求めており、その合計は 377 人となった（「人数は未確定」の回答は最低人数として「1 人」を計上）。なお、「採用をしたい」と回答した 96 件のみで見た場合、採用可能な人数の合計が 229 人となり、湘南医療大学が構想する「薬学部医療薬学科（仮称）」が予定する 130 人の入学定員を上回る数値となった。

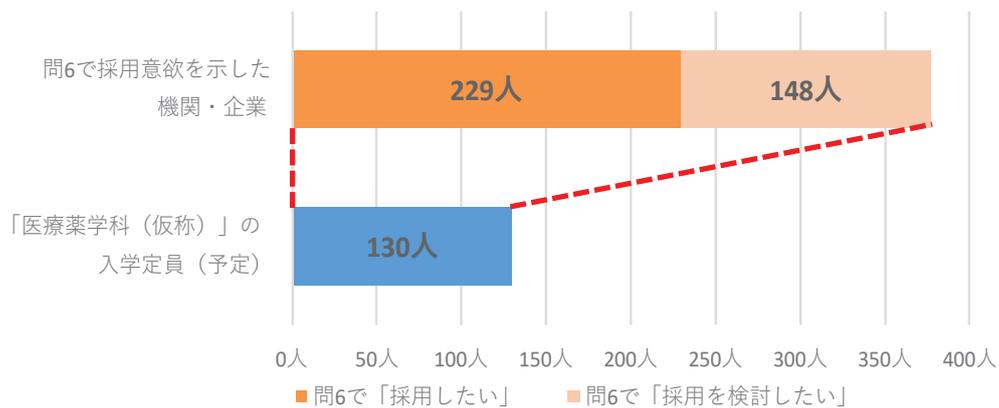
グラフと表 湘南医療大学「薬学部医療薬学科（仮称）」卒業生の採用意欲（「問 6」結果より）



選択項目	採用したい	採用を検討したい	入学意欲合計	回収数
1 病院	52 件	51 件	103 件	130 件
2 保険薬局	22 件	35 件	57 件	78 件
3 ドラッグストア	18 件	4 件	22 件	22 件
4 小売業(薬局以外を含む)	1 件	2 件	3 件	3 件
5 製造業(製薬・創薬)	2 件	13 件	15 件	23 件
6 製造業(食品・飲料)	0 件	1 件	1 件	2 件
8 地方公務員	0 件	1 件	1 件	1 件
10 その他	0 件	1 件	1 件	3 件
無回答	1 件	1 件	2 件	2 件
合計	96 件	109 件	205 件	264 件

表とグラフ 湘南医療大学「薬学部医療薬学科（仮称）」卒業生の採用可能人数（「問7」結果より）

採用可能人数	採用したい		採用を検討したい	
	回答数	合計人数	回答数	合計人数
1人	17件	17人	36件	36人
2人	28件	56人	24件	48人
3人	15件	45人	6件	18人
4人	1件	4人	0件	0人
5人以上(5人として計算)	18件	90人	1件	5人
人数は未確定(1人として計算)	17件	17人	41件	41人
無回答	0件	0人	1件	0人
合計	96件	229人	109件	148人



以上の結果より、湘南医療大学が令和3年4月に設置構想中である「薬学部医療薬学科（仮称）」の人材需要の見通しは、予定する入学定員を上回る採用意欲を得たことから、十分な需要があり、問題ないと判断できる。

## 添付資料

「湘南医療大学 薬学部医療薬学科（仮称）設置構想についての採用意向アンケート調査」用紙

2021年4月開設に向け

設置構想中

※ 学部・学科名称は仮称のため、変更となる場合があります。

### 設置構想についての採用意向アンケート調査

湘南医療大学は2021年4月に、薬学部 医療薬学科(仮称) <入学定員130名予定>の設置を構想しております。本学では、このアンケート調査を通して、将来卒業生の採用をご検討いただく皆様からご意見を賜り、広く社会に貢献できる人材輩出を行ってまいりたいと考えております。

なお、回答いただいた皆様から得られた情報は、湘南医療大学の薬学部 医療薬学科(仮称)の設置に係る統計資料並びに、文部科学省への設置認可申請書類の一部資料としてのみ活用いたします。

何卒ご協力のほど、謹んでお願い申し上げます。

※このアンケート調査は湘南医療大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

はじめに、貴機関・貴社についてお尋ねいたします。

貴機関・貴社名  
※記入は任意です

**問1** 貴機関・貴社の主業種をお答えください。(あてはまるもの1つに○をしてください。)

- |                 |               |               |
|-----------------|---------------|---------------|
| 1. 病院           | 2. 保険薬局       | 3. ドラッグストア    |
| 4. 小売業(薬局以外を含む) | 5. 製造業(製薬・創薬) | 6. 製造業(食品・飲料) |
| 7. 国家公務員        | 8. 地方公務員      | 9. その他の団体     |
| 10. その他( )      |               |               |

**問2** 貴機関・貴社の所在地(複数の場合は本部所在地)をお答えください。(あてはまるもの1つに○をしてください。)

- |         |        |           |
|---------|--------|-----------|
| 1. 神奈川県 | 2. 東京都 | 3. 静岡県    |
| 4. 山梨県  | 5. 長野県 | 6. その他( ) |

**問3** 貴機関・貴社に所属している薬剤師(常勤・非常勤)の規模をお答えください。(枠内にご記入ください。)

【常勤】

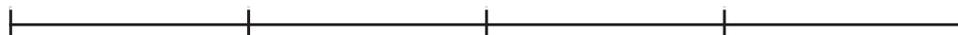
 人

【非常勤】

 人

**問4** 貴機関・貴社における、薬剤師の充足状況についてお答えください。(あてはまるもの1つに○をしてください。)

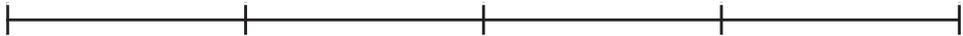
- |              |           |          |               |           |
|--------------|-----------|----------|---------------|-----------|
| 1. 非常に不足している | 2. 不足している | 3. わからない | 4. ある程度充足している | 5. 充足している |
|--------------|-----------|----------|---------------|-----------|



**問5**

湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科（仮称）」は、「豊かな人間性と高度な専門性を併せ備えた人材、臨床現場で患者中心のチーム医療を実践できる人材、神奈川圏域の地域包括医療の特性を理解して健康増進と予防を科学的・総合的に考え、地域貢献できる人材の養成」を目的として設置される学部です。

このような人材養成について、どの程度必要性を感じますか。（あてはまるもの1つに○をしてください。）

1. 非常に必要性を感じる      2. ある程度必要性を感じる      3. わからない      4. あまり必要性を感じない      5. 必要性を感じない
- 

**問6**

湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科（仮称）」の卒業した人材を、将来、薬剤師として採用したいと思いますか。（あてはまるもの1つに○をしてください。）

1. 採用したい      2. 採用を検討したい      3. わからない      4. 採用を希望しない
- 

**問7**

問6で「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」と回答した方は、採用可能であると思われる人数をお答えください。（あてはまるもの1つに○をしてください。）

1. 1名      2. 2名      3. 3名  
4. 4名      5. 5名以上      6. 人数は未確定

**問8**

湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科（仮称）」にご意見・ご要望等ございましたら、お聞かせください。

湘南医療大学「薬学部 医療薬学科（仮称）」

設置構想に係るニーズアセスメント調査

【学生確保の見通しに関する高校生アンケート調査】

報告書

令和2年1月

株式会社高等教育総合研究所

# 目次

1	調査の概要	1
2	全質問項目の集計結果	3
3	集計結果のポイント	8

## 添付資料

「湘南医療大学 薬学部 医療薬学科（仮称）設置構想についての高校生アンケート調査」用紙

## 1 調査の概要

- ◆調査の目的 : 本調査は、湘南医療大学が令和3年4月に設置構想中の「薬学部 医療薬学科 (仮称)」の学生確保の見通しを、大学外の公正な第三者機関よりアンケートを用いて測ることを目的とする。
- ◆調査期間 : 令和元年9月~令和2年1月
- ◆調査対象 : 令和3年度の大学入試を受験する可能性が最も高い、令和元年度の高校2年生をアンケートの対象とした。
- ◆調査方法 : 湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科 (仮称)」への進学が現実的に可能である高等学校409校へ実施を依頼。実施の承認が得られた69校にアンケートを送付。各校の教員が調査対象である高校2年生にアンケート用紙を配布の上、回答後その場で回収した。なお、本報告書における数値は、調査期間内に回収のあった68校分としている。  
依頼対象校の内訳は以下の通り。

地域	学校数
神奈川県	208校
東京都	49校
静岡県	108校
長野県	33校
山梨県	11校
合計	409校

- ◆調査内容 : アンケート項目は全11問で、全て選択肢式とした。  
主な質問内容は、以下の通りである。  
『回答者の基本情報 (性別・居住地) について』  
『回答者の高校卒業後の希望進路について』  
『湘南医療大学「薬学部 医療薬学科 (仮称)」への受験・入学意欲について』
- ◆実施校 : 68校 (実施率 16.6% / 依頼数 409校)
- ◆回収件数 : 6,409件 (配布件数 7,580件 / 回収率 84.5%)
- ◆有効件数 : 6,393件

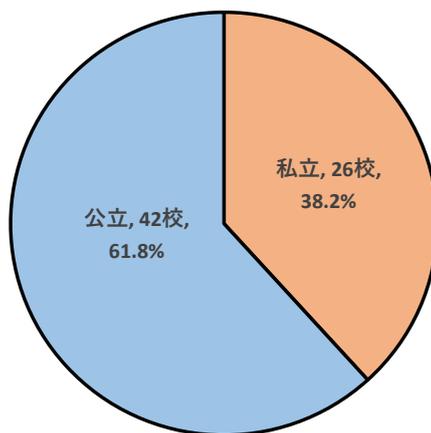
※回収分から、問1(性別)と問2(居住地)の無回答者を無効回答とした。

◆実施高校：本アンケートに協力いただいた68校の詳細は以下の通り。

1. 都道府県別の実施高校数

	公立	私立	合計	割合
東京都	0校	1校	1校	1.5%
神奈川県	30校	15校	45校	66.2%
静岡県	7校	10校	17校	25.0%
長野県	4校	0校	4校	5.9%
山梨県	1校	0校	1校	1.5%
合計	42校	26校	68校	100.0%
割合	61.8%	38.2%	100.0%	

2. 設置者別の実施高校数



## 2 全質問項目の集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0% と一致しない。

3～7 ページは、アンケートで回答を得た 6,393 人の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

問1 あなたの性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

選択項目		回答数	構成比
1	女性	3,206	50.1%
2	男性	3,187	49.9%
合計		6,393	100.0%

問2 あなたのお住まい(都道府県)をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

選択項目		回答数	構成比
1	神奈川県	4,604	72.0%
2	東京都	103	1.6%
3	静岡県	1,228	19.2%
4	山梨県	129	2.0%
5	長野県	317	5.0%
6	その他	12	0.2%
合計		6,393	100.0%

問3 あなたの高校卒業後の希望進路についてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

選択項目		回答数	構成比
1	大学(4年制・6年制)	4,856	76.0%
2	短期大学	165	2.6%
3	専門学校	736	11.5%
4	就職	213	3.3%
5	決めていない・その他	415	6.5%
	無回答	8	0.1%
合計		6,393	100.0%

問4 あなたが進学に興味のある分野について、第1希望、第2希望をそれぞれお答えください。(あてはまるものに○。なお、第一希望と第二希望が同じ分野である場合は両方に○)

**第1希望**

選択項目		回答数	構成比
1	医療系(医学・歯学・薬学・看護学・リハビリテーション学 など)	1,320	20.6%
2	自然科学系(数学・生物学・物理学・化学・農学・工学 など)	1,628	25.2%
3	人文科学系(哲学・文学・外国語学・歴史学・心理学・宗教学 など)	703	11.0%
4	社会科学系(政治学・社会学・経済学・経営学・観光学・福祉学 など)	858	13.4%
5	その他(教育学・家政学・環境学・人間科学・体育学・芸術系 など)	1,341	21.0%
	無回答	543	8.5%
合計		6,393	100.0%

**第2希望**

選択項目		回答数	構成比
1	医療系(医学・歯学・薬学・看護学・リハビリテーション学 など)	1,227	19.3%
2	自然科学系(数学・生物学・物理学・化学・農学・工学 など)	782	12.3%
3	人文科学系(哲学・文学・外国語学・歴史学・心理学・宗教学 など)	926	14.6%
4	社会科学系(政治学・社会学・経済学・経営学・観光学・福祉学 など)	1,539	24.2%
5	その他(教育学・家政学・環境学・人間科学・体育学・芸術系 など)	764	12.0%
	無回答	1,155	18.2%
合計		6,393	100.0%

問5 あなたが進学先を決定する際、どのような要因を重視するかについてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

※複数回答項目のため、回答数は延べ。

※構成比は回答した6,393人のうち、各項目を挙げた者の割合。

選択項目		回答数	構成比
1	学部・学科の専攻分野	3,896	60.9%
2	資格の取得	2,702	42.3%
3	就職実績	2,601	40.7%
4	設置形態(国立・公立・私立)	1,345	21.0%
5	校舎・施設の充実	2,341	36.6%
6	学費・(入学金・授業料)	2,296	35.9%
7	大学の伝統・知名度	994	15.5%

8	立地・通学時間	2,759	43.1%
9	入試の難易度・入試科目	1,959	30.6%
10	進路指導の先生や家族の意見	637	10.0%
11	特に理由なく進学自体が目的	171	2.7%
12	その他	86	1.3%
	無回答	472	7.4%

問6 現時点であなたが気になる進学先の有無についてお答えください。(あてはまるもの1つに○をし、ある場合は学校名などについてご記入ください。)

選択項目		回答数	構成比
1	ある	3,525	55.1%
2	ない	2,310	36.1%
	無回答	558	8.7%
合計		6,393	100.0%

問7 あなたは湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科(仮称)」を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

選択項目		回答数	構成比
1	受験したい	215	3.4%
2	受験しない	5,716	89.4%
	無回答	462	7.2%
合計		6,393	100.0%

以下の問8、9は、問7で「受験したい」を選択した215人のみ回答

問8 湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科(仮称)」の特色について、あなたが興味・関心をもった内容をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

※複数回答項目のため、回答数は延べ。

※構成比は回答した215人のうち、各項目を挙げた者の割合。

選択項目		回答数	構成比
1	薬剤師を目指せること	136	63.3%
2	薬学部 医療薬学科(仮称)で養成する人材像に共感したこと	43	20.0%
3	調剤から病棟での服薬指導など幅広い薬学スキルを学べること	64	29.8%

4	地域薬学教育が充実していること	20	9.3%
5	グループ病院をはじめとする医療施設と協力体制を組んでいること	28	13.0%
6	その他	8	3.7%
	無回答	32	14.9%

問9 あなたは湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いませんか。(あてはまるもの1つに○)

選択項目		回答数	構成比
1	合格した場合、入学したい	149	69.3%
2	合格した場合、併願大学の結果によっては入学したい	66	30.7%
合計		215	100.0%

以下の問 10、11は、問7で「2.受験しない」を選択した 5,716 人のみ回答

問10 下記の資格のなかで、あなたの興味がある、もしくは取得したいと思うものをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

※複数回答項目のため、回答数は延べ。

※構成比は回答した 5,716 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

選択項目		回答数	構成比
1	薬剤師	922	16.1%
2	看護師	916	16.0%
3	理学療法士	720	12.6%
4	作業療法士	294	5.1%
5	臨床検査技師	447	7.8%
6	管理栄養士	692	12.1%
7	保育士	857	15.0%
8	その他	1,076	18.8%
	無回答	1,282	22.4%

問 11 あなたが湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科(仮称)」を「受験しない」とされた理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

※複数回答項目のため、回答数は延べ。

※構成比は回答した 5,716 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

	選択項目	回答数	構成比
1	興味・関心のある分野ではないから	2,908	50.9%
2	興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから	453	7.9%
3	興味・関心のある分野だが、新設学科へ進学するのは不安だから	123	2.2%
4	興味・関心のある分野だが、更に詳細を知ったうえで検討したいから	220	3.8%
5	卒業後の進路として、大学への進学を考えていないから	102	1.8%
6	通学が不便そうだから	120	2.1%
7	学費が高いから	247	4.3%
8	その他	68	1.2%
	無回答	102	1.8%

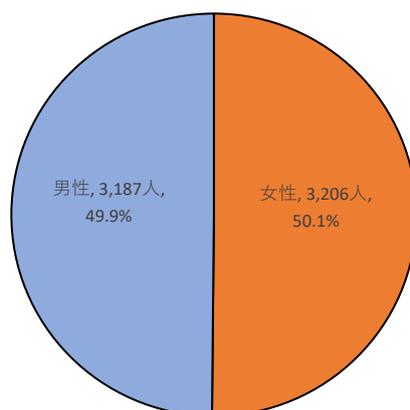
### 3 集計結果のポイント

※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0% と一致しない。

- 回答者の男女比はほぼ 5 割ずつ。

回答者 6,393 人のうち、男性は 3,187 人 (49.9%)、女子は 3,206 人 (50.1%) であった。

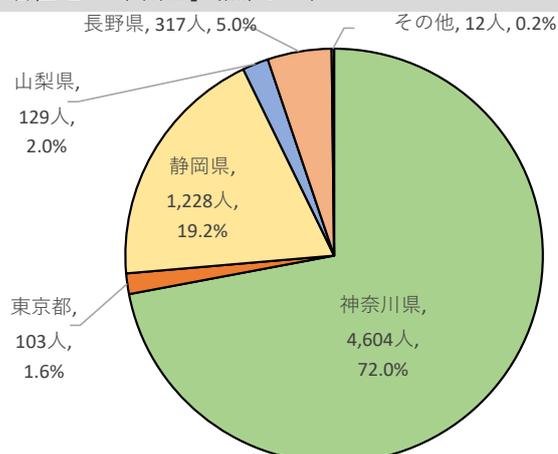
グラフ 回答者の性別 (「問1」結果より)



- 回答者の約 7 割が、神奈川県に居住。

アンケート回答者 6,393 人のうち、72.0%に当たる 4,604 人が神奈川県に居住していると回答した。その他の回答者の内訳は、1,228 人 (19.2%) が静岡県、317 人 (5.0%) が長野県、129 人 (2.0%) が山梨県、103 人 (1.6%) が東京都、12 人 (0.2%) がその他となっている。本調査は、神奈川県に位置する湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科 (仮称)」への進学が現実的であると考えられる地域を考慮して実施していることから、本調査結果の適正は十分に担保している。

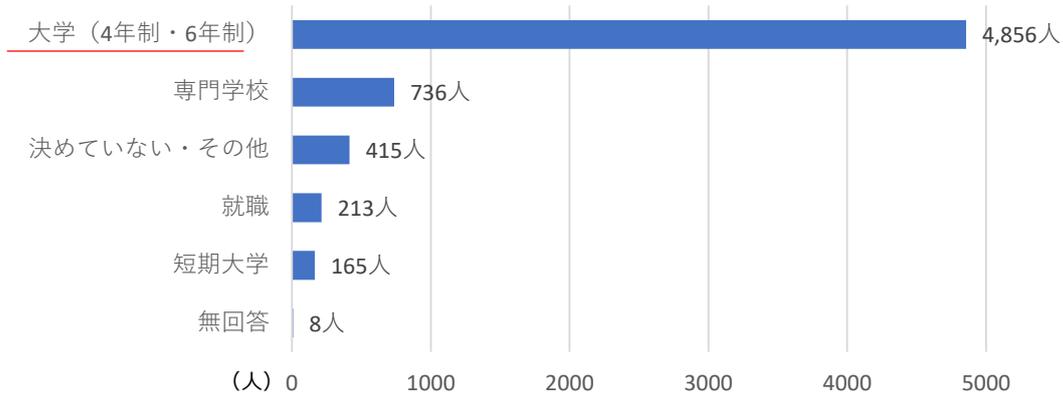
グラフ 回答者の居住地 (「問2」結果より)



● 回答者の約 8 割が、高校卒業の進路として大学進学を検討。

回答を得た高校生 6,393 人のうち、76.0%にあたる 4,856 人が高校卒業後の進路として「大学（4 年制・6 年制）」を選択しており、他の選択肢と比較して圧倒的に多い回答数となった。

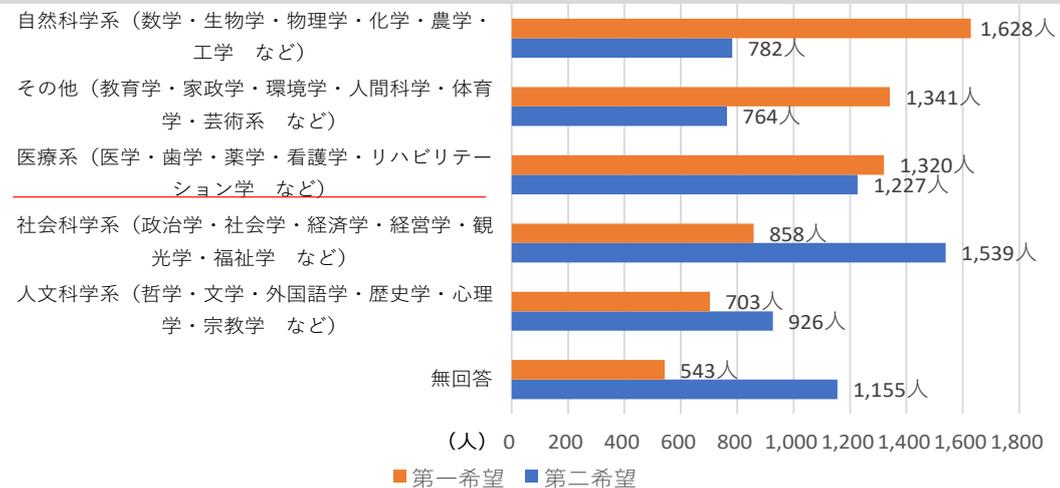
グラフ 高校卒業後の希望進路（「問 3」結果より）※複数回答の結果、回答の多い順



● 興味のある学問分野で、「医療系」を 1,320 人が選択。

回答を得た高校生 6,393 人に興味のある学問分野を質問したところ、第一志望で全体の 20.6%にあたる 1,320 人が「医療系（医学・歯学・薬学・看護学・リハビリテーション学等）」を選択し、全体で 3 番目に多い回答となった。また、第一希望・第二希望を合わせたものでは、「医療系（医学・歯学・薬学・看護学・リハビリテーション学等）」が 2,547 人で一番多い回答となった。

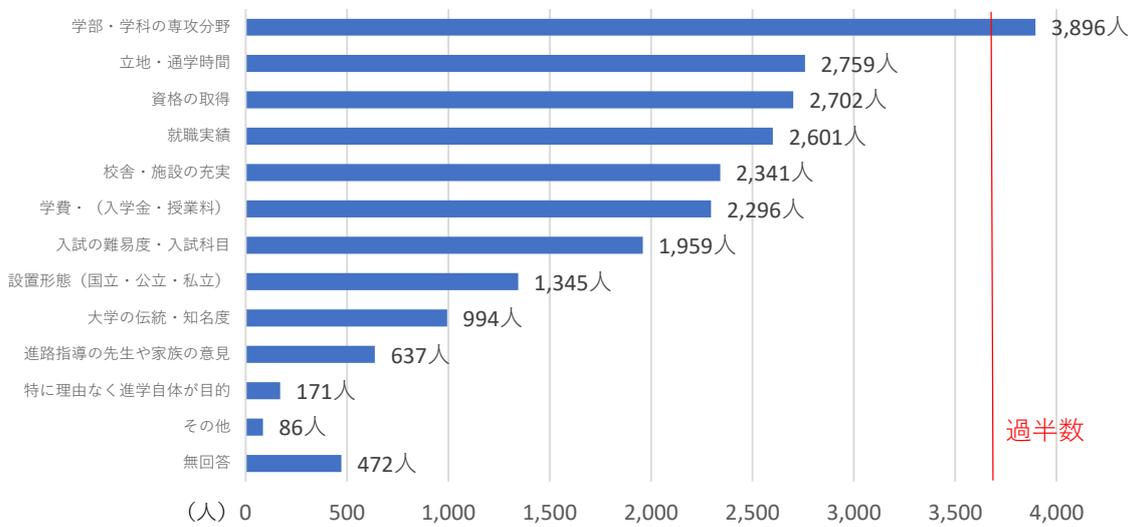
グラフ 興味のある学問分野（「問 4」結果より）※複数回答の結果、回答の多い順



● 大学進学の際、約6割が「学部・学科の専攻分野」を重視。

回答を得た 6,393 人に進学先を決定する際に重視する点を質問したところ、60.9%にあたる 3,896 人が「学部・学科の専攻分野」と回答した。そのほかでは、「立地・通学時間」が 2,759 人 (43.2%)、「資格の取得」が 2,702 人 (42.3%)、「就職実績」が 2,601 人 (40.7%) の3項目が、4割を超える回答があった。

グラフ 大学に進学する際に重視すること（「問5」結果より）※複数回答の結果、回答の多い順



● 215 人が「薬学部 医療薬学科（仮称）」を受験したいと回答。

回答を得た高校生 6,393 人に、湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科（仮称）」への受験意欲について質問したところ、3.4%にあたる 215 人が「受験したい」と回答した。医療薬学科（仮称）では、130 人に入学定員を設定しているが、1.65 倍にあたる受験意欲を示す回答が得られた。なお、問 7 の受験意欲と、問 2 の居住地に関する回答をクロス集計したところ「受験したい」と回答した 215 人のうち、約 8 割にあたる 178 人が、湘南医療大学の位置する神奈川県に居住する高校生であり、予定される入学定員 130 人を上回る受験意欲を示す回答が得られた。また、その他の地域からも一定の受験意欲を示す回答が得られた。

グラフ 「薬学部 医療薬学科（仮称）」への受験意欲（「問 7」結果より）

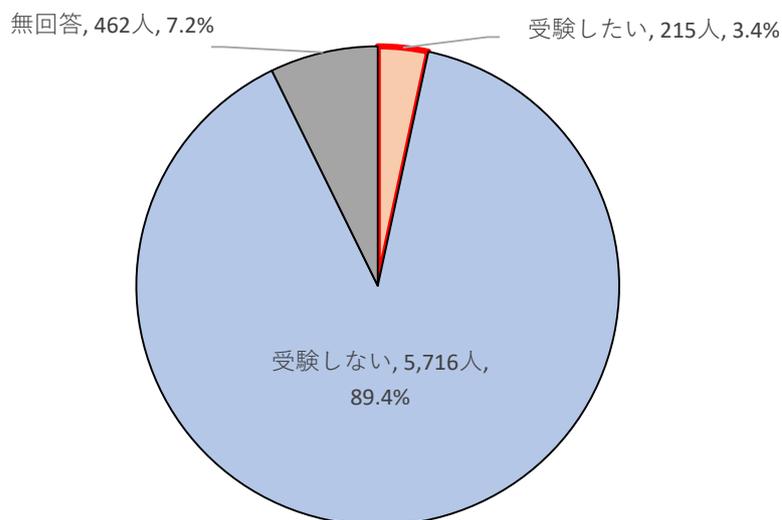


表 居住地別・「薬学部 医療薬学科（仮称）」への受験意欲（「問 2」「問 7」結果より）

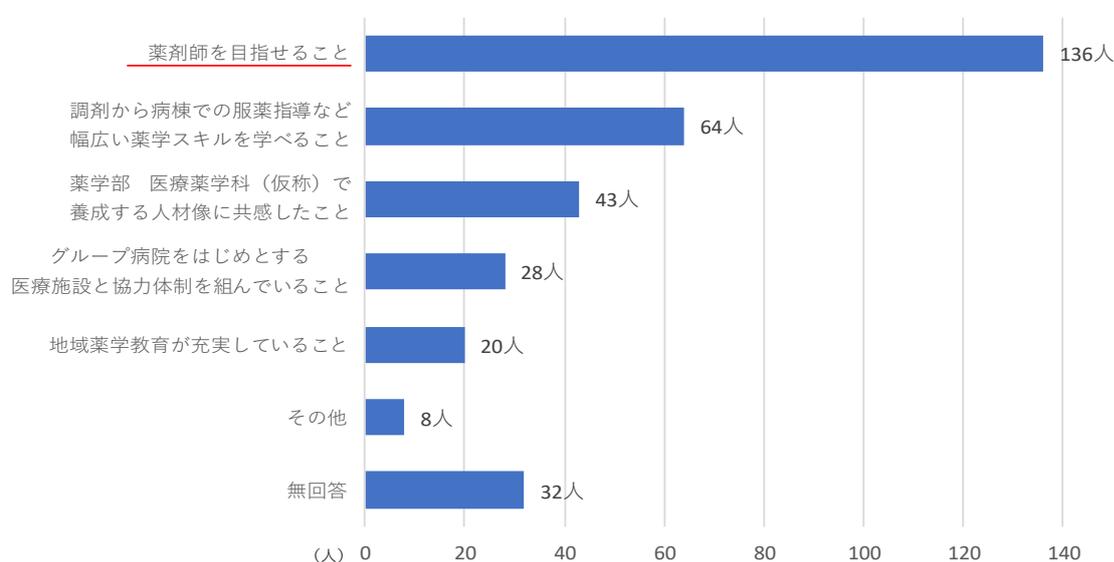
都道府県	受験したい		(参考) 全回答者数
	人数(人)	構成比	
神奈川県	178	82.8%	4,604
東京都	4	1.9%	103
静岡県	15	7.0%	1,228
山梨県	7	3.3%	129
長野県	11	5.1%	317
その他	0	0.0%	12
総計	215人	100.0%	6,393人

以下は、問7で「医療薬学科（仮称）」を「受験したい」と回答した215人のみの回答

●「薬学部 医療薬学科（仮称）」の特色のうち、「薬剤師を目指せること」に約6割。

「薬学部 医療薬学科（仮称）」を「受験したい」と回答した215人に「薬学部 医療薬学科（仮称）」で興味・関心をもった内容を質問したところ、約6割にあたる136人（63.3%）が「薬剤師を目指せること」の回答が目立つ結果となった。そのほかに「調剤から病棟での服薬指導等幅広い薬学スキルを学べること」に64人（29.8%）が回答した。

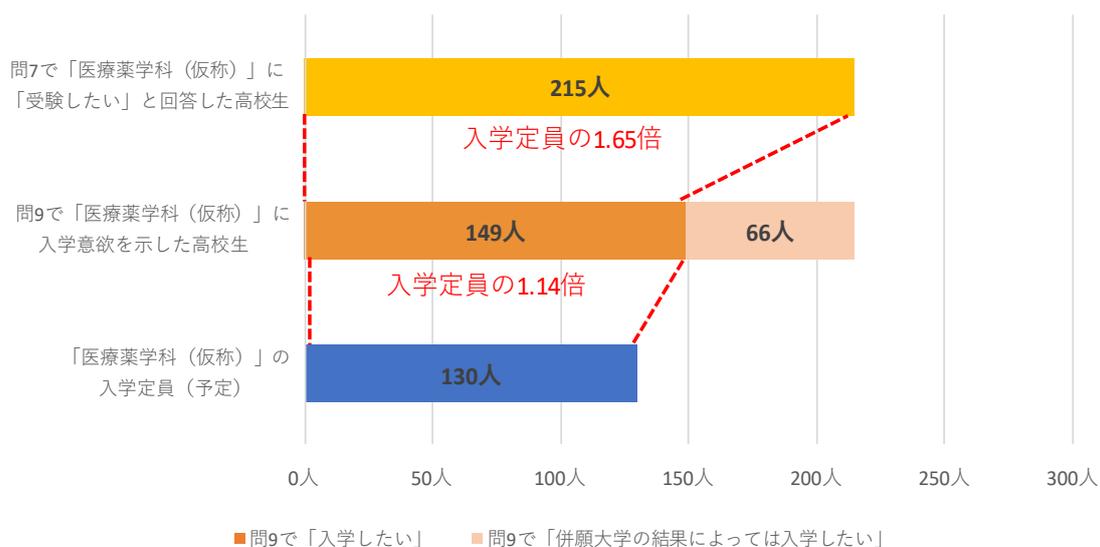
グラフ 興味・関心をもった「薬学部 医療薬学科（仮称）」の特色（「問8」結果より）※複数回答の結果、回答の多い順



● 149人が「薬学部 医療薬学科（仮称）」に「入学したい」と回答。

「薬学部 医療薬学科（仮称）」を受験したいと回答した215人に対して、合格した場合の入学意欲について回答を求めた結果、予定される入学定員130人の1.14倍の149人が「入学したい」と回答、また「併願大学の結果によっては入学したい」と66名が回答した。

グラフ 「薬学部 医療薬学科（仮称）」への受験・入学意欲（「問7」「問9」より）



以上の結果より、湘南医療大学が令和3年4月に設置構想中である「薬学部 医療薬学科（仮称）」の学生確保の見通しは、予定する入学定員を上回る入学意欲を得たため、入学定員の確保は十分に可能であると判断できる。

## 添付資料

「湘南医療大学 薬学部 医療薬学科（仮称）設置構想についての高校生アンケート調査」用紙



**問4**

あなたが進学に興味のある分野について、第1希望、第2希望をそれぞれお答えください。  
(あてはまるものに○。なお、第1希望と第2希望が同じ分野である場合は、両方に○)

番号	分野	第1希望	第2希望
1	医療系 (医学・歯学・薬学・看護学・リハビリテーション学 など)		
2	自然科学系 (数学・生物学・物理学・化学・農学・工学 など)		
3	人文科学系 (哲学・文学・外国語学・歴史学・心理学・宗教学 など)		
4	社会科学系 (政治学・社会学・経済学・経営学・観光学・福祉学 など)		
5	その他 (教育学・家政学・環境学・人間科学・体育学・芸術系 など)		

**問5**

あなたが進学先を決定する際、どのような要因を重視するかについてお答えください。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                   |                   |                |
|-------------------|-------------------|----------------|
| 1. 学部・学科の専攻分野     | 2. 資格の取得          | 3. 就職実績        |
| 4. 設置形態(国立・公立・私立) | 5. 校舎・施設の充実       | 6. 学費(入学金・授業料) |
| 7. 大学の伝統・知名度      | 8. 立地・通学時間        | 9. 入試の難易度・入試科目 |
| 10. 進路指導の先生や家族の意見 | 11. 特に理由なく進学自体が目的 | 12. その他( )     |

**問6**

現時点であなたが気になる進学先の有無についてお答えください。  
(あてはまるもの1つに○をし、ある場合は学校名などについてご記入ください。)

1. ある → ※よろしければ、学校名などをご記入ください。  
 ( ) 大学・短期大学・専門学校 ( ) 学部・学科・コース
2. ない

**問7**

あなたは湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科(仮称)」を受験したいと思いますか。  
(あてはまるもの1つに○)

1. 受験したい → 1の方は **問8** **問9** にお答えください。
2. 受験しない → 2の方は **問10** **問11** にお答えください。

**問8** 湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科（仮称）」の特色について、あなたが興味・関心をもった内容をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1. 薬剤師を目指せること
2. 薬学部 医療薬学科（仮称）で養成する人材像に共感したこと
3. 調剤から病棟での服薬指導など幅広い薬学スキルを学べること
4. 地域薬学教育が充実していること
5. グループ病院をはじめとする医療施設と協力体制を組んでいること
6. その他（ ）

**問9** あなたは湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科（仮称）」に合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

1. 合格した場合、入学したい
2. 合格した場合、併願大学の結果によっては入学したい

\*湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科（仮称）」へのご意見・ご要望等ございましたらお聞かせください。

**問10** 下記の資格のなかで、あなたの興味がある、もしくは取得したいと思うものをお答えください。（あてはまるものすべてに○）

- |          |           |          |
|----------|-----------|----------|
| 1. 薬剤師   | 2. 看護師    | 3. 理学療法士 |
| 4. 作業療法士 | 5. 臨床検査技師 | 6. 管理栄養士 |
| 7. 保育士   | 8. その他（ ） |          |

**問11** あなたが湘南医療大学が設置構想中の「薬学部 医療薬学科（仮称）」を「受験しない」とされた理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1. 興味・関心のある分野ではないから
2. 興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから
3. 興味・関心のある分野だが、新設学科へ進学するのは不安だから
4. 興味・関心のある分野だが、更に詳細を知った上で検討したいから
5. 卒業後の進路として、大学への進学を考えていないから
6. 通学が不便そうだから
7. 学費が高いから
8. その他、理由があればお書きください。





# 湘南医療大学 薬学部

医療薬学科 (仮称)

2021年4月	開設予定 (設置構想中)
入学定員	130名 (予定)
取得学位	学士 (薬学)
設置場所	横浜市戸塚区上品濃 16-48 (最寄駅：JR 横須賀線東戸塚駅)

# 湘南医療大学は2021年4月、薬学部 医療薬学科(仮称)の新設を構想しています。

注) 以下の内容は、設置構想段階の計画であり、変更する場合があります。

## Q 湘南医療大学はどんな大学ですか？

A 2015年に「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念のもと、保健医療学部を開設しました。高度な知識・技術を持ってチーム医療を実践し、地域に貢献できる看護師、保健師、理学療法士、作業療法士を養成しています。そして、薬学部を新たに設置し、更に患者さんのため、地域のために必要な医療大学として社会に貢献していきます。

## Q(仮称)湘南医療大学薬学部医療薬学科(6年制)の特色を教えてください

A 本学グループの17病院及び51保健医療福祉施設の協働体制により、調剤から病棟での服薬支援など幅広い臨床薬学スキルを学べる医療環境が整っていることが特色です。

### 湘南医療大学が目指すもの

- ◆定員130名の行き届いた薬学教育
- ◆薬剤師国家試験全員合格
- ◆多職種の医療従事者と連携して、質の高い薬物療法を支援できる薬剤師の育成
- ◆医師に薬のアドバイスができる薬剤師の育成
- ◆地域に暮らす人々に寄り添い、健康増進、疾病予防に貢献できる未来型薬剤師の育成

## Q薬学部の授業や研究室について教えてください

A **基礎薬学**：有機化学、解剖学、生理学、生化学、微生物学、分析学など

**専門薬学**：薬理学（治療薬などの化学物質が体に与える影響を研究）、薬剤学（飲み薬や注射薬など薬が体の中での働きに役立つ研究）、薬物治療学、医薬品情報学などの科目を学びます。

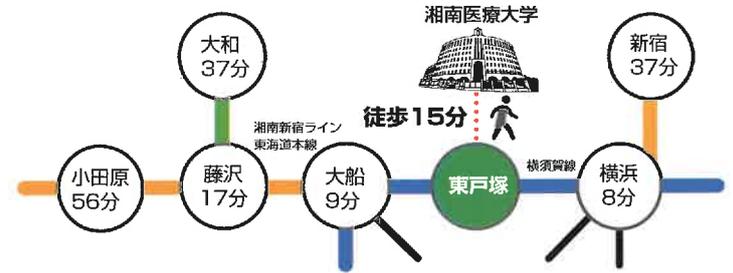
研究室は、薬学基礎系、生命医科学系、医療薬学系、環境・社会薬学系の分野に17研究室を設置して、研究および研究指導を推進します。



湘南医療大学保健医療学部校舎

## Q 大学の場所はどこにありますか？

A 横浜駅からJR横須賀線で8分の東戸塚駅にあり、駅から徒歩15分です。



## Q 学費について教えてください

単位：円

		入学金	授業料	施設維持費	合計
湘南医療大学 薬学部医療薬学科 (仮称)	初年次	330,000	1,450,000	500,000	2,280,000
	2年次以降		1,450,000	500,000	1,950,000

【参照】 データは大学HPから抜粋

昭和薬科大学 薬学部薬学科 (東京都町田市)	初年次	350,000	1,380,000	600,000	2,330,000
	2年次以降		1,380,000	600,000	1,980,000
横浜薬科大学 薬学部臨床薬学科 (横浜市戸塚区)	初年次	400,000	1,900,000		2,300,000
	2年次以降		1,900,000	400,000	2,300,000

## Q奨学金はありますか？

A 公的奨学金に加え、ふれあいグループ奨学金制度（月額最大8万円）があります。現在、保健医療学部の学生200名（全体の約30%）に貸与されています。

## Q学生寮はありますか？

A 女子学生寮は、茅ヶ崎（神奈川県茅ヶ崎市）と汐見台（横浜市磯子区）にあります。

（寮費 月額50,000円 2019年8月現在）

## Q 薬学部卒業後の進路を教えてください

A ◆保険薬局 ◆病院・診療所 ◆老健・介護施設 ◆化粧品会社 ◆医療機器会社 ◆製薬会社 ◆医薬品卸売販売 ◆ドラッグストア ◆薬事・衛生行政機関 ◆医薬品・食品などの検査研究機関 ◆臨床開発企業 ◆大学院への進学 など



一般社団法人

# 日本病院薬剤師会

Japanese Society of Hospital Pharmacists

本会は、病院、診療所、介護保険施設に籍を有する薬剤師等を会員とする団体です。会員自らの資質の向上を図ることはもとより、質の高い薬物療法の提供を通じて、患者等国民の福祉や健康に寄与するために様々な活動を行っています。現在、病院薬剤師はチーム医療の中で薬剤師としての職能を活かし、薬物療法を適正化するとともに医療の安全を積極的に推進しています。

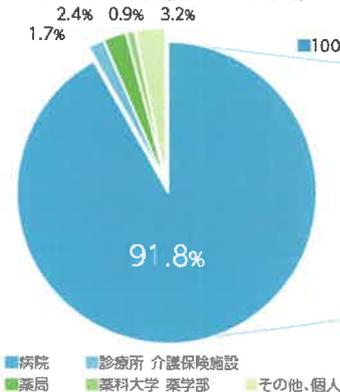
また、本会では毎月「日本病院薬剤師会雑誌」を発行し、会員の学術論文の掲載をはじめ、E病薬だより、研修報告等、医療や病院薬剤師に関する最新情報等を紹介しています。

本会ホームページには、本会の概要、学会・研修会等案内、専門薬剤師制度、医療機関向け情報や会員向け情報等、広く医療に関する情報を掲載しています。

本会には、全国の病院、診療所に勤務する薬剤師約55,000名のうち、約8割が入会しています。

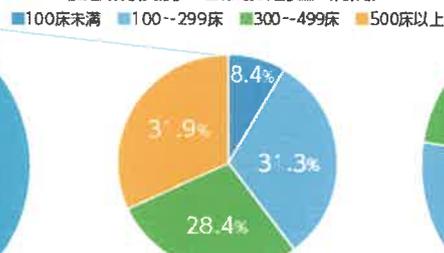
平成28年3月現在

会員の所属施設 (全会員)

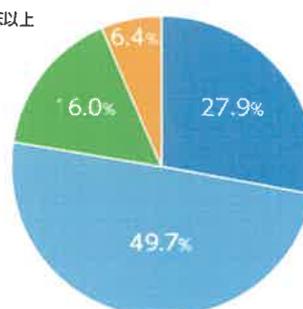


会員数合計 約46,000名

施設規模別の会員数割合 (病院)



会員施設\*規模別割合 (病院)



\*会員が 名以上いる施設

## ごあいさつ

この4半世紀、日本の病院薬剤師の役割は劇的に進化してきました。特に、業務の視点が「モノ」から「ヒト」へ転換され、薬学教育も6年制となり既に10年が過ぎました。また、ファーマシューティカルケアの概念に基づき、薬剤師の責任のもとに薬物療法を提供し患者のQOLを改善するため、医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から様々な業務改革を行ってきました。例えば、病棟活動としてチーム医療を展開し、個々の患者の薬学的管理による最適な処方、副作用の防止、重篤化の回避に貢献しています。また、化学療法のレジメン管理や抗がん薬の無菌調製、医薬品情報の収集と提供等々を実践しています。その結果、医療人の一員として病院、診療所、介護保険施設などで働く薬剤師に対する社会、患者の期待が高まっております。一方、日本は超高齢化社会を迎えようとしており、医療環境が激変し、医療の在り方が問われています。病院完結型医療から地域完結型医療への転換が計画されており、医療および介護の提供体制として「地域包括ケアシステム」が構築されようとしています。また、病院の機能分化も急速に進もうとしており、これまで以上に医療連携の必要性も高まっています。日本病院薬剤師会では、その様な社会情勢の変化に対応し、薬剤師の使命である有効で安心、安全な薬物療法の提供に貢献できるよう、組織をあげて対応すべく取り組んでいるところです。

一般社団法人 日本病院薬剤師会 会長 木平 健治

# 主な事業

## 1. 病棟業務の推進

薬剤管理指導業務と病棟薬剤業務を両輪とした病棟業務の充実を目指しています。

- (1) 病棟業務の充実・拡大を図るための取り組みを行っています。
- (2) 必要な薬剤師の増員等、実践可能な体制充実のための支援をしています。

## 2. チーム医療の推進と医療安全の確保

チーム医療の中で薬剤師が積極的に業務展開するための支援を行っています。

- (1) 処方提案や安全な薬物療法を行うための技術取得を支援しています。
- (2) 医薬品の適正使用に必要な最新情報を管理・提供し、病院内の安全対策を推進しています。

## 3. 病院薬剤師の資質向上

チーム医療発展に貢献できる高度な能力をもった薬剤師の育成に取り組んでいます。

- (1) 生涯学習、研修事業を推進しています。
- (2) 専門・認定薬剤師、病院薬学認定薬剤師等の養成の事業を展開しています。

## 4. 災害への対策・対応

今後の災害発生時に適切に対応できる医療支援体制を構築しています。

## 5. 医療安全対策の推進

薬剤師が薬物療法の安全に責任を持つ業務体制の構築を支援しています。

## 6. 病院、診療所、介護保険施設等の薬剤師業務への取り組み

薬剤管理指導業務の質的向上と完全実施、全入院患者に対する持参薬管理と処方提案の実践、夜間・休日体制の強化等を推進しています。

## 7. 医薬・薬業連携の推進

有効で安全な薬物療法のため、医療機関、保険薬局、介護保険施設等との患者情報の一元管理を推進しています。

## 8. 薬剤師養成のための薬学教育への協力

全国の薬学生が均一で質の高い病院実習を受けることができる体制整備を行っています。

## 9. 会員への情報提供及び啓発事業の充実

会誌やホームページを介した情報の提供や、会員啓発に関する出版物を作成しています。

## 10. 国際交流事業の推進

FIP(International Pharmaceutical Federation)、ASHP(American Society of Health-System Pharmacists)、FAPA(Federation of Asian Pharmaceutical Association)等へ参加し、国際連携を進めています。

## 11. 調査研究の推進

医療の質向上に資する研究やエビデンスの構築を行っています。

# 病院薬剤師の業務の実際

## 病棟業務

### 薬剤管理指導業務・病棟薬剤業務

一般病棟、療養病棟及び精神科病棟等において医薬品の適正使用や副作用モニタリング等薬物療法の安全管理に継続的に関わっています。

### 急性期における集中的な薬学的管理

救急医療、ICU、手術室など急性期の現場においても緻密な薬物療法の安全管理に携わっています。

## チーム医療

### 安全な薬物療法の提供

多種多様な医療スタッフが連携・協力するチーム医療の中で、薬の専門職である薬剤師は医療の質向上と医療安全管理の観点から薬物療法への継続的な関与を実施しています。さらに他の医療機関や保険薬局との積極的な情報共有とシームレスな連携を行っています。

### 医療チームへの参画

病棟内でのチーム医療に携わっています。また、感染制御、緩和ケア、栄養サポート、糖尿病、褥瘡等、院内横断的な医療チームにも参画して活動しています。

## 安全管理

### 特に安全管理が必要な医薬品に対する薬学的管理

入院外来を問わず、特に安全管理が必要な医薬品(ハイリスク薬)を服用している患者に対し、副作用の早期発見、重篤化防止のための服薬指導や薬学的管理を行っています。

### 施設内全ての医薬品の安全使用の推進

すべての医薬品が安全に使用されるための管理体制構築を行っています。医薬品が安全に使用されるための業務手順書を作成し、関係する人々へ研修を行い、必要となる情報提供及び安全確保を目的とした方策を実施しています。

# 専門性の高い薬剤師の育成

## 生涯教育を基盤とした専門・認定薬剤師

最新の医療に対応する薬剤師を育成するため、生涯学習を推進しています。

日本病院薬剤師会の生涯研修認定者、生涯研修履修認定者は、それぞれ14,899名、2,095名となっており、平成27年4月より病院薬学認定薬剤師制度を開始いたしました。

さらに高度化・専門化する医療に貢献するため、専門分野の臨床知識と薬物療法等について、十分な知識と技術を備えた薬剤師を養成しています。

がん薬物療法認定薬剤師(989名)、感染制御専門薬剤師(253名)、感染制御認定薬剤師(882名)、精神科専門薬剤師(46名)、精神科薬物療法認定薬剤師(196名)、妊婦・授乳婦専門薬剤師(22名)、妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師(119名)、HIV感染症専門薬剤師(24名)、HIV感染症薬物療法認定薬剤師(72名)

平成28年6月現在

# 薬物療法の適正化と医療安全の推進を図るために

## 病棟における薬学的管理

一般病棟だけでなく療養病棟や精神科病棟、障害者施設や診療所の病棟等においても、個々の患者に最適な薬物療法を提供するために、薬剤師が継続的に関与することが求められています。薬物療法の質や安全性を向上させるために、医薬品の適正使用や副作用モニタリング等の業務がより多くの施設で実践されるよう推進しています。

## 全ての医薬品に対する厳重な薬学的管理

特に安全管理が必要な医薬品（ハイリスク薬）を服用している患者には厳重な薬学的管理が求められています。日本病院薬剤師会は、医療の高度化に伴い、より多くの医薬品に対するきめ細かい薬剤師の関与を推進しています。

## 薬剤師による医薬品の安全管理

医薬品の専門職である薬剤師が医薬品安全管理部門に専従することを推進し、組織的な医薬品安全管理体制の充実を目指しています。

# 大災害への取り組み

## 東日本大震災\*及び2016年熊本地震の際には被災地の医療支援のため 全国から薬剤師を派遣しました。

- (1) 被災地の病院等に多くの薬剤師をボランティアとして派遣しました。
- (2) 被災地に派遣される医療チームに薬剤師が参画する支援をしました。

※被災地の医療復興のための義援金募集活動を行ったほか、被災所等の方々に対するお薬手帳の配布やお薬の服用管理を支援しました。

### 一般社団法人 日本病院薬剤師会

ホームページ

URL: <http://www.jsHP.or.jp/>

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷2-12-15

日本薬学会長井記念館8階

TEL: 03-3406-0485

FAX: 03-3797-5303



## 2019年度全国私立大学6年生薬学部入学定員一覧

No	大学名	6年制	
		学科名	定員
1	北海道医療大学	薬学科	160
2	北海道科学大学	薬学科	180
3	青森大学	薬学科	70
4	岩手医科大学	薬学科	120
5	東北医科薬科大学	薬学科	300
6	医療創生大学	薬学科	90
7	奥羽大学	薬学科	140
8	国際医療福祉大学	薬学科	180
9	高崎健康福祉大学	薬学科	90
10	城西大学	薬学科	250
11	日本薬科大学	薬学科	260
12	城西国際大学	医療薬学科	130
13	千葉科学大学	薬学科	120
14	帝京平成大学	薬学科	240
15	東京理科大学	薬学科	100
16	東邦大学	薬学科	220
17	日本大学	薬学科	244
18	北里大学	薬学科	260
19	慶應義塾大学	薬学科	150
20	昭和大学	薬学科	200
21	昭和薬科大学	薬学科	240
22	東京薬科大学	医療薬学科	140
		医療薬物薬学科	140
		医療衛生薬学科	140
23	星薬科大学	薬学科	260
24	武蔵野大学	薬学科	160
25	明治薬科大学	薬学科	300
26	帝京大学	薬学科	320
27	横浜薬科大学	健康薬学科	60
		漢方薬学科	120
		臨床薬学科	160
28	新潟薬科大学	薬学科	180
29	北陸大学	薬学科	200
30	愛知学院大学	医療薬学科	145
31	金城学院大学	薬学科	150
32	名城大学	薬学科	265
33	鈴鹿医療科学大学	薬学科	100
34	京都薬科大学	薬学科	360
35	同志社女子大学	医療薬学科	120
36	立命館大学	薬学科	100
37	大阪大谷大学	薬学科	140
38	大阪薬科大学	薬学科	294
39	近畿大学	医療薬学科	150
40	摂南大学	薬学科	220
41	神戸学院大学	薬学科	250
42	神戸薬科大学	薬学科	270
43	兵庫医療大学	医療薬学科	150
44	姫路獨協大学	医療薬学科	100
45	武庫川女子大学	薬学科	210
46	就実大学	薬学科	120
47	広島国際大学	薬学科	120
48	福山大学	薬学科	150
49	安田女子大学	薬学科	120
50	徳島文理大学(薬学部) (香川薬学部)	薬学科	180
		薬学科	90
51	松山大学	医療薬学科	100
52	第一薬科大学	薬学科	113
		漢方薬学科	60
53	福岡大学	薬学科	230
54	長崎国際大学	薬学科	120
55	崇城大学	薬学科	120
56	九州保健福祉大学	薬学科	100
私立計 (56大学57学部)		62学科	10571

平均値

57 学科	171
62 学部	185
56 大学	189

2017-2019年度 湘南医療大学 近隣都県別 入学者数

	2017	2018	2019
東京都	8	6	5
神奈川県	135	139	140
静岡県	21	7	10
計	164	152	155
全体入学者数	190	171	170
3都県の割合	86.32%	88.89%	91.18%

146 学科別進路別卒業生数

区 分	計			大学等進学者			専修学校 (専門課程) 進学者			専修学校 (一般課程) 等入学者			公共職業能 力開発施設 等入学者			就 職 者				
																正規の 職員等		正規の 職員等 でない者		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	男	女
平成27年3月	64,590	32,469	32,121	39,856	19,685	20,171	10,656	4,196	6,460	2,540	1,829	711	373	263	110	5,256	3,222	1,993	24	17
平成28年3月	65,311	32,765	32,546	40,157	19,836	20,321	10,455	3,956	6,499	2,331	1,745	586	384	269	115	5,580	3,343	2,207	17	13
平成29年3月	66,400	33,430	32,970	40,703	20,128	20,575	10,534	3,983	6,551	2,197	1,697	500	390	281	109	5,682	3,405	2,226	23	28
平成30年3月	66,239	33,149	33,090	40,406	19,527	20,879	10,587	4,087	6,500	2,308	1,712	596	383	286	97	5,576	3,297	2,243	14	22
平成31年3月	66,605	33,314	33,291	40,427	19,463	20,964	10,954	4,383	6,571	2,049	1,457	592	346	247	99	5,668	3,425	2,218	12	13
普 通	56,325	27,757	28,568	36,863	17,645	19,218	8,431	3,302	5,129	1,822	1,283	539	207	143	64	2,900	1,567	1,317	8	8
農 業	516	221	295	121	48	73	149	63	86	-	-	-	13	7	6	178	82	95	1	-
工 業	2,205	1,947	258	346	293	53	361	295	66	-	-	-	44	38	6	1,323	1,207	115	1	-
商 業	1,572	656	916	420	206	214	453	205	248	32	22	10	8	5	3	537	171	366	-	-
水 産	132	115	17	32	31	1	15	12	3	-	-	-	11	9	2	63	53	10	-	-
家 庭	120	4	116	28	-	28	74	2	72	-	-	-	-	-	-	9	-	9	-	-
看 護	77	4	73	20	1	19	56	3	53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
情 報	30	-	30	12	-	12	13	-	13	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-
福 祉	213	33	180	47	11	36	100	10	90	-	-	-	1	-	1	52	9	43	-	-
そ の 他	1,581	855	726	1,105	574	531	142	58	84	135	131	4	4	3	1	32	20	12	-	-
総合学科	3,834	1,722	2,112	1,433	654	779	1,160	433	727	60	21	39	58	42	16	571	316	248	2	5
全 日 制 計	65,034	32,332	32,702	40,304	19,387	20,917	10,678	4,231	6,447	2,040	1,454	586	279	191	88	5,050	3,002	2,025	11	12
普 通	55,341	27,174	28,167	36,778	17,596	19,182	8,276	3,219	5,057	1,813	1,280	533	167	111	56	2,505	1,302	1,189	7	7
農 業	484	201	283	116	44	72	141	59	82	-	-	-	12	6	6	161	71	89	1	-
工 業	2,111	1,856	255	344	291	53	355	289	66	-	-	-	32	26	6	1,273	1,159	113	1	-
商 業	1,557	646	911	420	206	214	452	205	247	32	22	10	7	4	3	530	165	365	-	-
水 産	132	115	17	32	31	1	15	12	3	-	-	-	11	9	2	63	53	10	-	-
家 庭	120	4	116	28	-	28	74	2	72	-	-	-	-	-	-	9	-	9	-	-
看 護	77	4	73	20	1	19	56	3	53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
情 報	30	-	30	12	-	12	13	-	13	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-
福 祉	213	33	180	47	11	36	100	10	90	-	-	-	1	-	1	52	9	43	-	-
そ の 他	1,581	855	726	1,105	574	531	142	58	84	135	131	4	4	3	1	32	20	12	-	-
総合学科	3,388	1,444	1,944	1,402	633	769	1,054	374	680	60	21	39	45	32	13	422	223	192	2	5
定 時 制 計	1,571	982	589	123	76	47	276	152	124	9	3	6	67	56	11	618	423	193	1	1
普 通	984	583	401	85	49	36	155	83	72	9	3	6	40	32	8	395	265	128	1	1
農 業	32	20	12	5	4	1	8	4	4	-	-	-	1	1	-	17	11	6	-	-
工 業	94	91	3	2	2	-	6	6	-	-	-	-	12	12	-	50	48	2	-	-
商 業	15	10	5	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	1	-	7	6	1	-	-
水 産	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
家 庭	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
看 護	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
情 報	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福 祉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
そ の 他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総合学科	446	278	168	31	21	10	106	59	47	-	-	-	13	10	3	149	93	56	-	-

卒業後の状況調査：高等学校(全日制・定時制)

一時的な仕事に就いた者			左記及び不詳・死亡以外の者			不詳・死亡の者			左記A, B, C, Dのうち就職している者(再掲)				大 学 等 率 (%)			専修学校(専門課程)進学率 (%)			卒業者に占める就職者の割合 (%)			区 分			
									計		正規の職員等													正規の職員等でない者	
									計	男	女	男												女	男
957	310	647	4,951	2,940	2,011	1	-	1	-	-	-	-	-	61.7	60.6	62.8	16.5	12.9	20.1	8.1	10.0	6.3	平成27年3月		
797	254	543	5,602	3,341	2,261	5	4	1	1	-	1	-	-	61.5	60.5	62.4	16.0	12.1	20.0	8.5	10.3	6.8	平成28年3月		
704	224	480	6,181	3,682	2,499	9	7	2	3	2	-	-	1	61.3	60.2	62.4	15.9	11.9	19.9	8.6	10.3	6.8	平成29年3月		
672	269	403	6,303	3,955	2,348	4	2	2	3	2	1	-	-	61.0	58.9	63.1	16.0	12.3	19.6	8.4	10.0	6.8	平成30年3月		
683	251	432	6,474	4,072	2,402	4	4	-	1	-	1	-	-	60.7	58.4	63.0	16.4	13.2	19.7	8.5	10.3	6.7	平成31年3月		
436	144	292	5,662	3,661	2,001	4	4	-	1	-	1	-	-	65.4	63.6	67.3	15.0	11.9	18.0	5.2	5.7	4.6	普通		
14	5	9	41	15	26	-	-	-	-	-	-	-	-	23.4	21.7	24.7	28.9	28.5	29.2	34.5	37.6	32.2	農業		
16	16	-	115	97	18	-	-	-	-	-	-	-	-	15.7	15.0	20.5	16.4	15.2	25.6	60.0	62.0	44.6	工業		
23	5	18	99	42	57	-	-	-	-	-	-	-	-	26.7	31.4	23.4	28.8	31.3	27.1	34.2	26.1	40.0	商業		
7	7	-	4	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	24.2	27.0	5.9	11.4	10.4	17.6	47.7	46.1	58.8	水産		
-	-	-	9	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	23.3	-	24.1	61.7	50.0	62.1	7.5	-	7.8	家庭		
-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	26.0	25.0	26.0	72.7	75.0	72.6	-	-	-	看護		
-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	40.0	-	40.0	43.3	-	43.3	10.0	-	10.0	情報		
3	-	3	10	3	7	-	-	-	-	-	-	-	-	22.1	33.3	20.0	46.9	30.3	50.0	24.4	27.3	23.9	福祉		
6	-	6	157	69	88	-	-	-	-	-	-	-	-	69.9	67.1	73.1	9.0	6.8	11.6	2.0	2.3	1.7	その他		
178	74	104	374	180	194	-	-	-	-	-	-	-	-	37.4	38.0	36.9	30.3	25.1	34.4	14.9	18.5	12.0	総合学科		
500	150	350	6,179	3,902	2,277	4	4	-	1	-	1	-	-	62.0	60.0	64.0	16.4	13.1	19.7	7.8	9.3	6.2	全日制計		
321	92	229	5,477	3,563	1,914	4	4	-	1	-	1	-	-	66.5	64.8	68.1	15.0	11.8	18.0	4.5	4.8	4.2	普通		
13	5	8	41	15	26	-	-	-	-	-	-	-	-	24.0	21.9	25.4	29.1	29.4	29.0	33.3	35.8	31.4	農業		
3	3	-	104	87	17	-	-	-	-	-	-	-	-	16.3	15.7	20.8	16.8	15.6	25.9	60.3	62.5	44.3	工業		
23	5	18	93	39	54	-	-	-	-	-	-	-	-	27.0	31.9	23.5	29.0	31.7	27.1	34.0	25.5	40.1	商業		
7	7	-	4	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	24.2	27.0	5.9	11.4	10.4	17.6	47.7	46.1	58.8	水産		
-	-	-	9	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	23.3	-	24.1	61.7	50.0	62.1	7.5	-	7.8	家庭		
-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	26.0	25.0	26.0	72.7	75.0	72.6	-	-	-	看護		
-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	40.0	-	40.0	43.3	-	43.3	10.0	-	10.0	情報		
3	-	3	10	3	7	-	-	-	-	-	-	-	-	22.1	33.3	20.0	46.9	30.3	50.0	24.4	27.3	23.9	福祉		
6	-	6	157	69	88	-	-	-	-	-	-	-	-	69.9	67.1	73.1	9.0	6.8	11.6	2.0	2.3	1.7	その他		
124	38	86	281	121	160	-	-	-	-	-	-	-	-	41.4	43.8	39.6	31.1	25.9	35.0	12.5	15.6	10.1	総合学科		
183	101	82	295	170	125	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8	7.7	8.0	17.6	15.5	21.1	39.3	43.2	32.9	定時制計		
115	52	63	185	98	87	-	-	-	-	-	-	-	-	8.6	8.4	9.0	15.8	14.2	18.0	40.1	45.6	32.2	普通		
1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15.6	20.0	8.3	25.0	20.0	33.3	53.1	55.0	50.0	農業		
13	13	-	11	10	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2.1	2.2	-	6.4	6.6	-	53.2	52.7	66.7	工業		
-	-	-	6	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.7	-	20.0	46.7	60.0	20.0	商業		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	水産		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	家庭		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	看護		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	情報		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	福祉		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	その他		
54	36	18	93	59	34	-	-	-	-	-	-	-	-	7.0	7.6	6.0	23.8	21.2	28.0	33.4	33.5	33.3	総合学科		

：偏差値55以上

番号	学校名	都道府県	設置	回収数	偏差値	受験意欲	入学意欲	2016～2018 薬学部進学	2016	2017	2018
1	鶴見大学附属高等学校	神奈川県	私立	100	58	10	6	11	7	3	1
2	聖コゼフ高等学校	神奈川県	私立	56	35	1	0	2	0	2	0
3	アレセイア湘南高等学校	神奈川県	公立	29	55	13	10	8	5	1	2
4	法政大学国際高等学校	神奈川県	私立	48	68	0	0	2	0	0	2
5	神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校	神奈川県	公立	38	64	1	0	19	6	7	6
6	神奈川県立平塚中等教育学校	神奈川県	公立	145	57	5	3	18	10	1	7
7	神奈川県立有馬高等学校	神奈川県	公立	301	52	10	5	8	0	5	3
8	神奈川県立大磯高等学校	神奈川県	公立	40	58	0	0	15	5	8	2
9	神奈川県立水取沢高等学校	神奈川県	公立	343	55	12	7	15	6	8	1
10	神奈川県立伊勢原高等学校	神奈川県	公立	38	46	2	2	2	1	0	1
11	神奈川県立七里ヶ浜高等学校	神奈川県	公立	39	60	1	1	13	4	2	7
12	緑ヶ丘女子高等学校	神奈川県	私立	13	51	2	1	1	0	1	0
13	神奈川県立舞岡高等学校	神奈川県	公立	85	50	6	4	5	2	2	1
14	加藤学園高等学校	神奈川県	私立	34	55	1	0	4	2	0	2
15	相模原高等学校	神奈川県	公立	107	68	3	3	32	4	14	14
16	捜真女学校高等部	神奈川県	私立	147	55	9	8	15	4	8	3
17	神奈川県立座間総合高等学校	神奈川県	公立	37	43	1	1	1	0	1	0
18	湘南学院高等学校	神奈川県	私立	61	58	5	3	16	4	3	9
19	神奈川県立相模原総合高等学校	神奈川県	公立	221	43	1	1	2	0	0	2
20	関東学院六浦高等学校	神奈川県	私立	62	52	4	4	7	0	6	1
21	三浦学苑高等学校	神奈川県	私立	158	53	5	4	7	2	3	2
22	向上高等学校	神奈川県	私立	168	59	6	3	30	6	14	10
23	市立金沢高等学校	神奈川県	公立	36	63	1	1	25	6	11	8
24	神奈川県立麻溝台高等学校	神奈川県	公立	162	58	8	7	7	1	2	4
25	神奈川県立鶴見高等学校	神奈川県	公立	296	58	9	7	22	6	13	3
26	神奈川県立横浜平沼高等学校	神奈川県	公立	38	66	1	0	36	17	10	9
27	神奈川県立西湘高等学校	神奈川県	公立	31	56	1	1	31	6	8	17
28	神奈川県立泰野高等学校	神奈川県	公立	37	61	2	0	33	7	10	16
29	神奈川県立港北高等学校	神奈川県	公立	38	59	1	0	5	3	1	1
30	神奈川県立二宮高等学校	神奈川県	公立	258	43	9	9	0	0	0	0
31	神奈川県立鎌倉高等学校	神奈川県	公立	78	66	2	0	18	3	15	0
32	神奈川県立横浜南陵高等学校	神奈川県	公立	14	48	2	2	4	0	3	1
33	神奈川県立厚木高等学校	神奈川県	公立	76	69	2	1	46	11	22	13
34	横浜市立南高等学校	神奈川県	公立	34	61	6	9	4	6	9	4
35	神奈川県立大和高等学校	神奈川県	公立	94	66	1	1	40	11	17	12
36	神奈川県立金井高等学校	神奈川県	公立	107	53	8	5	5	0	0	5
37	神奈川県立伊志田高等学校	神奈川県	公立	76	55	3	2	13	6	4	3
38	藤沢翔陵高等学校	神奈川県	私立	30	53	3	2	2	1	0	1
39	相洋高等学校	神奈川県	私立	146	59	7	6	10	7	0	3
40	神奈川県立大和南高等学校	神奈川県	公立	94	44	0	0	4	1	0	3
41	神奈川県立厚木東高等学校	神奈川県	公立	113	53	5	4	3	1	1	1

42	市立横須賀総合高等学校	神奈川県	公立	74	53	2	1	7	4	3	0
43	横浜清風高等学校	神奈川県	私立	394	50	10	8	24	7	10	7
44	横浜隼人高等学校	神奈川県	私立	68	61	5	4	39	12	22	5
45	湘南工科大学附属高等学校	神奈川県	私立	90	59	4	2	29	3	16	10
	小計	神奈川県				190	138	640	187	266	202
46	静岡県立掛川東高等学校	静岡県	公立	36	51	2	1	0	0	0	0
47	沼津市立沼津高等学校	静岡県	公立	36	50	2	1	0	0	0	0
48	磐田北高等学校	静岡県	公立	40	50	2	2	0	0	0	0
49	静岡県立稲取高等学校	静岡県	公立	68	42	1	1	0	0	0	0
50	静岡英和女学院高等学校	静岡県	私立	27	42	2	1	1	1	0	0
51	静岡女子高等学校	静岡県	私立	20	40	0	0	0	0	0	0
52	静岡県常葉大学附属菊川高等学校	静岡県	私立	30	57	0	0	5	0	4	1
53	藤枝順心高等学校	静岡県	私立	29	42	1	0	0	0	0	0
54	城南静岡高等学校	静岡県	私立	15	44	0	0	2	0	2	0
55	静岡県立三島北高等学校	静岡県	公立	284	63	1	1	8	2	0	6
56	飛龍高等学校	静岡県	私立	45	44	1	1	0	0	0	0
57	静岡県立裾野高等学校	静岡県	公立	178	42	1	1	0	0	0	0
58	日本大学三島高等学校	静岡県	私立	64	61	1	1	13	10	0	3
59	静岡県立下田高等学校	静岡県	公立	217	60	0	0	3	0	1	2
60	島田樟誠高等学校	静岡県	私立	64	47	0	0	0	0	0	0
61	富士学苑高等学校	静岡県	私立	30	60	0	0	0	0	0	0
62	加藤学園暁秀高等学校	静岡県	私立	64	62	2	1	15	3	2	10
	小計	静岡県				16	11	47	16	9	22
63	立正大学附属立正高等学校	東京都	私立	51	59	1	1	22	8	4	10
	小計	東京都				1	1	22	8	4	10
64	長野県飯田高等学校	長野県	公立	143	65	7	3	1	1	0	0
65	長野県飯田風越高等学校	長野県	公立	37	55	2	2	0	0	0	0
66	長野県諏訪二葉高等学校	長野県	公立	75	57	0	0	1	0	0	1
67	長野市立長野高等学校	長野県	公立	59	51	1	0	2	2	0	0
	小計	長野県				10	5	4	3	0	1
68	山梨県立吉田高等学校	山梨県	公立	90	66	4	3	9	8	0	1
	小計	山梨県				4	3	9	8	0	1
	合計					221	158	722	222	279	236 0

神奈川県	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2040年
① 18歳人口推計(人)	78,380	77,695	75,963	75,600	77,740	78,297	77,621	76,583	76,796	76,000	75,477	74,320	72,996	73,475	61,879
② 大学進学率推計(%)	54.7	54.8	54.9	54.9	55.0	55.1	55.2	55.3	55.3	55.4	55.5	55.6	55.7	55.8	56.3
③ 大学進学者推計(人)	42,874	42,577	41,704	41,504	42,757	43,142	42,847	42,350	42,468	42,104	41,890	41,322	40,659	40,999	34,848
④ 神奈川県内高校卒業生の薬学部進学する者の推計(人)	857	830	813	809	834	841	836	826	828	821	817	806	793	799	680
⑤ 本学薬学部入学定員130人に対する④の倍率	6.6	6.4	6.3	6.2	6.4	6.5	6.4	6.4	6.4	6.3	6.3	6.2	6.1	6.1	5.2
⑥ 神奈川県内高校卒業生の神奈川県内大学への入学者数推計(人)	15,820	15,711	15,389	15,315	15,777	15,919	15,810	15,627	15,671	15,536	15,457	15,248	15,003	15,129	12,859
⑦ 県内高校卒業生が県内の薬学部に進学する者の推計(人)	316	306	300	299	308	310	308	305	306	303	301	297	293	295	251
⑧ 本学薬学部入学定員130人に対する⑦の倍率	2.4	2.4	2.3	2.3	2.4	2.4	2.4	2.3	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	1.9

注釈)

- ①の考え方は、2021年は2017年度中学校及び中等教育学校前期課程の3年生並びに義務教育学校の9学年の数(神奈川県学校基本調査)  
2022年は2017年度中学校及び中等教育学校前期課程の2年生並びに義務教育学校の8学年の数(神奈川県学校基本調査)  
2023年は2017年度中学校及び中等教育学校前期課程の1年生並びに義務教育学校の7学年の数(神奈川県学校基本調査)  
2024年は2017年度小学校及び義務教育学校の6年生の数(神奈川県学校基本調査)  
2025年は2017年度小学校及び義務教育学校の5年生の数(神奈川県学校基本調査)  
2026年は2017年度小学校及び義務教育学校の4年生の数(神奈川県学校基本調査)  
2027年は2017年度小学校及び義務教育学校の3年生の数(神奈川県学校基本調査)  
2028年は2017年度小学校及び義務教育学校の2年生の数(神奈川県学校基本調査)  
2029年は2017年度小学校及び義務教育学校の1年生の数(神奈川県学校基本調査)  
2030年は2011年度に生まれた者の数(厚生労働省 人口動態統計)  
2031年は2012年度に生まれた者の数(厚生労働省 人口動態統計)  
2032年は2013年度に生まれた者の数(厚生労働省 人口動態統計)  
2033年は2014年度に生まれた者の数(厚生労働省 人口動態統計)  
2034年は2015年度に生まれた者の数(厚生労働省 人口動態統計)

②大学への進学者数の将来推計について(文部科学省資料) 資料内都道府県別男女別大学進学率(実績・推計値) 神奈川県の進学率を抜粋

③上記②の進学率に①の18歳人口に乗じて各年度の大学進学者数を推計した。

④学生確保の見通し等を記載した書類P4②神奈川県内高校生の入学志願者動向にある、令和元年度学校基本調査による薬学部進学者数(全国)から予測する県内高校卒業生が薬学部に入學している割合が2%であるため、③の値に2%を乗じて薬学部進学者を推計した。但し、2022年度からは、各年度の値に、過去3年間の薬学部進学率の平均伸び率(-2.5%)を乗じている。

参考資料:私立大学・短期大学等入学志願動向(平成30年度・平成31年度 日本私立学校振興・共済事業団)  
薬学部入学者数(全国):平成29年度11,482人、平成30年度10,949人、令和元年度10,613人(3年間で869人減、-7.5%)

⑥上記③の値に、2019年度の神奈川県内の高校を卒業して県内の大学に進学した割合(36.9%)を各年度乗じた値である。

⑦上記④の値に、⑥と同様の割合(36.9%)を乗じた値である。



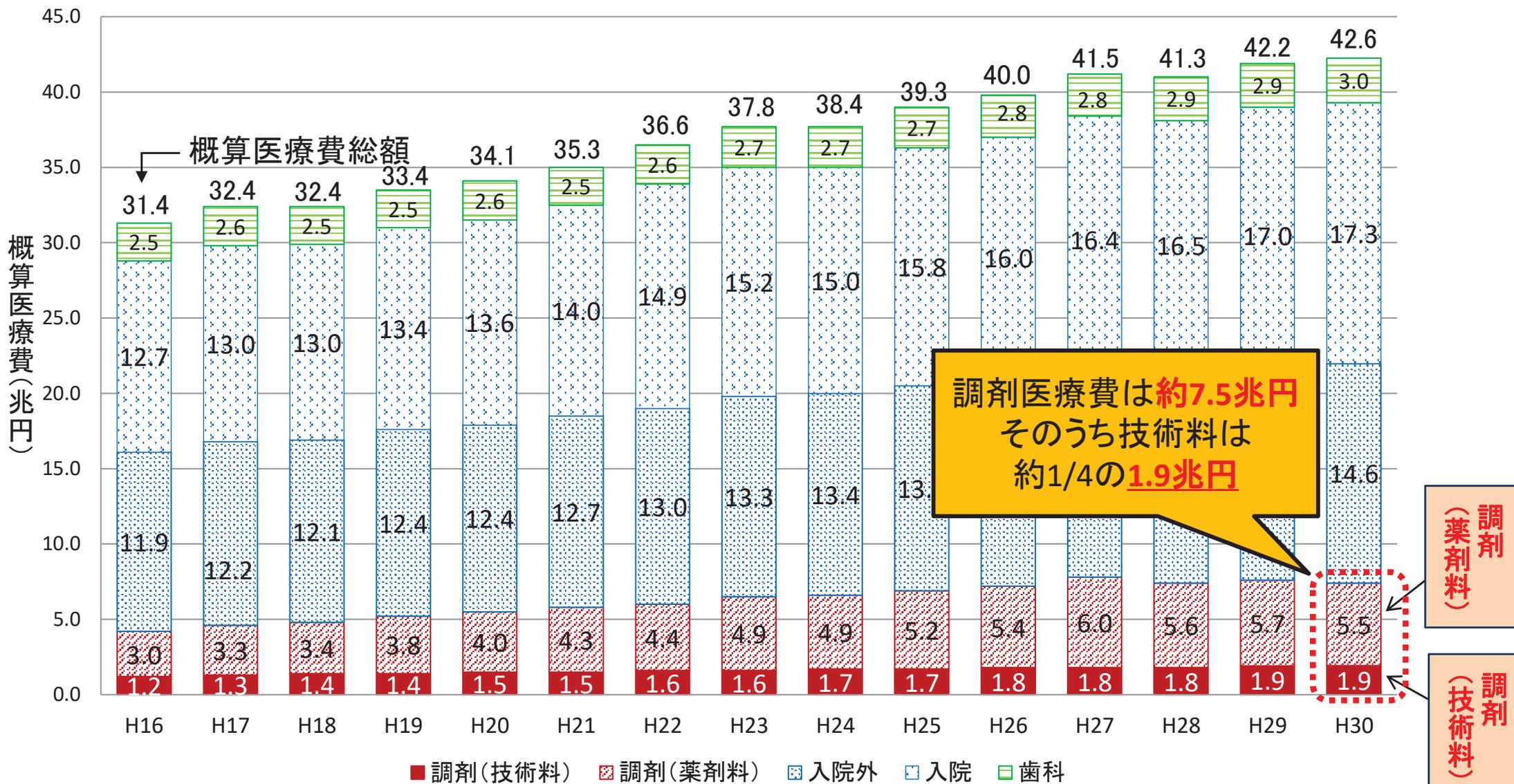
募集年度	学科	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者数	志願倍率	実質倍率
2016	看護学科	80	516	493	116	82	6.45	4.25
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	40	323	304	47	43	8.08	6.47
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	40	120	115	61	43	3.00	1.89
	計	160	959	912	224	168	5.99	4.07
2017	学科	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者数	志願倍率	実質倍率
	看護学科	80	428	415	221	102	5.35	1.88
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	40	304	298	58	46	7.60	5.14
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	40	97	96	75	42	2.43	1.28
	計	160	829	809	354	190	5.18	2.29
2018	学科	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者数	志願倍率	実質倍率
	看護学科	80	536	492	131	85	6.70	3.76
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	40	266	256	50	43	6.65	5.12
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	40	147	140	51	43	3.68	2.75
	計	160	949	888	232	171	5.93	3.83
2019	学科	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者数	志願倍率	実質倍率
	看護学科	80	516	492	133	84	6.45	3.70
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	40	269	261	56	45	6.73	4.66
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	40	98	95	68	41	2.45	1.40
	計	160	883	848	257	170	5.52	3.30
2020	学科	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者数	志願倍率	実質倍率
	看護学科	80	482	490	141	82	6.03	3.48
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	40	276	264	64	40	6.90	4.13
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	40	107	96	71	41	2.68	1.35
	計	160	865	850	276	163	5.41	3.08

過去5年 平均	学科	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者数	志願倍率	実質倍率
	看護学科	80	496	476	148	87	6.20	3.41
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	40	288	277	55	43	7.19	5.10
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	40	114	108	65	42	2.85	1.73
	計	160	897	861	269	172	5.61	3.31



# 調剤医療費の推移

- 平成30年度の概算医療費は約42.6兆円であった。
- 調剤医療費は約7.5兆円で、その内訳は、薬剤料が約5.5兆円、技術料が約1.9兆円であった。



調剤医療費は約7.5兆円  
そのうち技術料は  
約1/4の1.9兆円

(調剤) (薬剤料)

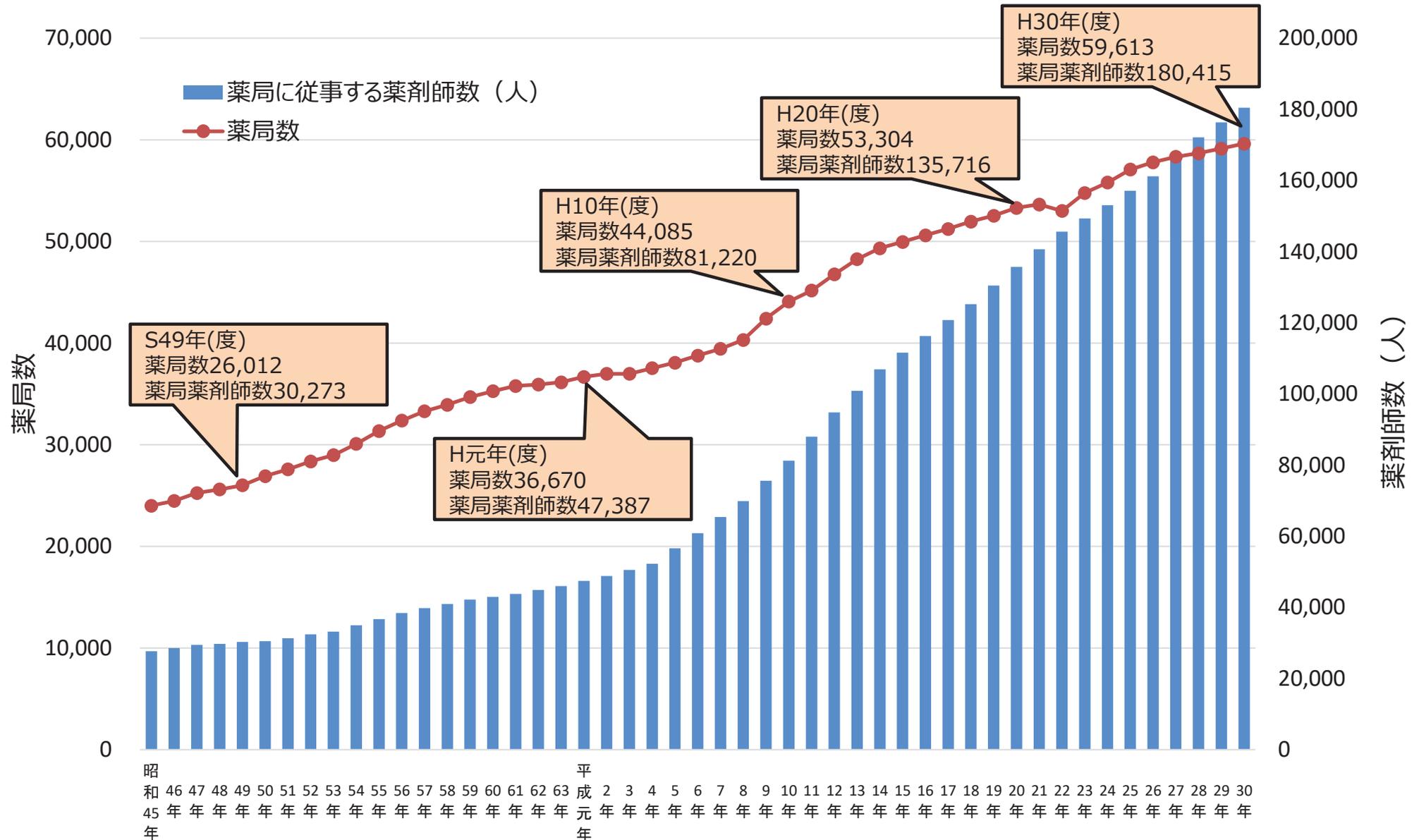
(調剤) (技術料)

※医科(入院外、入院)及び歯科には、薬剤料が含まれる。



# 薬局薬剤師数と薬局数の推移

- 処方箋受取率の増加に伴い、薬局数と薬局に従事する薬剤師数は増加傾向である。
- 平成30年度末における薬局数は59,613、平成30年末現在の薬局薬剤師数は18万人となっている。



※平成22年度の薬局数は宮城県と福島県相双保健福祉事務所管轄内の市町村を含まない。

※薬局薬剤師数については、医師・歯科医師・薬剤師統計の調査年以外の年は、前後の年の平均値としている。

(出典) 医師・歯科医師・薬剤師統計(年末現在)、衛生行政報告例(年度末)







# 薬局・医療施設に従事する薬剤師数の推移

○ 薬局の薬剤師数が大きく増加している。

